

第4章 地区別の公共施設の現状

第4章 地区別の公共施設の現状

伊丹市には17の小学校区があります。小学校区を地域コミュニティの単位と捉え、地区ごとの公共施設の配置と量、種類、今後の施設更新に必要な額などをまとめました。

本章記載の地区別の市民アンケートの調査結果は、平成20年3月に行った「伊丹市都市経営戦略調査研究業務（都市機能・土地利用計画）報告書」に基づいています。

(1) 伊丹小学校区

1. 位置・概況



位置： 伊丹地域は市域中央部に位置しています。

交通： 地域の中央を南北に県道尼崎池田線、東西に県道伊丹豊中線、県道寺本伊丹線、県道阪急伊丹停車場線が走っています。また、地域南部に阪急伊丹線伊丹駅があります。

土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっていますが、地域北部の県道尼崎池田線の東側に工業系土地利用、阪急伊丹駅周辺に商業系の土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口

19,427 人 平成21年 現在

市全体（+1.7%）が横ばい傾向にある中、増加傾向（+7.6%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中4番目と上位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,787	14.3%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	13,202	68.0%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	3,438	17.7%	増加傾向
計	19,427	100%	増加傾向

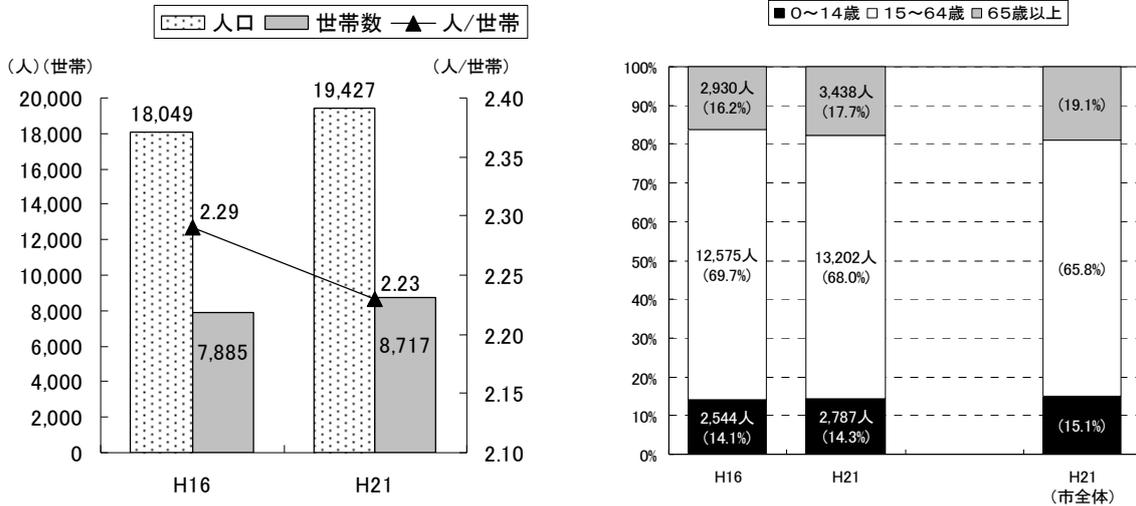
高齢人口割合は17.7%と、市平均の19.1%と比べて若干低く、17地域中、11番目と中位にあります。

伊丹小学校区

② 世帯数 8,717 世帯 平成21年 現在

平均： 2.23 人/世帯

市全体（+6.0%）と比べて増加傾向（+10.6%）にありますが、1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。



③ 人口密度 114 人/ha

市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

いたみホール、美術館、伊丹アイフォニックホール等の公共施設があります。

① 学校教育施設

伊丹小学校、北中学校、伊丹幼稚園があります。

② 共同利用施設等

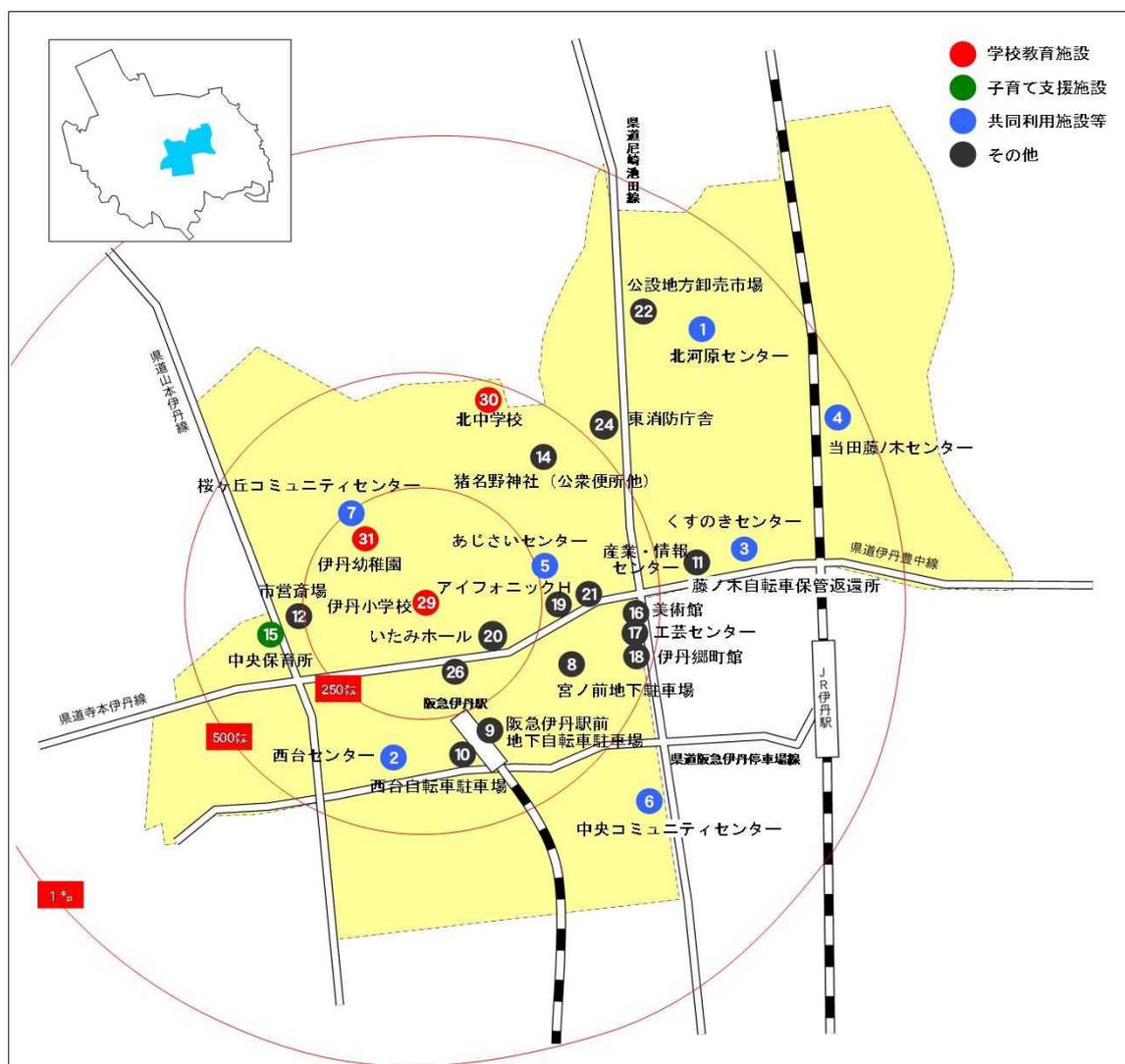
伊丹小学校区内には、計7箇所の共同利用施設等があります。

③ その他の施設

「みやのまえ」地区を中心に、市立美術館や文化会館、音楽ホールなどの文化施設が集積しています。新たな市立図書館の本館も当地区に移転する予定です。

北東部に公設卸売市場、西部に市営斎場があります。また、伊丹小学校内に図書館の分室があります。

伊丹小学校区



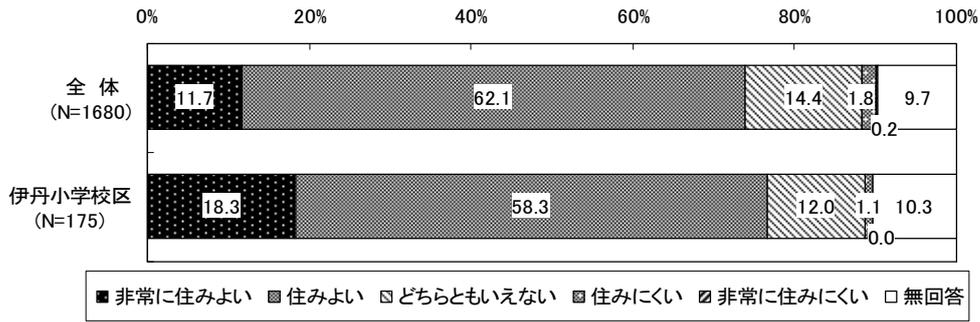
4. 学区の特徴

歴史的資源（主な指定文化財）として、旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅、法蔵寺の大クス、猪名野神社のムクロジがあります。公園は、主基公園、梅園公園、一ツ橋公園等があります。

伝統行事等として、宮前まつりや猪名野神社のだんじりが有名です。まちづくり活動等としては、伊丹ふれあい夏まつりなど、地域交流などのふれあい活動が活発に行われているほか、景観形成重点区域（伊丹郷町地区）が指定されているとともに、「まち」を創りだす会や宮ノ前緑地を育てる会などの活動があります。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよい」と思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）が76.6%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。

伊丹小学校区



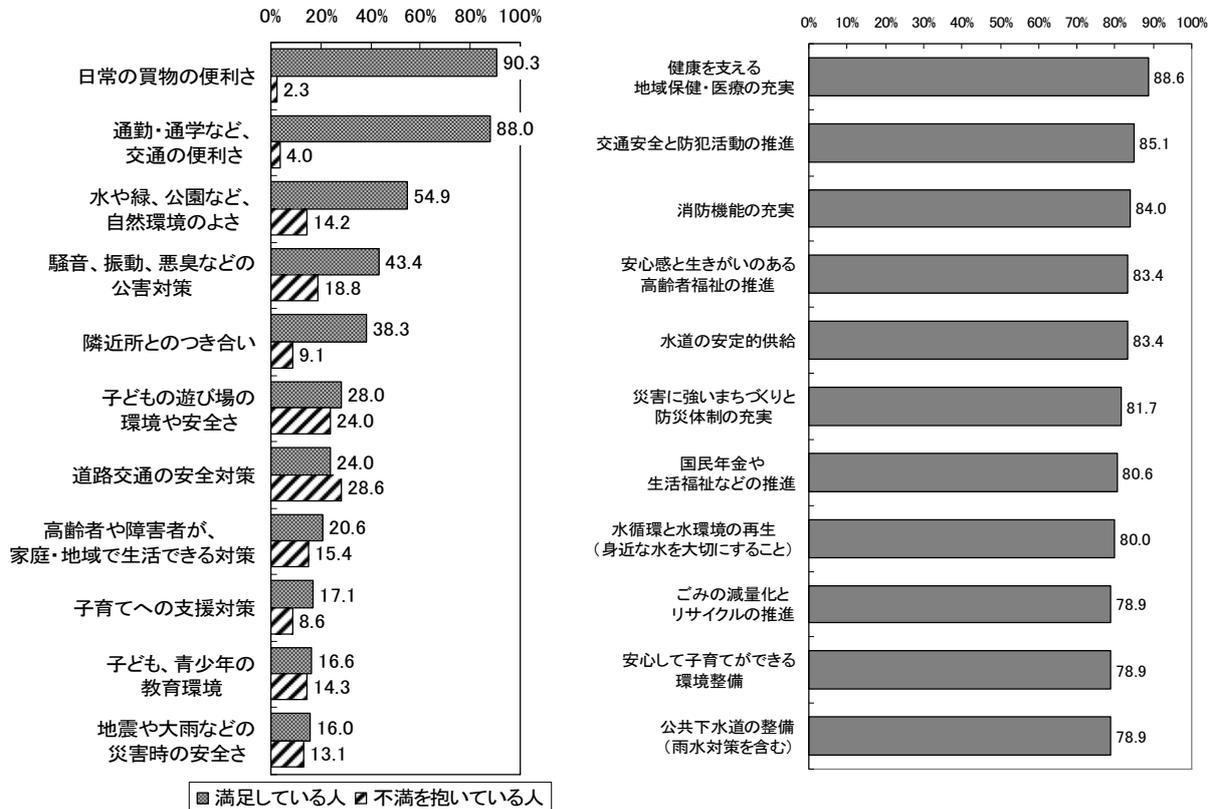
■ 地区の環境に満足な点上位3

	伊丹小学校区 (N=175)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	伊丹小学校区 (N=175)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	子どもの遊び場の環境や安全さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度

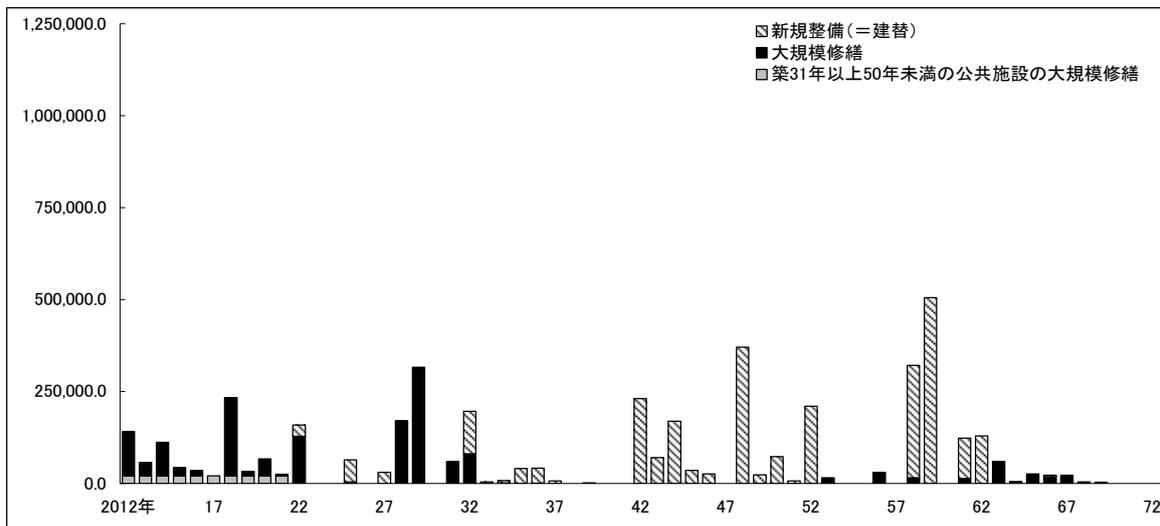


同アンケート結果によると、当学区は買物や通学の便利さが評価されている一方、交通安全の対策や子供の安全な遊び場の確保に不満を持っている人が多いことがわかります。

重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替える想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



伊丹小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約3.71㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると高くなっています。今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約174.9億円、新規整備(建替え)に約260.8億円が必要な見込みです。

これは、美術館や文化会館、音楽ホール、新設の図書館など、大型の施設が集積しているためです。当学区には市内全域からの来場、あるいは市外からの来場も前提としている施設があり、これらが老朽化した際には、建物の存続とその建物に係る事業の存続も含め、検討が必要になります。

(2) 稲野小学校区

1. 位置・概況



位置： 稲野地域は市域中央からやや西に位置しています。
 交通： 地域を南北に県道米谷昆陽尼崎線、県道寺本川西線が、東西に国道171号、県道寺本伊丹線が走っています。
 土地利用： 地域の西部で県道米谷昆陽尼崎線と国道171号に囲まれた地区に、工業用の土地利用が広がり、国道171号沿いでは商業系の土地利用が見られます。国道171号以南では、大半が住宅用地になっています。

2. 人口・世帯数・人口密度等

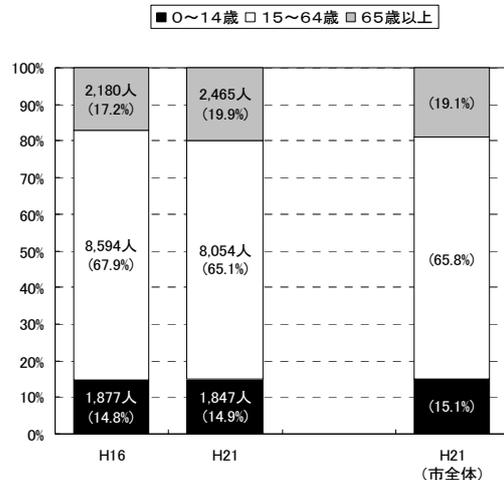
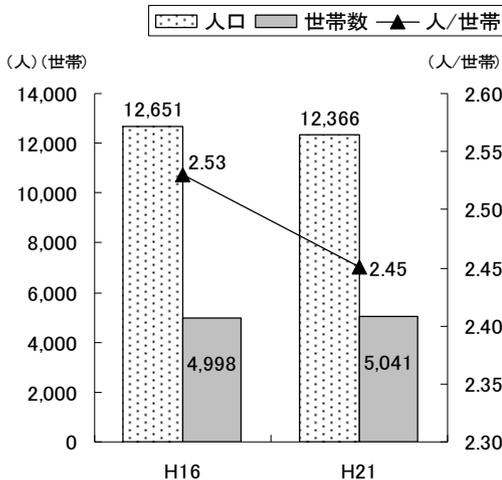
① 人口

12,366 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干減少傾向（▲2.3%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中11番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,847	14.9%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	8,054	65.1%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,465	19.9%	減少傾向
計	12,366	100%	減少傾向



② 共同利用施設等

稲野小学校区内には、計3箇所の共同利用施設等があります。

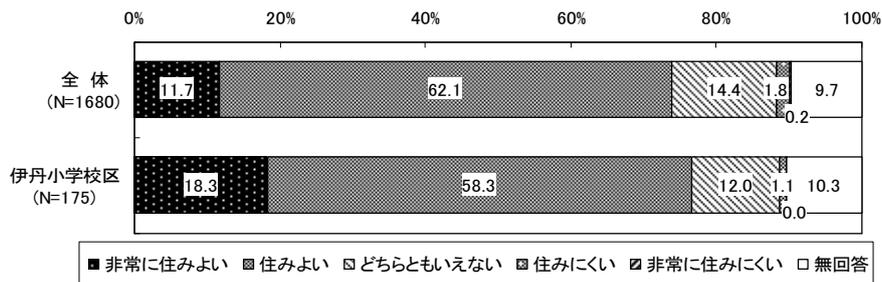
③ その他の施設

市庁舎、図書館、博物館、中央公民館のほかに、伊丹病院、昆虫館、障害者福祉センター（アイ愛センター）、保健センター、労働福祉会館（スワンホール）、水道局、消防局など多くの公共施設が集積しています。

4. 学区の特徴

公園は、昆陽池公園や、千僧公園、西善寺公園等があります。伝統行事等としては、スポーツクラブ21の地域交流活動やさくらまつり、いたみ緑化フェア&物産フェア、ボランティアまつり・農業祭、だんじりが、大きな特色となっています。まちづくり活動等としては、景観形成重点区域（旧西国街道地区）が指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が74.1%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



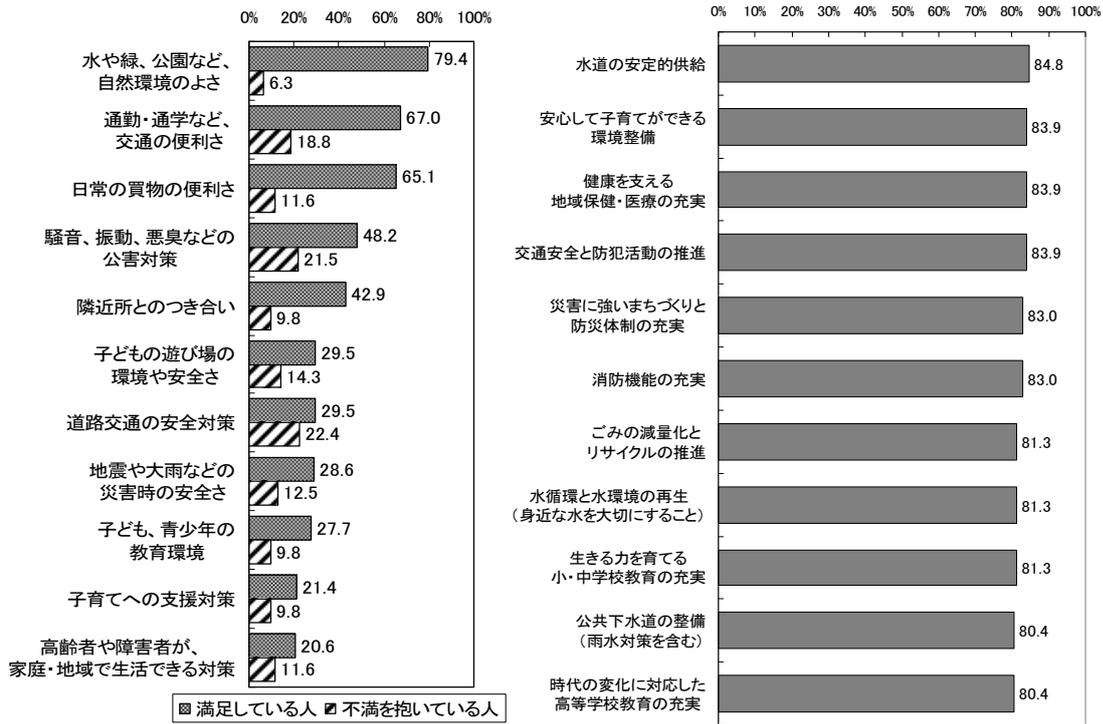
■ 地区の環境に満足な点上位3

	稲野小学校区 (N=112)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	日常の買物の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	稲野小学校区 (N=112)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる 対策

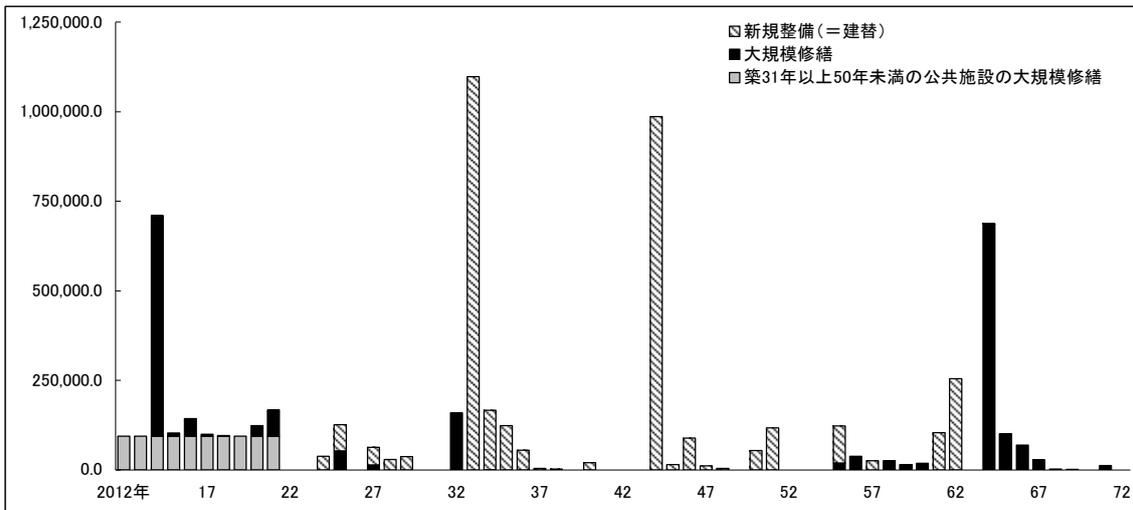
■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、通勤・通学など交通の便利さ、日常の買い物の便利さが評価されています。一方、道路交通の安全対策や騒音、振動、悪臭などの公害対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

重視している政策では水道の安定的供給が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用



稲野小学校区

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測です。

稲野小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約7.28㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると高くなっています。稲野小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約297.0億円、新規整備（建替え）に約346.4億円が必要な見込みです。

これは、市の中核機能である市役所本庁舎や、市立病院などの大型施設が含まれるためです。

伊丹市庁舎については、耐震も兼ねた大規模改修と建替えの際の支出シミュレーションを行ったうえで、大規模改修はせず、新規に建替えするのが効率的であるとされています。

(3) 南小学校区

1. 位置・概況



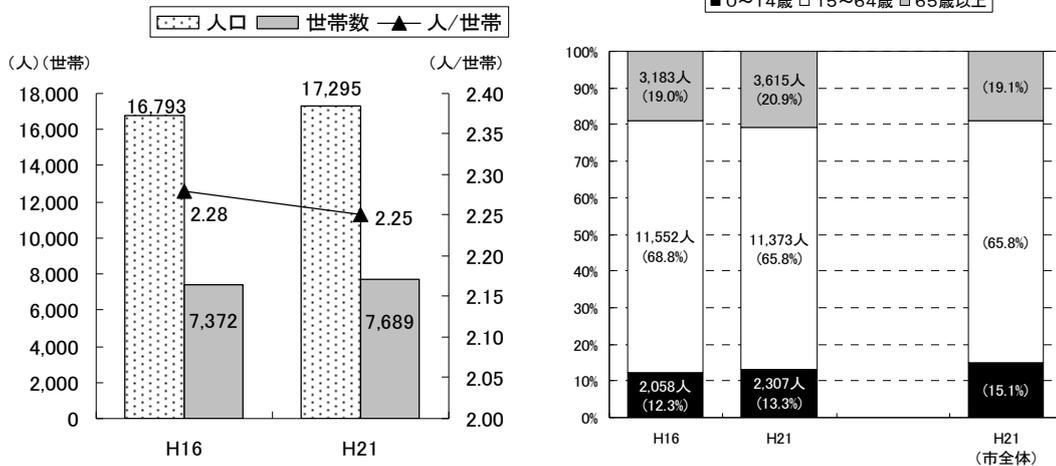
- 位置： 南小学校区は市域南端に位置し、南は尼崎市に面しています。
- 交通： 鉄道は阪急線「新伊丹」駅と「稲野」駅があり、道路は南北に県道尼崎池田線、県道米谷昆陽尼崎線、県道山本伊丹線、東西に県道東富松御願塚線が走っています。
- 土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっており、主要地方道尼崎池田線沿道に工業系の土地利用が見られ、その一部では住居系の土地利用に転換が進んでいます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

- ① 人口 17,295 人 平成21年 現在
市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干増加傾向（3.0%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中7番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,307	13.3%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	11,373	65.8%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	3,615	20.9%	増加傾向
計	17,295	100%	増加傾向



南小学校区

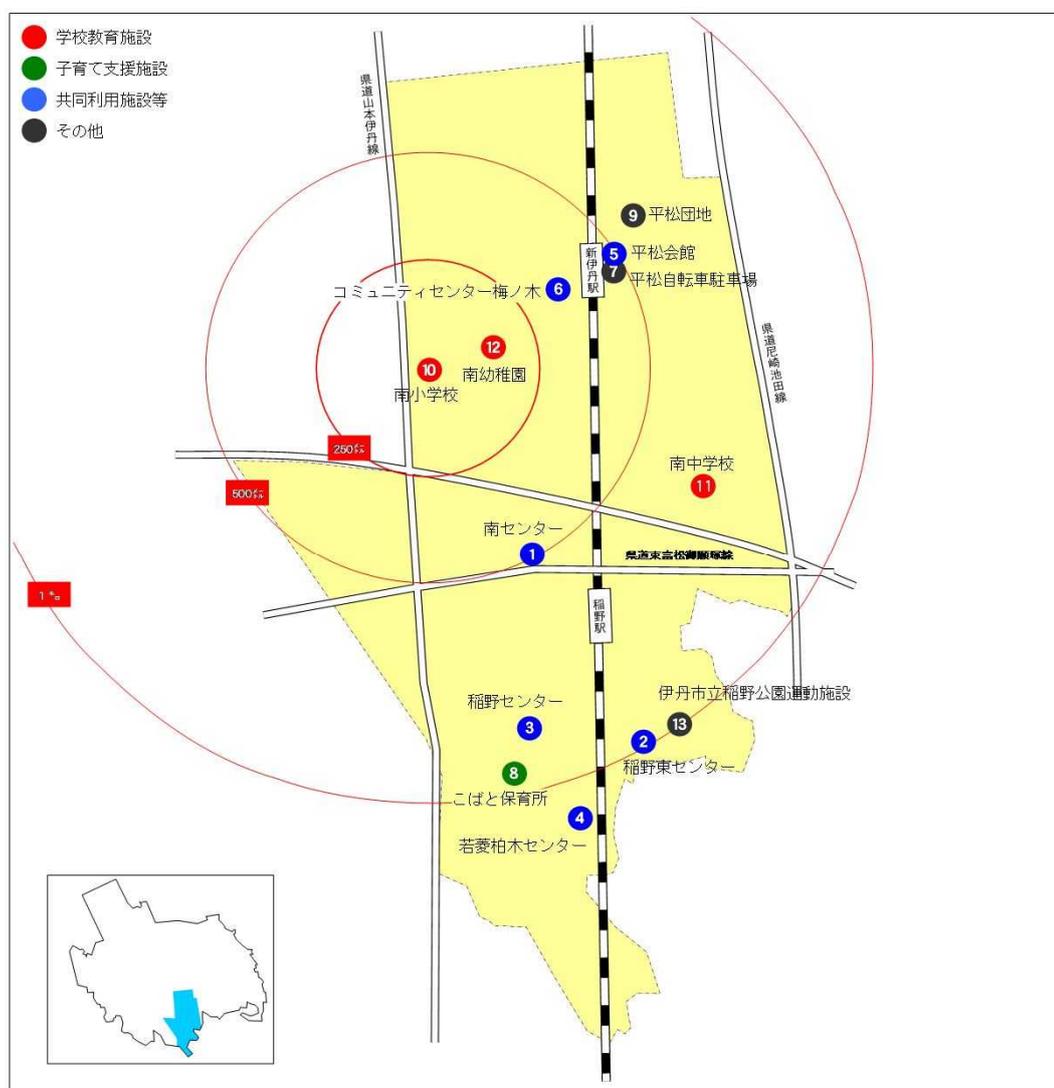
高齢人口割合は20.9%と、市平均の19.1%と比べて若干高く、17地域中5番目と上位にあります。

- ② 世帯数 7,689 世帯 平成21年 現在
平均： 2.25 人/世帯
市全体（+6.0%）と比べて若干増加傾向（+4.3%）にあります。
1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

- ③ 人口密度 122 人/ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

稲野公園運動施設、伊丹市市民課南分室等の公共施設があります。



- ① 学校教育施設
南小学校、南中学校、南幼稚園があります。

② 共同利用施設等

伊丹小学校区内には、計6箇所の共同利用施設等があります。

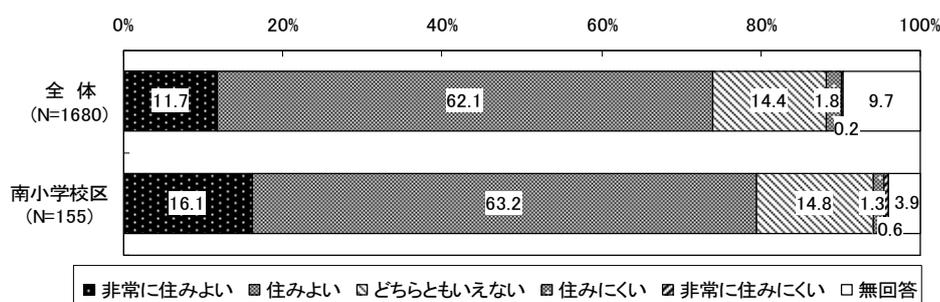
③ その他の施設

高等教育施設として、大手前大学いたみ稲野キャンパス、大手前短期大学があります。また、市営の平松団地があります。

4. 学区の特徴

公園は、運動施設のある稲野公園や、御願塚古墳史跡公園、新伊丹公園等があります。伝統行事等としては、須佐男神社のだんじりがあります。南小わくわくランドや南小地区フェスタ、三世代交流グラウンドゴルフ大会や、自主防災活動や清掃活動など、地域交流活動が年間を通じて行われています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が79.3%と評価は高くなっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	南小学校区 (N=155)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	通勤・通学など、交通の便利さ

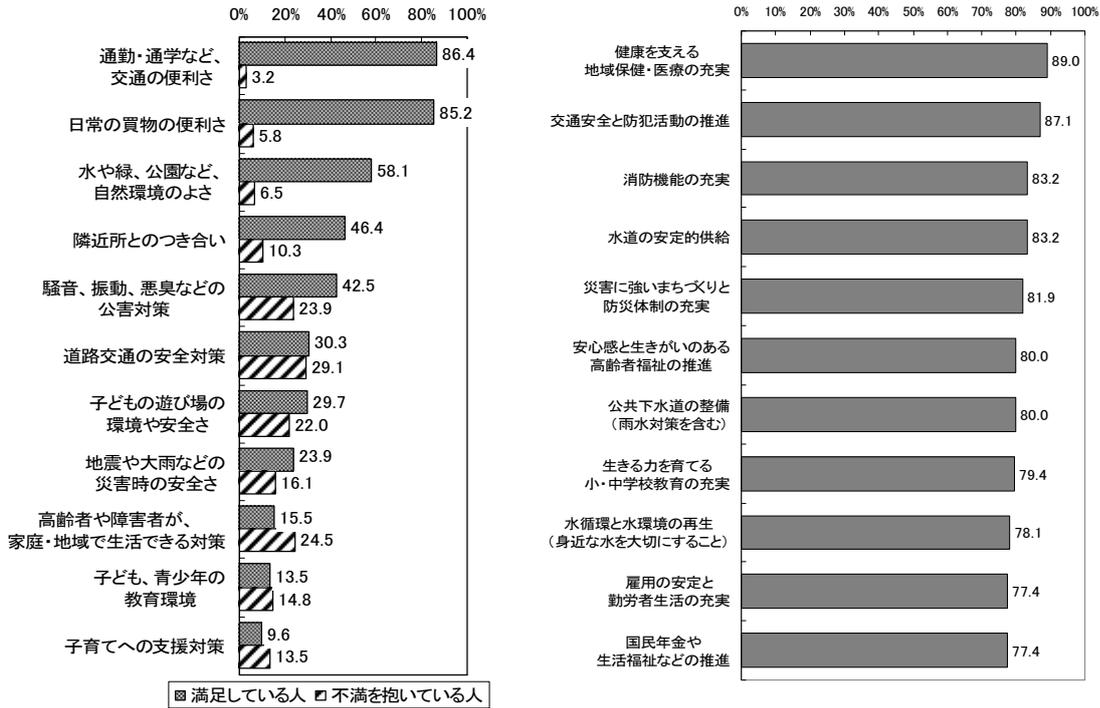
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	南小学校区 (N=155)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、通勤・通学など交通の便利さ、日常の買い物の便利さが評価されています。一方、道路交通の安全対策や高齢者や障害者が家庭・地域で生活できる対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

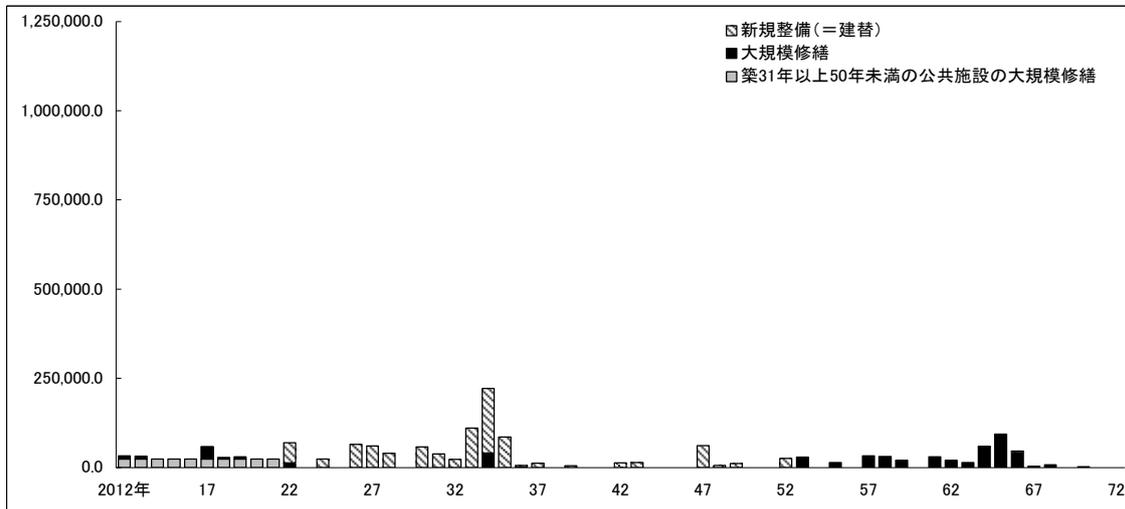
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替える想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



南小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.68㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べ低くなっています。今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約75.5億円、新規整備（建替え）に約89.9億円が必要な見込みです。

市内全域からの利用を前提とした施設が少なく、当学区内の公共施設の更新費用の予測値は小さくなっています。

(4) 神津小学校区

1. 位置・概況



位置： 神津地域は市域東端に位置し、東は池田市、豊中市、南は尼崎市に面しています。

交通： 地域の中央を東西に県道伊丹豊中線が走っています。地域東部に大阪国際空港があります。

土地利用： 空港周辺に工業用地が広がり、県道伊丹豊中線周辺で住宅や商業利用が見られます。区域の半分が大阪国際空港であり、宅地は猪名川の流域に広がっています。

2. 人口・世帯数・人口密度等

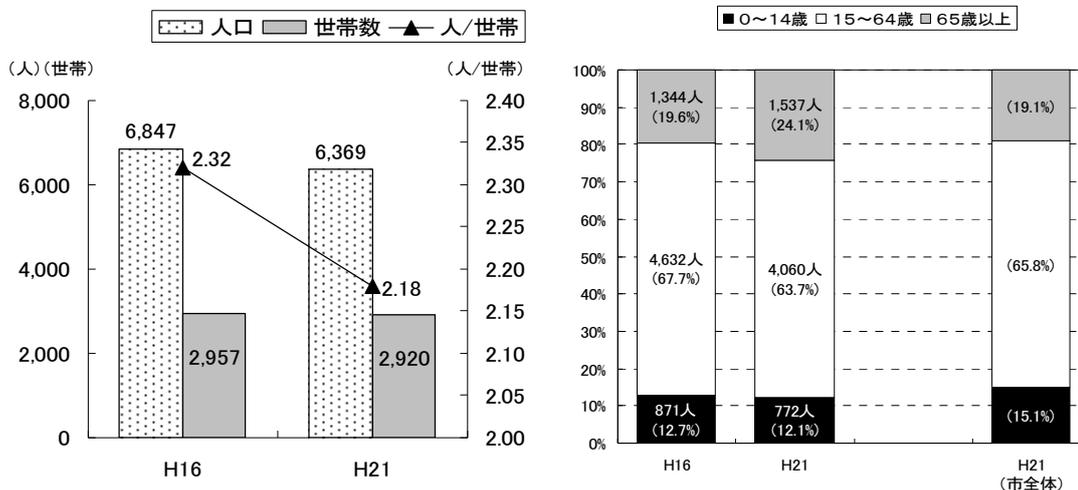
① 人口

6,369 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、減少傾向（▲7.0%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中16番目と下位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）	772	12.1%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）	4,060	63.7%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）	1,537	24.1%	減少傾向
計	6,369	100%	減少傾向



神津小学校区

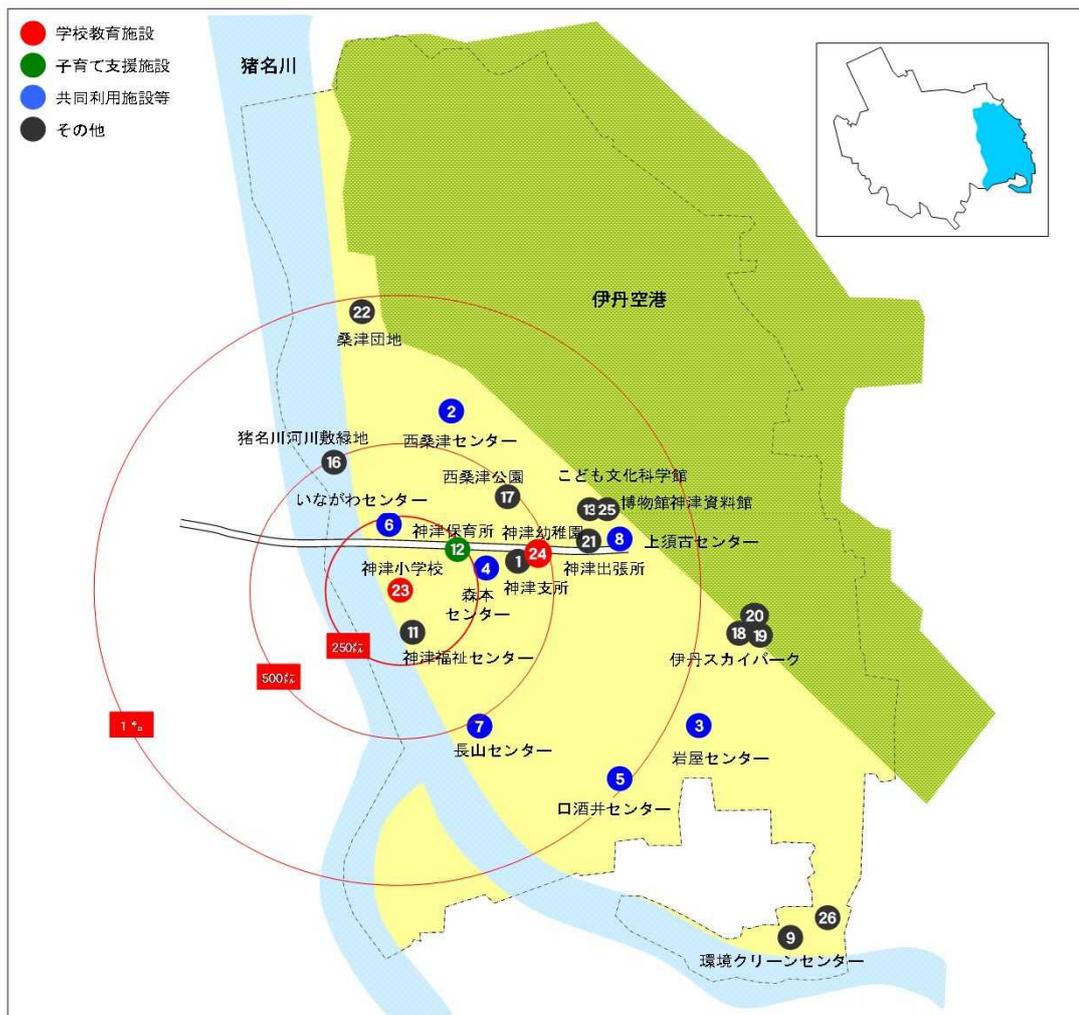
高齢人口割合は24.1%と、市平均の19.1%と比べて高く、17地域中、2番目と上位にあります。

- ② 世帯数 2,920 世帯 平成21年 現在
 平均： 2.18 人/世帯
 市全体(+6.0%)と比べて横ばい傾向(-1.3%)にあります。
 1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

- ③ 人口密度 14 人/ha
 市平均80人/haと比べて、低くなっています。

3. 主な公共施設等

図書館神津分室、伊丹スカイパーク、こども文化科学館、市役所神津支所等の公共施設があります。区域南東端に、豊中市と共同運営しているクリーンセンター及びクリーンランドがあります。



① 学校教育施設

神津小学校、神津幼稚園があります。中学校は北中学校区で、生徒は猪名川を渡って通学しています。

② 共同利用施設等

神津小学校区内には、計7箇所の共同利用施設等があります。

③ その他の施設

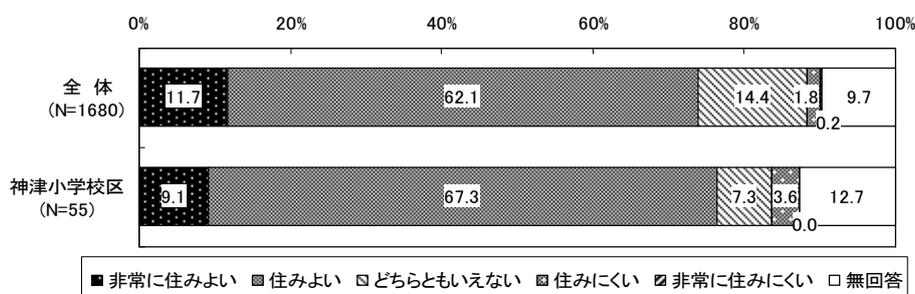
神津福祉センターや環境クリーンセンター、豊中市伊丹市クリーンランドなどがあります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、春日神社本殿や松源寺阿部備中守正次の墓があります。公園は、神津公園、西桑津公園、沢公園等があります。また、猪名川河川敷緑地、西桑津緑地、大阪国際空港周辺緑地が、地域に潤いを与えています。各神社のだんじりが、地域の伝統行事としての特色となっています。

まちづくり活動として、さわやかファミリースポーツや夏まつり、神津ふれあい広場など、三世代が交流できる事業に取り組まれています。また、ひょうたんの里づくりといった特色ある活動も行われています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が76.4%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



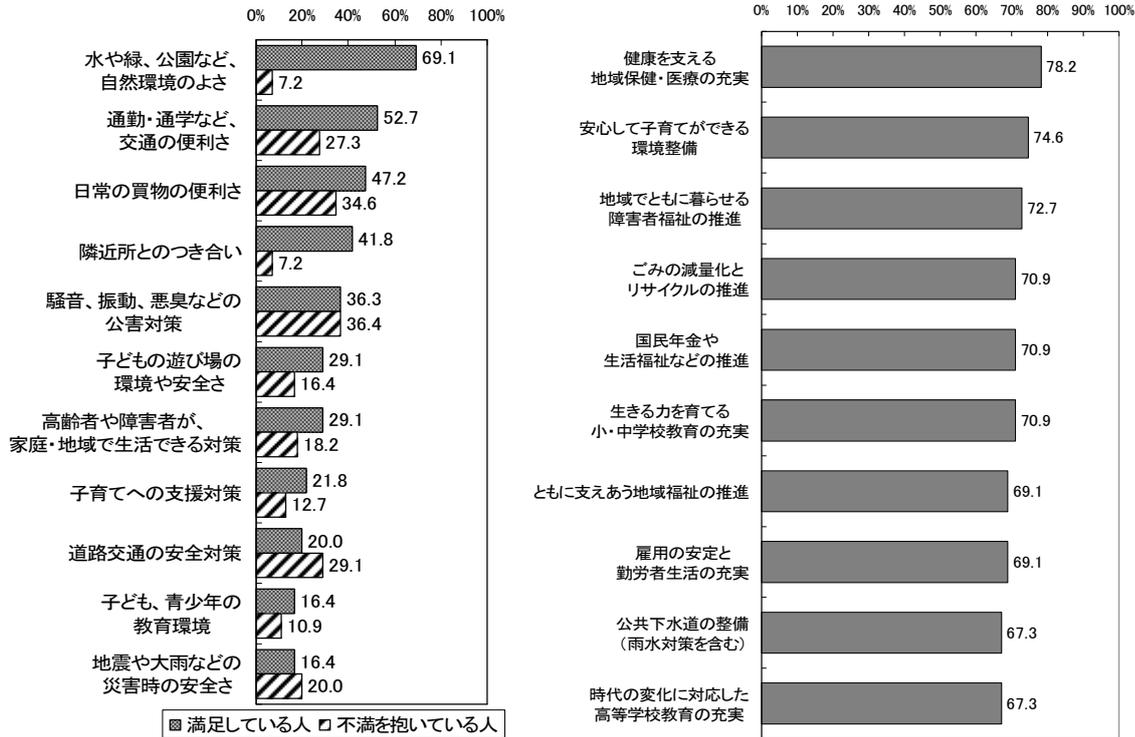
■ 地区の環境に満足な点上位3

	神津小学校区 (N=55)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	日常の買物の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	神津小学校区 (N=55)	市全体 (N=1680)
第1位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	道路交通の安全対策
第2位	日常の買物の便利さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	道路交通の安全対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度

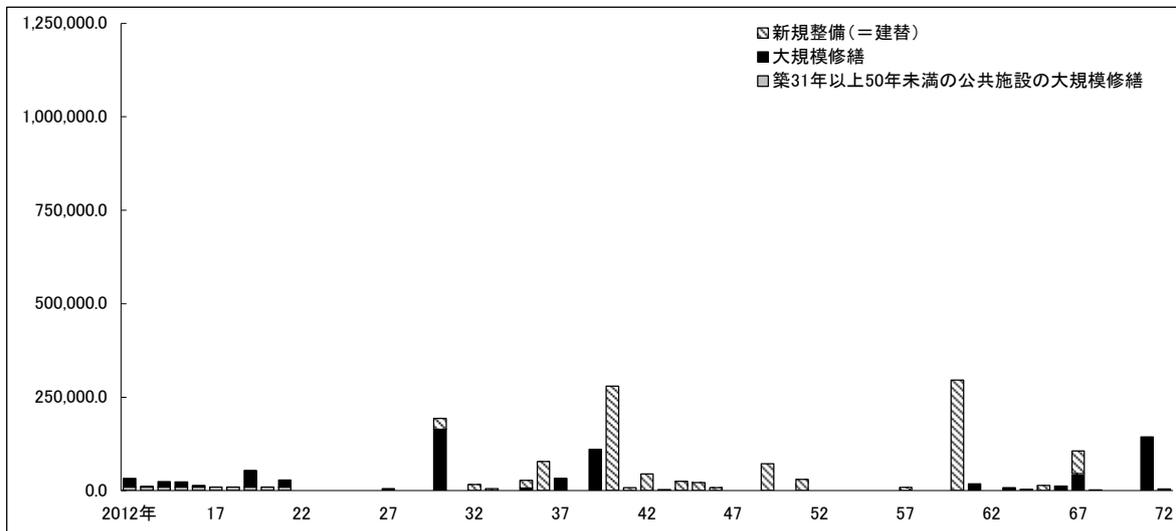


同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、通勤・通学など交通の便利さが評価されています。一方、騒音、振動、悪臭などの公害対策や日常の買物の便利さに不満を抱いている人が多いことがわかります。これは、大阪国際空港と森本地区の工業団地の影響と考えられます。

重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下ようになります。



神津小学校区

神津小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約5.53㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると高くなっています。これは、他の学区と比較して人口そのものが小さいためです。

神津小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約77.2億円、新規整備（建替え）に約102.5億円が必要な見込みで、他学区と比較して小さいとは言えません。

(5) 緑丘小学校区

1. 位置・概況



- 位置： 緑丘地域は市域北東部に位置し、北は宝塚市、東は池田市に面しています。
- 交通： 地域の中央を南北に県道尼崎池田線が、西端を県道山本伊丹線が走り、東西に国道171号が走っています。地域北部にJR福知山線北伊丹駅があります。
- 土地利用： 稲名川沿い及び国道171号沿いに工業系地域が広がっています。国道171号以南では住居系の土地利用が広がっており、国道171号沿道、県道山本伊丹線沿道に商業系の土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

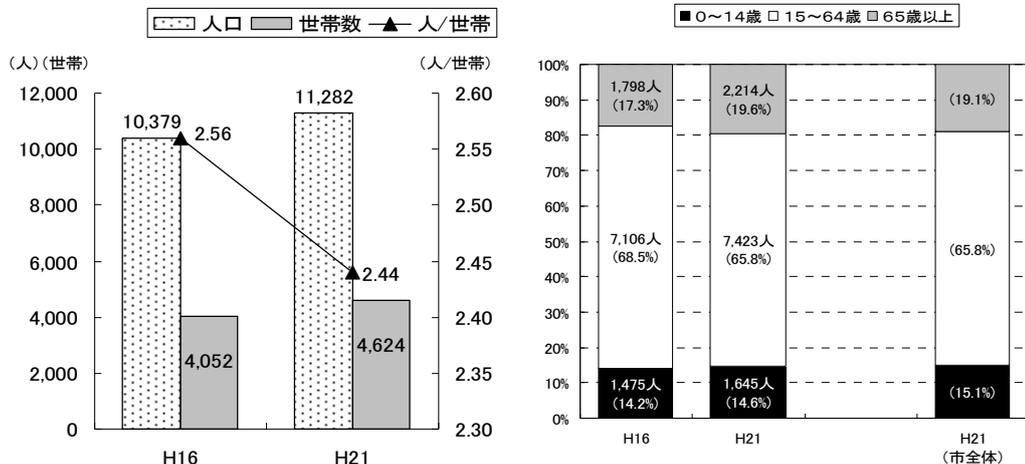
① 人口

11,282 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、増加傾向（8.7%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中3番目と上位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,645	14.6%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	7,423	65.8%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,214	19.6%	増加傾向
計	11,282	100%	増加傾向



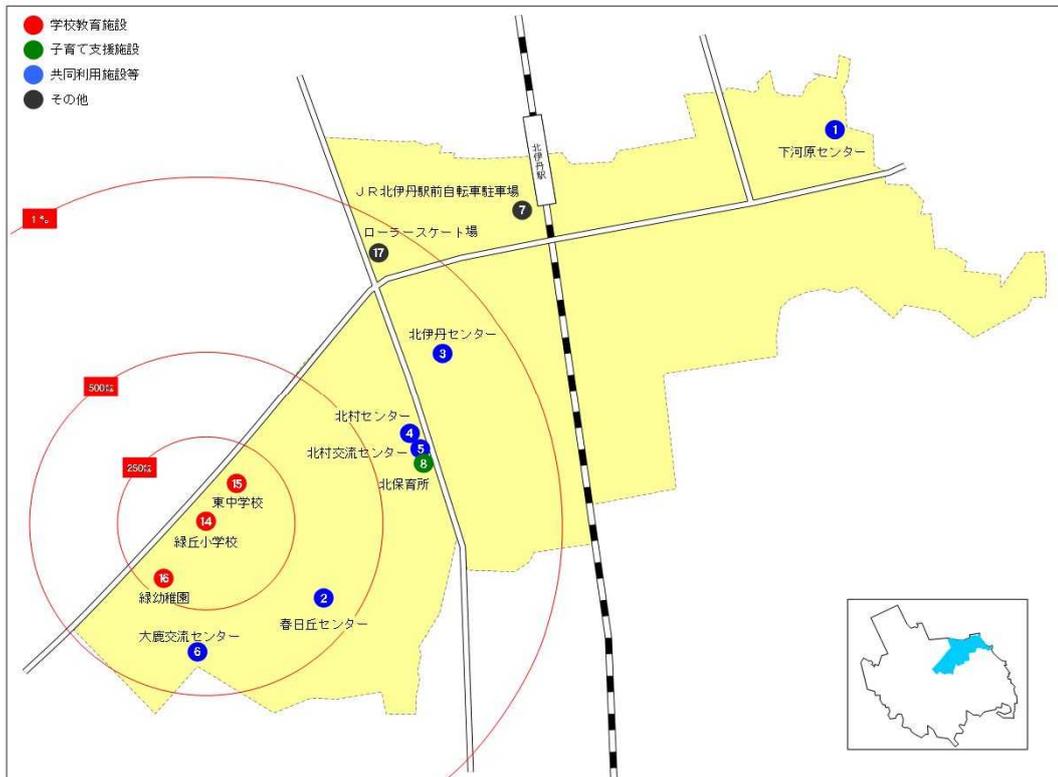
緑丘小学校区

高齢人口割合は19.6%と、市平均の19.1%と比べて若干高く、17地域中9番目と中位にあります。

- ② 世帯数 4,624 世帯 平成21年 現在
平均： 2.44 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて増加傾向（14.1%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 56 人/ha
市平均80人/haと比べて、低くなっています。

3. 主な公共施設等

市営のローラースケート場等の公共施設がありますが、地区内の公共施設は多くありません。



- ① 学校教育施設
緑丘小学校と東中学校が隣接して設置されています。幼児施設は緑幼稚園と北保育所があります、
- ② 共同利用施設等
緑丘小学校区内には、計4箇所の共同利用施設等があります。

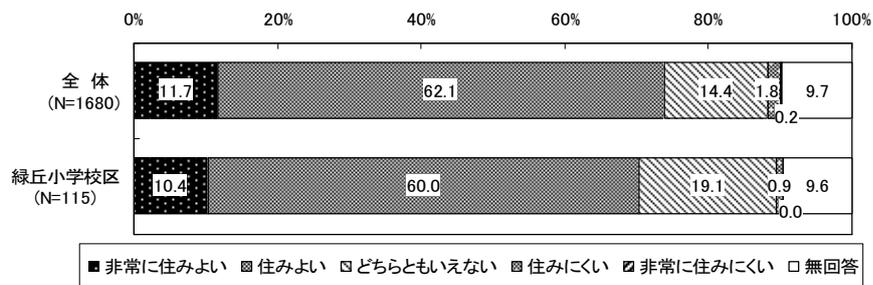
③ その他の施設

ローラースケート場やJR北伊丹駅前の駐車場など、公共施設は多くありませんが、西の瑞穂小学校区内に緑ヶ丘公園があり、体育館や武道館、プールなどの利用域に入っています。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、伝和泉式部の墓、教善寺阿弥陀如来立像、発音寺十一面観世音菩薩立像・大日如来坐像・三面大黒天立像、浄源寺のイチョウ、辻の碑があります。公園は、西猪名公園や、北伊丹第三公園、越ヶ井夢の道公園等があります。また、猪名川河川敷緑地や伊丹緑地、下河原緑地が、地域に潤いを与えています。伝統行事等としては、スポーツクラブ21の地域交流活動やだんじりが、大きな特色となっています。まちづくり活動等としては、景観形成重点区域（旧西国街道地区、多田街道地区）が指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が70.4%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干低くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	緑丘小学校区 (N=115)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	日常の買物の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

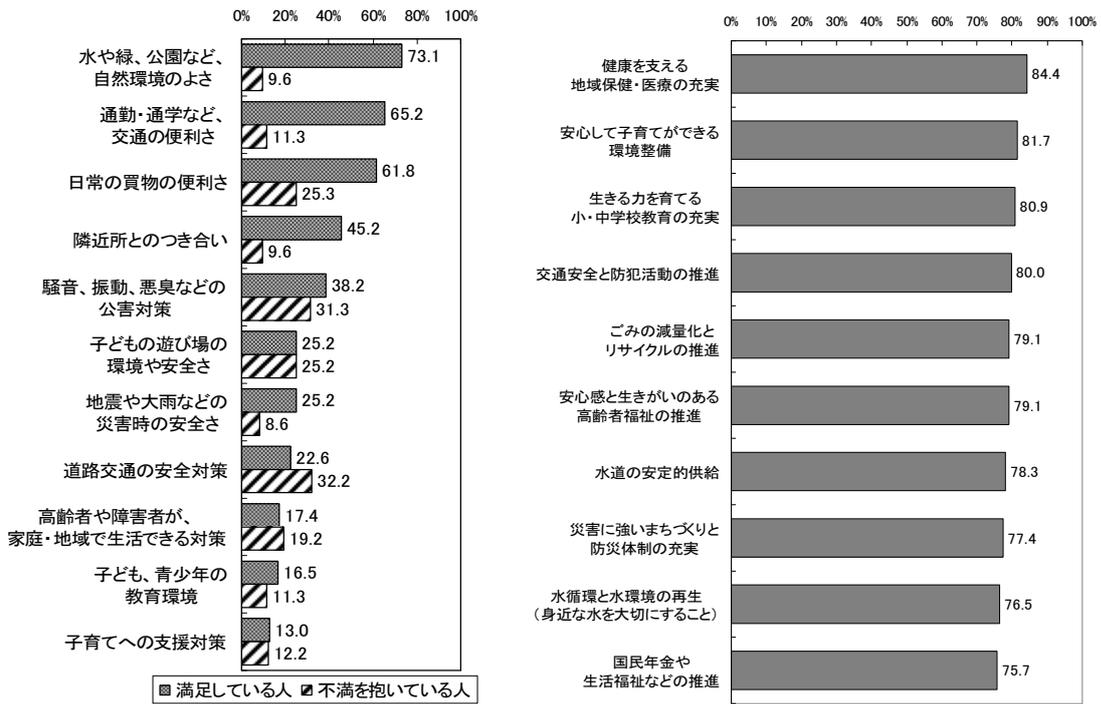
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	緑丘小学校区 (N=115)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	日常の買物の便利さ	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、通勤・通学など交通の便利さ、日常の買物の便利さが評価されています。一方、道路交通の安全対策や騒音、振動、悪臭などの公害対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。幹線道路が交差する位置にあり、自動車交通が多いためと考えられます。

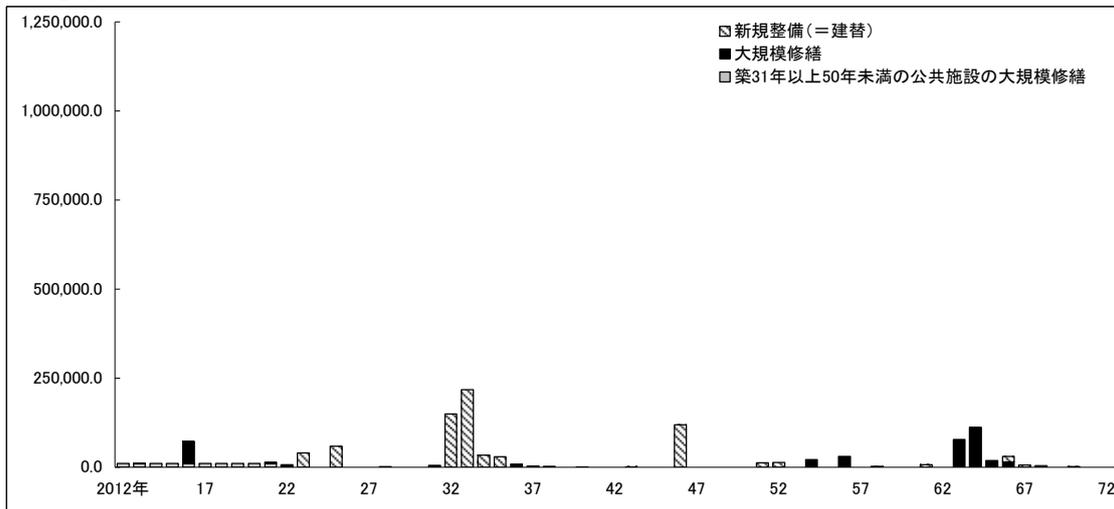
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替える想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



緑丘小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.94m²/人となっています。市平均2.97m²/人と比べると低くなっています。

緑丘小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約47.4億円、新規整備(建替え)に約70.8億円が必要な見込みです。

(6) 桜台小学校区

1. 位置・概況



位置： 桜台地域は市域北西部に位置し、北は宝塚市に面しています。
 交通： 南北に県道米谷昆陽尼崎線、県道尼崎宝塚線、東西に県道中野中筋線が走っています。
 土地利用： 大半は住宅地域であり、県道米谷昆陽尼崎線、県道尼崎宝塚線沿道で商業系土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

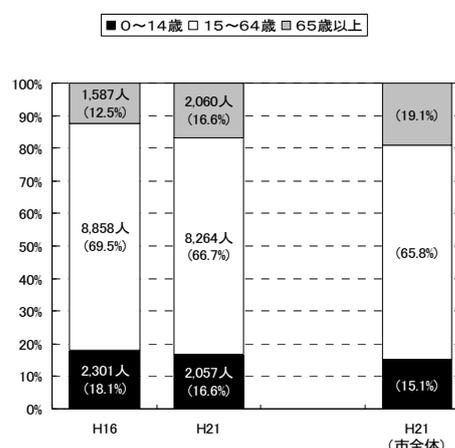
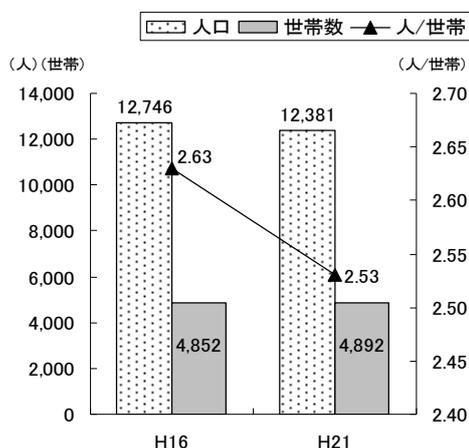
① 人口

12,381 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干減少傾向（▲2.9%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中12番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,057	16.6%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	8,264	66.7%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,060	16.6%	減少傾向
計	12,381	100%	減少傾向



桜台小学校区

高齢人口割合は16.6%と、市平均の19.1%と比べて低く、17地域中、15番目と下位にあります。勤労世帯が多い校区です。

② 世帯数

4,892 世帯 平成21年 現在

平均： 2.53 人/世帯

市全体（6.0%）と比べて横ばい傾向（0.8%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

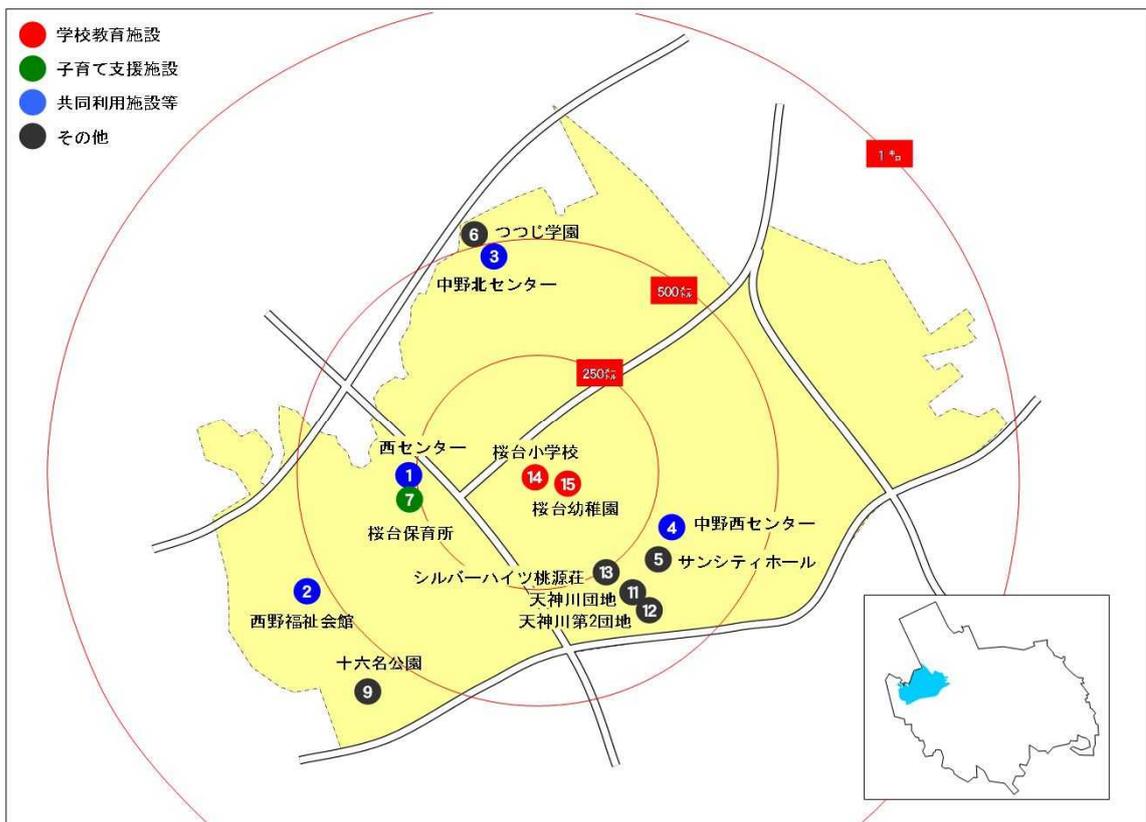
③ 人口密度

113 人/ha

市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

中野西地区にサンシティホールがあり、それを中心に市営住宅や老人保健施設、高齢者用住宅などがあります。



① 学校教育施設

桜台小学校、桜台幼稚園があります。中学校は天王寺川中学校区になります。

② 共同利用施設等

桜台小学校区内には、計4箇所の共同利用施設等があります。

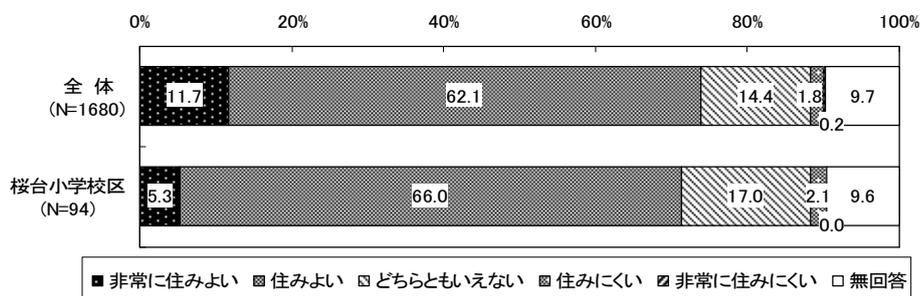
③ その他の施設

サンシティホール（老人福祉施設）や天神川団地、天神川第2団地等があります。民間の施設も含め、天神川と天王寺川沿いに高齢者等施設、宝塚市との市境近くに障がい者施設が集まっています。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、中野稻荷神社のイヌマキがあります。公園は、十六名公園、西野二ツ塚公園、中野西公園等があります。また、天王寺川緑地、西野東緑地が、地域に潤いを与えています。まちづくり活動等としては、リバーサイドフェスティバルや収穫祭など、さまざまな活動が展開されるなど、地域交流活動が大きな特色となっています。良好なまちづくりのルールを定める地区計画が1箇所指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が71.3%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干低くなっています。



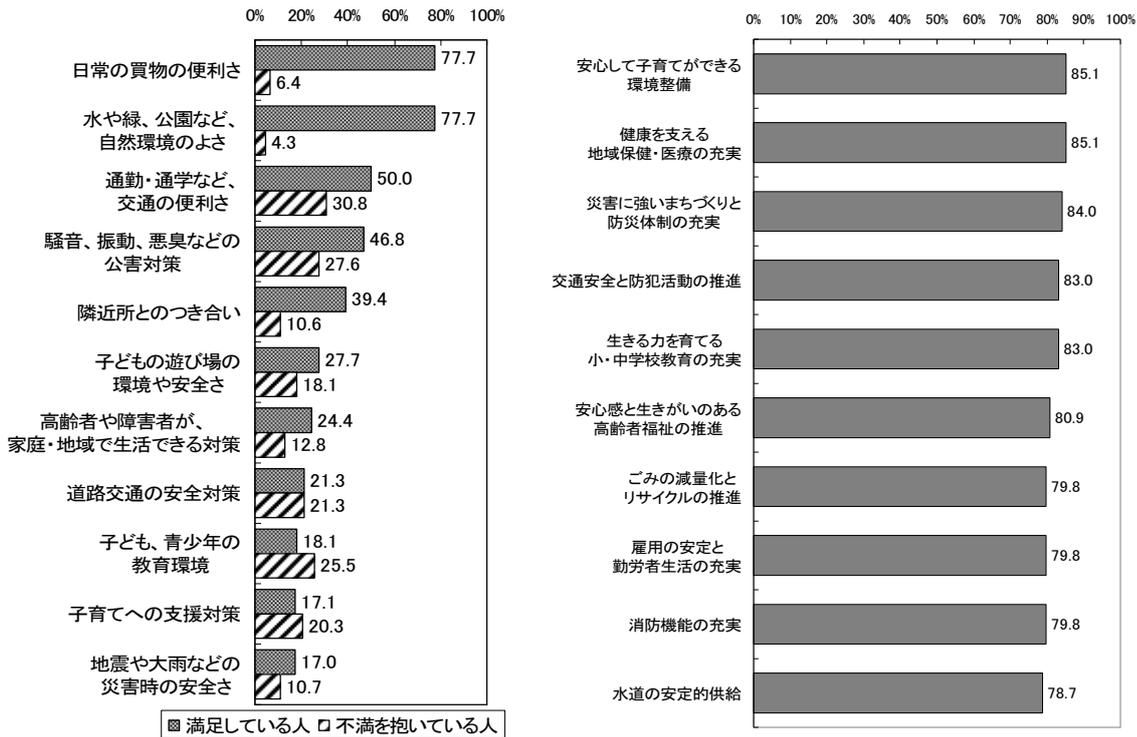
■ 地区の環境に満足な点上位3

	桜台小学校区 (N=94)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ 水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位		水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	桜台小学校区 (N=94)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ	道路交通の安全対策
第2位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	子ども、青少年の教育環境	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度

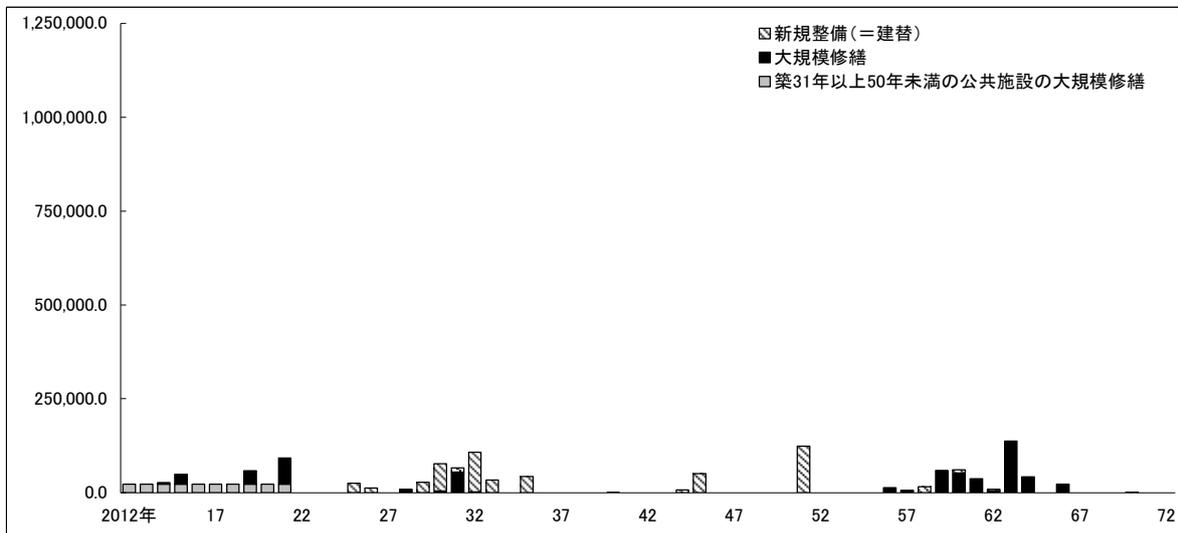


同アンケート結果によると、日常の買い物の便利さや水や緑、公園など自然環境の良さが評価されています。一方、通勤・通学など交通の便利さや騒音、振動、悪臭などの公害対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

重視している政策では安心して子育てができる環境整備と地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えるとして想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下ようになります。



桜台小学校区

桜台小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約2.73㎡/人で、市平均2.97㎡/人とほぼ類似しています。桜台小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約81.2億円、新規整備（建替え）に約54.4億円が必要な見込みです。

(7) 天神川小学校区

1. 位置・概況



位置： 天神川地域は、市域の北端に位置し、宝塚市に面しています。

交通： 地域の中央を東西に中国自動車道が縦貫し、南北に県道中野中筋線が走っています。

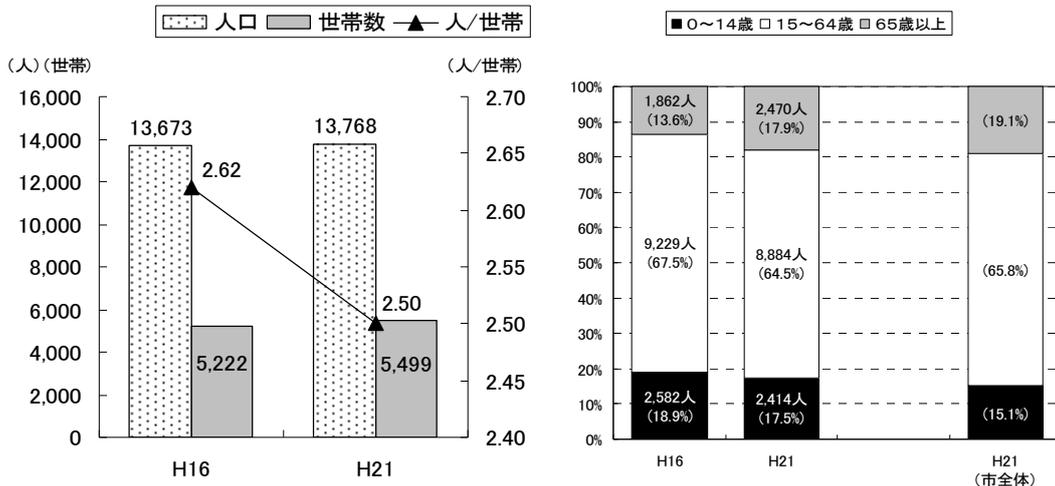
土地利用： 大半が住宅地域となっており、商業系施設は県道中野中筋線や国道176号等の幹線道路沿道など一部に点在しています。団地を中心とした共同住宅の林立する街区があります。工業系施設は少ないものの、地域南西部など一部に立地しています。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 13,768 人 平成21年 現在
市全体（1.7%）と同様に横ばい傾向（0.7%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中8番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,414	17.5%	横ばい傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	8,884	64.5%	横ばい傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,470	17.9%	横ばい傾向
計	13,768	100%	横ばい傾向



天神川小学校区

高齢人口割合は17.9%と、市平均の19.1%と比べて若干低く、17地域中10番目と中位にあります。

② 世帯数

5,499 世帯 平成21年 現在

平均： 2.50 人/世帯

市全体（6.0%）と比べて若干低く、（5.3%）となっています。
1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

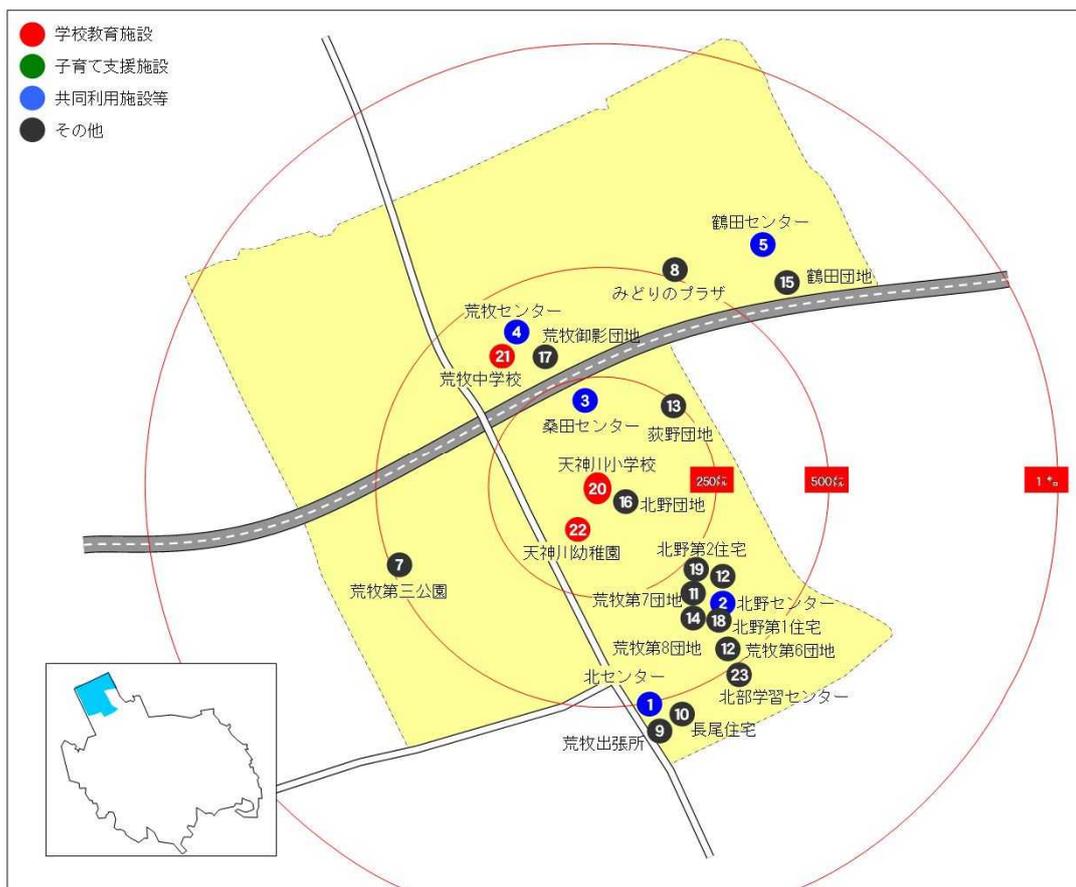
③ 人口密度

96 人/ha

市平均80人/haと比べて、若干高くなっています。

3. 主な公共施設等

きららホール（北部学習センター）、荒牧バラ公園等の公共施設があります。



① 学校教育施設

天神川小学校、荒牧中学校があります。幼稚園は天神川幼稚園がありますが、市立の保育所はありません。市立以外の教育施設としては、県立北高校と、大阪芸術大学短期大学部伊丹学舎があります。

② 共同利用施設等

天神川小学校区内には、計5箇所の共同利用施設等があります。

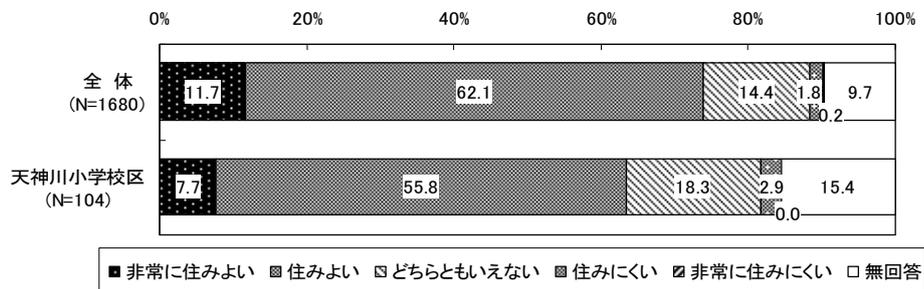
③ その他の施設

長尾住宅、荒牧第6・第7・第8団地、荻野団地、鶴田団地、北野団地、荒牧御影団地、北野第1・第2住宅といった、多くの市営住宅団地があります。
支所機能と図書館機能がある北部学習センター（きららホール）があります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、容住寺十一面観音坐像があります。公園は、荒牧公園、畦道公園、長尾公園等があります。また、天神川緑地が、地域に潤いを与えています。伝統行事等としては、天日神社のだんじりがあります。地域を挙げて参加する特色あるまちづくりとしての北部ふれあい祭りや、自主防災会合同訓練、また、ふれあい福祉活動や防犯パトロールやこどもの見守り活動としての下校時合同パトロールなど継続した地道活動が行われています。良好なまちづくりのルールを定める地区計画が3箇所、建築協定が1箇所指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が63.5%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干低くなっています。



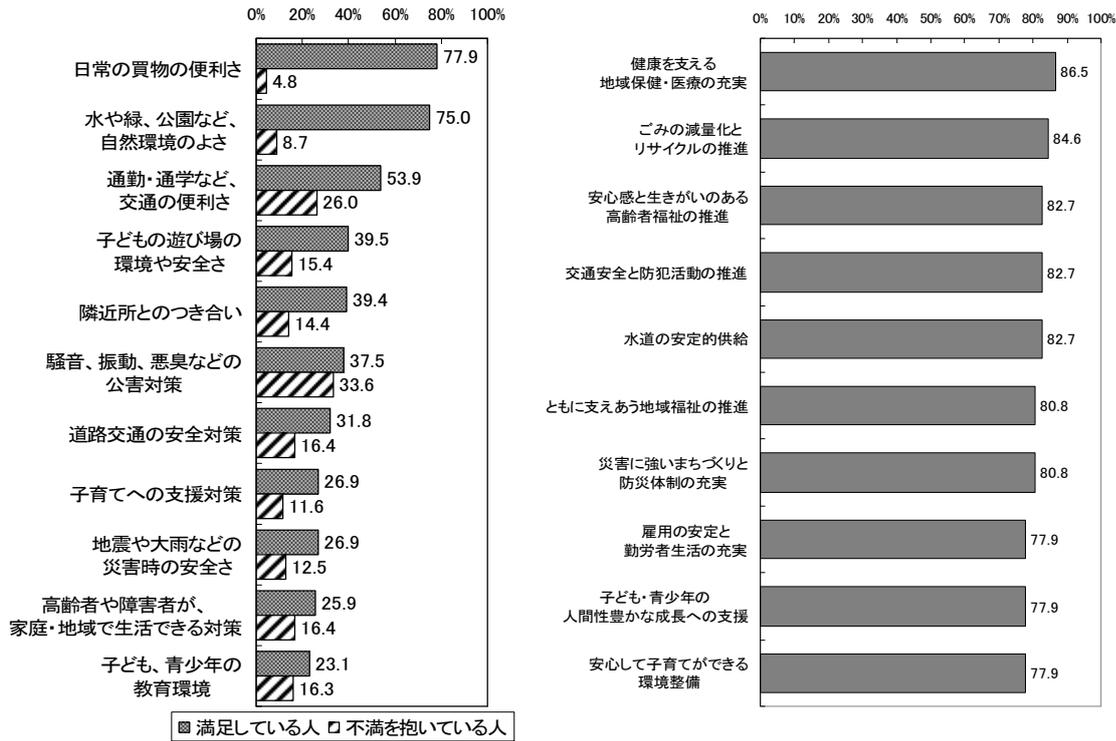
■ 地区の環境に満足な点上位3

	天神川小学校区 (N=104)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	天神川小学校区 (N=104)	市全体 (N=1680)
第1位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	道路交通の安全対策
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	道路交通の安全対策 高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度

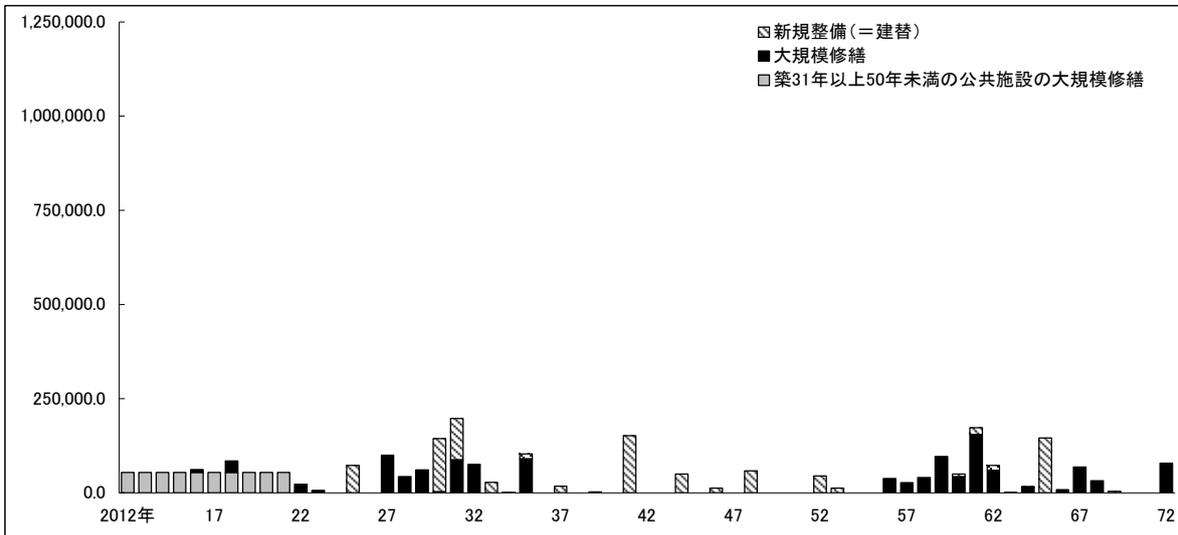


同アンケート結果によると、日常の買い物の便利さや水や緑、公園など自然環境の良さが評価されています。一方、騒音、振動、悪臭などの公害対策や通勤・通学など交通の便利さに不満を抱いている人が多いことがわかります。

重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えるとして想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下ようになります。



天神川小学校区

天神川小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約5.00㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると高くなっています。これは、市営住宅が多いためと考えられます。

天神川小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約172.5億円、新規整備（建替え）に約89.7億円が必要な見込みとなっています。

(8) 笹原小学校区

1. 位置・概況



位置： 笹原地域は市域南端に位置し、南、西は尼崎市に面しています。
 交通： 地域の東端を南北に県道米谷昆陽尼崎線が、地域の東部を東西に県道東富松御願塚線が走っています。
 土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっています。

2. 人口・世帯数・人口密度等

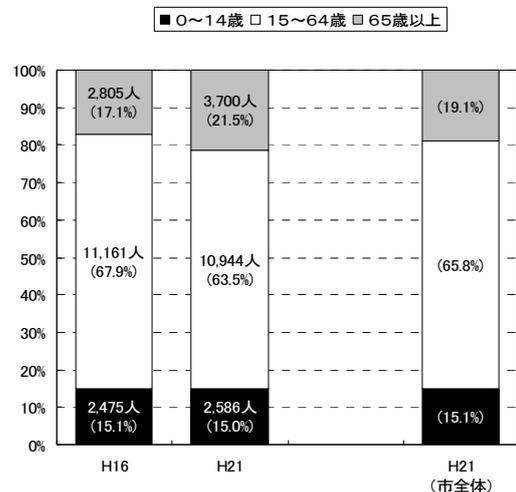
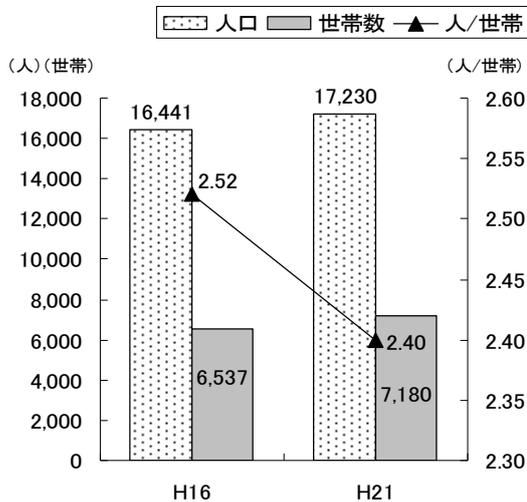
① 人口

17,230 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干増加傾向（+4.8%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中6番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,586	15.0%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	10,944	63.5%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	3,700	21.5%	増加傾向
計	17,230	100%	増加傾向



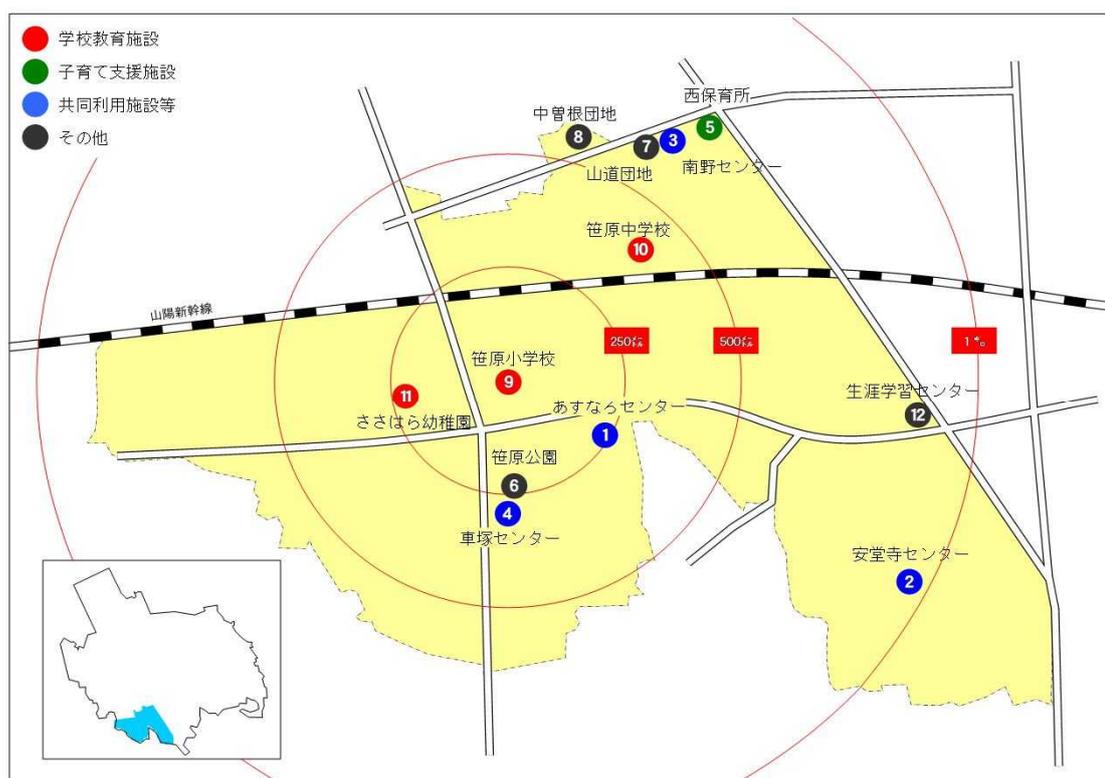
笹原小学校区

高齢人口割合は21.5%と、市平均の19.1%と比べて高く、17地域中4番目と上位にあります。

- ② 世帯数 7,180 世帯 平成21年 現在
平均： 2.40 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて増加傾向（9.8%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 127 人/ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

図書館南分館、フィットネスラスタ等のある、ラスタホール（生涯学習センター）があります。



- ① 学校教育施設
笹原小学校、笹原中学校がありますが、南東部の一部が南中学校の学区になっています。
- ② 共同利用施設等
笹原小学校区内には、計4箇所の共同利用施設等があります。

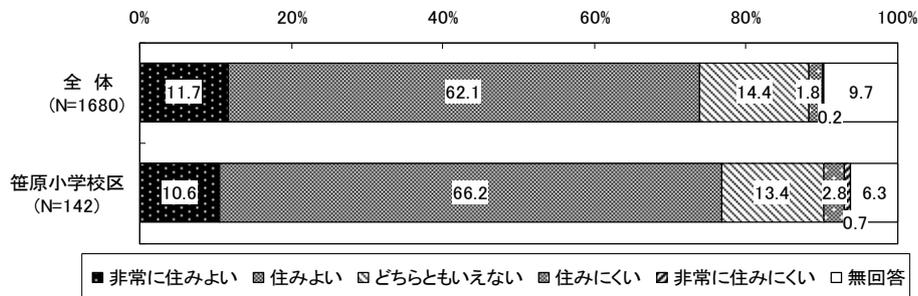
③ その他の施設

ラストホール以外には、ささはら幼稚園、西保育所、山道団地、中曽根団地等があります。

4. 学区の特徴

公園は、笹原公園、車塚公園、野間公園等があります。三世代交流運動会や健康づくり事業に力を入れて取り組んでいます。また、さまざまなふれあい活動が展開されるなど、地域交流活動が大きな特色となっています。良好なまちづくりのルールを定める地区計画が1箇所で指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が76.8%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	笹原小学校区 (N=142)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

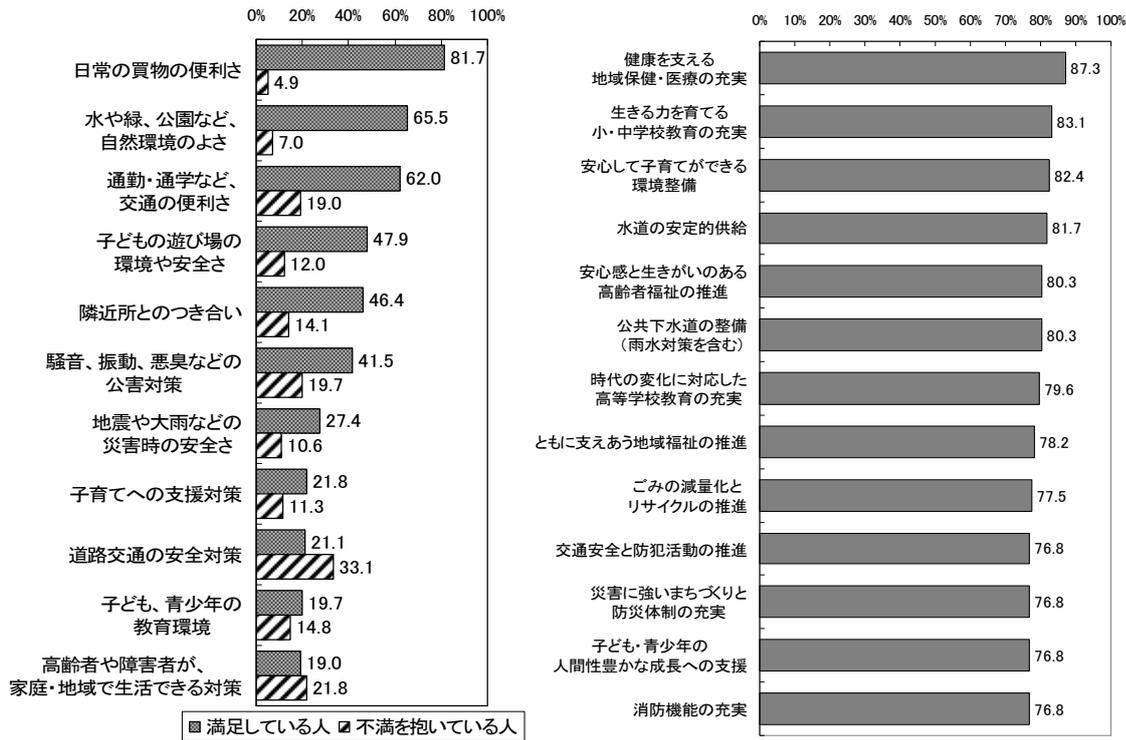
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	笹原小学校区 (N=142)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、日常の買い物の便利さや水や緑、公園など自然環境の良さが評価されています。一方、道路交通の安全対策や高齢者や障害者が家庭・地域で生活できる対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

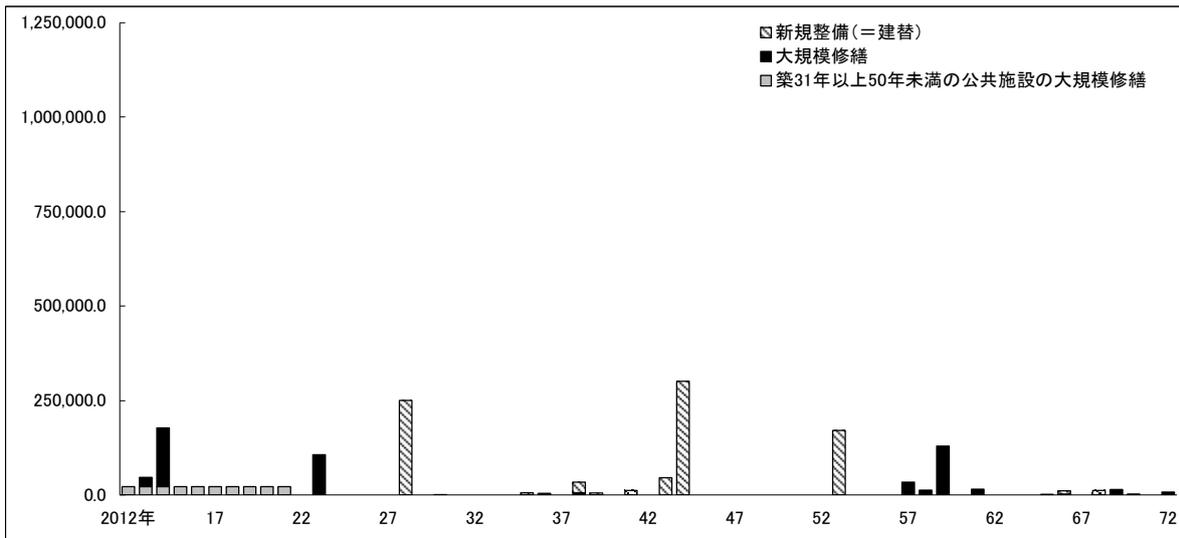
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下ようになります。



笹原小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.67㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると低くなっています。

笹原小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約73.7億円、新規整備(建替え)に約84.1億円が必要な見込みです。

(9) 瑞穂小学校区

1. 位置・概況



位置： 瑞穂地域は市域北部に位置し、北は宝塚市に面しています。
 交通： 地域の南端を東西に国道171号が走り、南北に県道尼崎池田線、
 県道山本伊丹線が、東西に県道姥ヶ茶屋伊丹線が走っています。

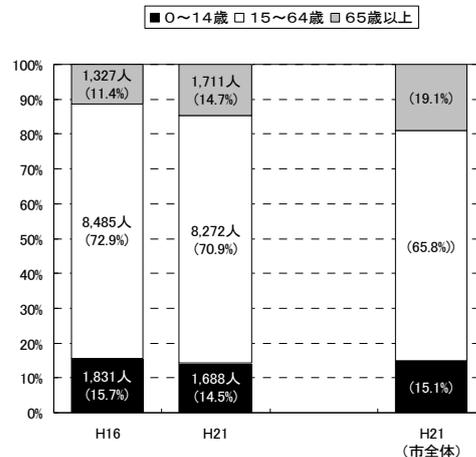
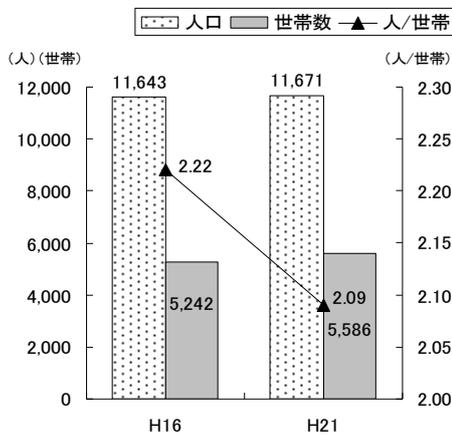
土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっており、地域東部に工業系土地
 利用が見られます。国道171号、県道姥ヶ茶屋伊丹線沿道に商業系
 土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 11,671 人 平成21年 現在
 市全体（1.7%）と同様に横ばい傾向（0.2%）にあります。過去5
 年間の増減率は、17地域中9番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,688	14.5%	横ばい傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	8,272	70.9%	横ばい傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,711	14.7%	横ばい傾向
計	11,671	100%	横ばい傾向



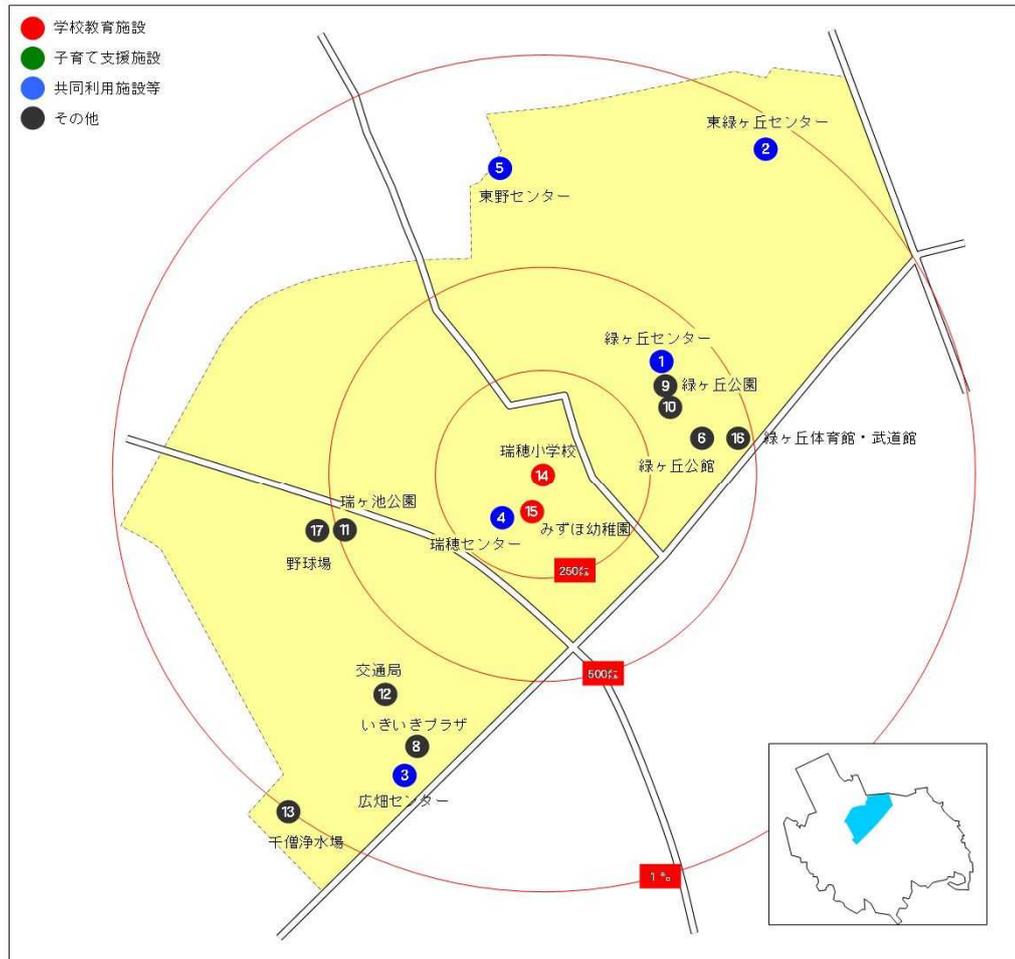
瑞穂小学校区

高齢人口割合は14.7%と、市平均の19.1%と比べて低く、17地域中16番目と下位にあります。

- ② 世帯数 5,586 世帯 平成21年 現在
平均： 2.09 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて増加傾向（6.6%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 66 人/ha
市平均80人/haと比べて、若干低くなっています。

3. 主な公共施設等

学区中央部に瑞ヶ池公園と緑ヶ丘公園があり、鴻臚館、緑ヶ丘体育館・武道館、緑ヶ丘プール、市立野球場、いきいきプラザ等の公共施設があります。



- ① 学校教育施設
瑞穂小学校、みずほ幼稚園があります。中学校は東中学校区です。

② 共同利用施設等

瑞穂小学校区内には、計5箇所の共同利用施設等があります。

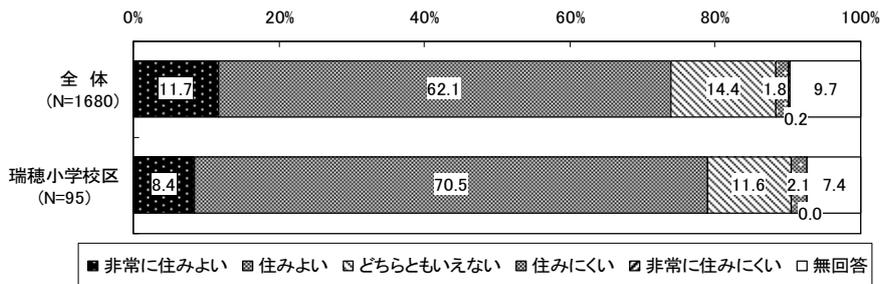
③ その他の施設

高等教育施設として、県立伊丹高等学校、県立こやの里特別支援学校があります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、伊丹廃寺跡があります。公園は、瑞ヶ池公園や緑ヶ丘公園、瑞ヶ丘公園等があります。また、瑞穂緑地が、地域に潤いを与えています。伝統行事等としては、スポーツクラブ21の地域交流活動やさくらまつり、観梅と野点の会、だんじりが、大きな特色となっています。まちづくり活動等としては、良好なまちづくりのルールを定める地区計画が3箇所で指定されているとともに、緑地協定が1箇所で指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が78.9%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	瑞穂小学校区 (N=95)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	日常の買物の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

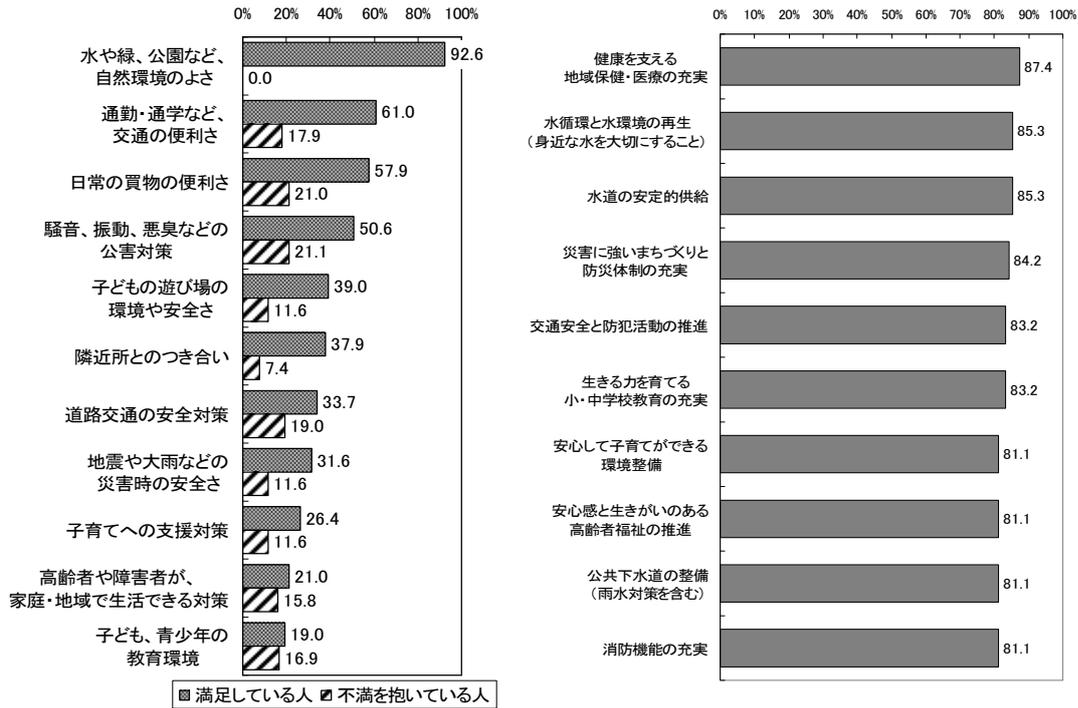
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	瑞穂小学校区 (N=95)	市全体 (N=1680)
第1位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	道路交通の安全対策
第2位	日常の買物の便利さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	道路交通の安全対策	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、通勤・通学など交通の便利さが評価されています。一方、騒音、振動、悪臭などの公害対策や日常の買物の便利さに不満を抱いている人が多いことがわかります。

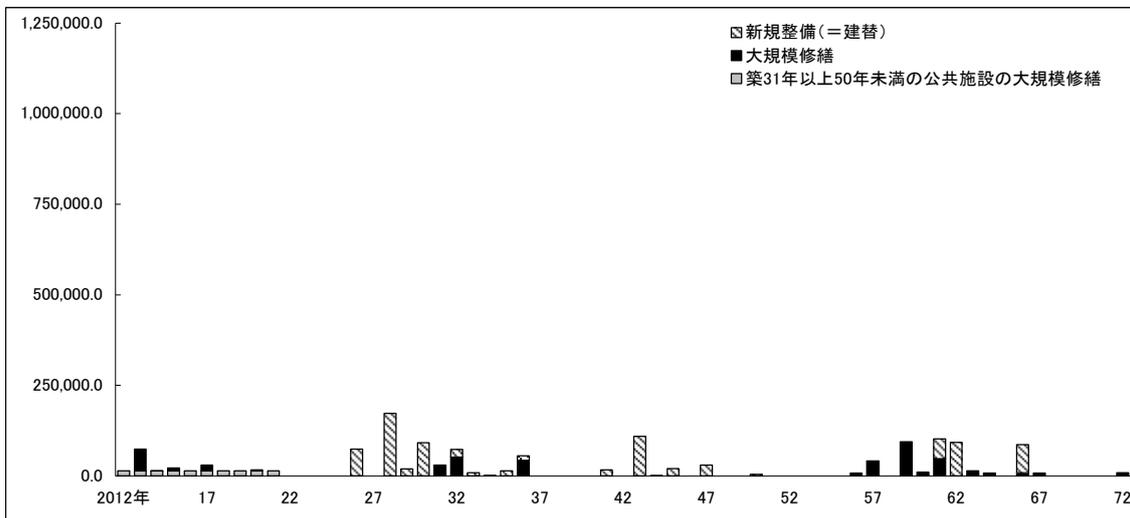
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替える想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



瑞穂小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約2.01m²/人となっています。市平均2.97m²/人と比べると若干低くなっています。

今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約59.4億円、新規整備(建替え)に約82.1億円が必要な見込みです。

(10) 有岡小学校区

1. 位置・概況



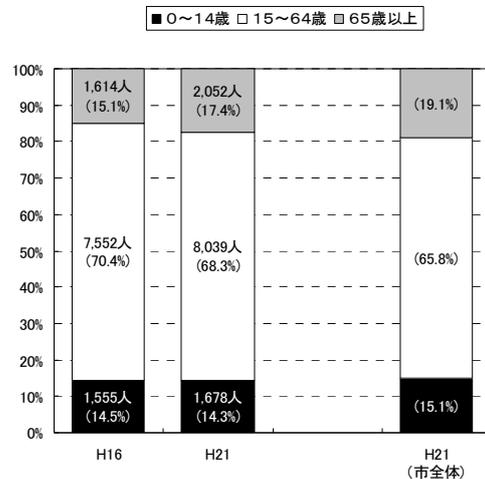
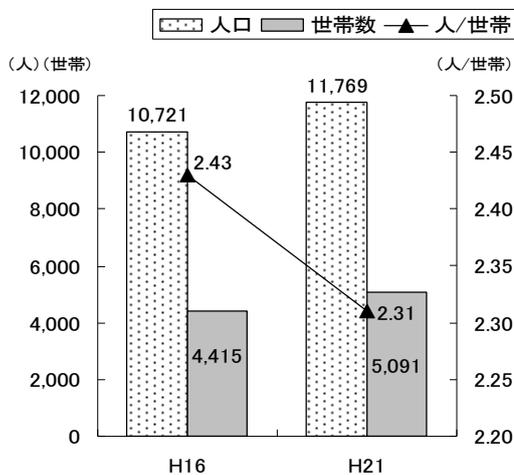
- 位置： 有岡地域は市域東南部に位置し、南は尼崎市に面しています。
- 交通： 北部にJR伊丹駅があり、鉄道交通の拠点があります。
道路は、西端を南北に県道尼崎池田線、地域の北端を東西に県道伊丹豊中線が走っています。
- 土地利用： JR福知山線西側は、大半が住居系の土地利用が広がっていますが、東側は工業系土地利用が広がっています。JR伊丹駅周辺に商業系の土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

- ① 人口 11,769人 平成21年 現在
市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、大幅な増加傾向（+9.8%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中2番目と上位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,678	14.3%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	8,039	68.3%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,052	17.4%	増加傾向
計	11,769	100%	増加傾向



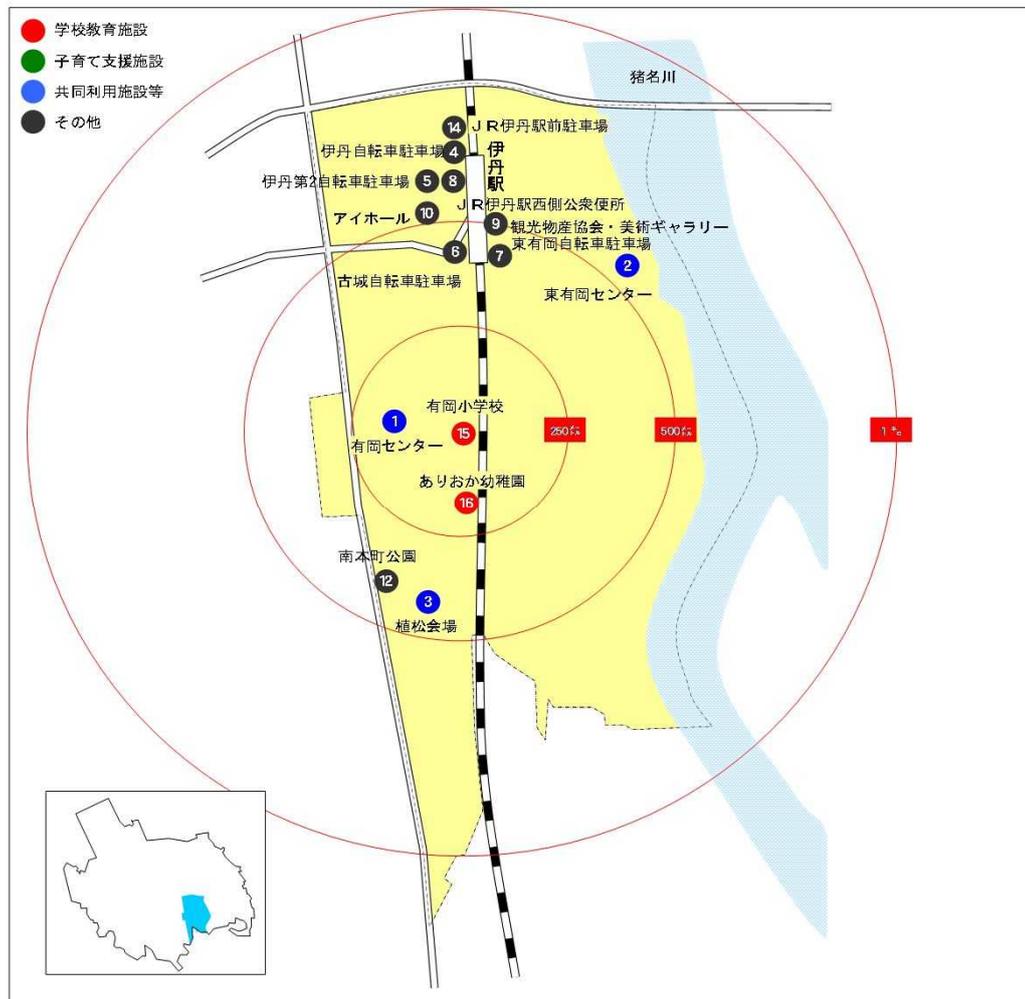
有岡小学校区

高齢人口割合は17.4%と、市平均の19.1%と比べて若干低く、17地域中12番目と下位にあります。

- ② 世帯数 5,091 世帯 平成21年 現在
平均： 2.31 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて増加傾向（15.3%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 97 人/ha
市平均80人/haと比べて、若干高くなっています。

3. 主な公共施設等

アイホール、美術ギャラリー伊丹（閉鎖予定）等の公共施設があります。



- ① 学校教育施設
有岡小学校、ありおか幼稚園があります。中学校は、北部は北中学校区、南部は南中学校区になります。

② 共同利用施設等

有岡小学校区内には、計3箇所の共同利用施設等があります。

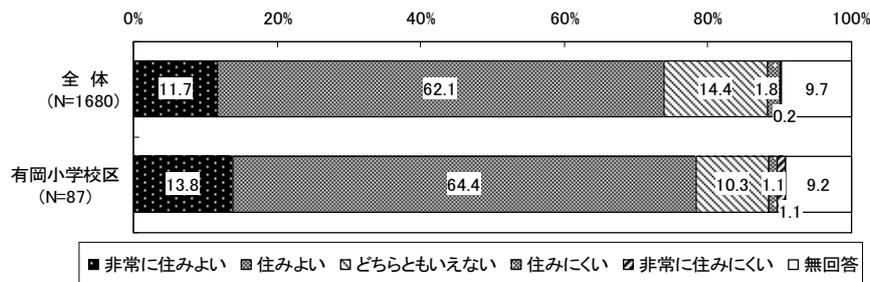
③ その他の施設

JR伊丹駅周辺に多くの公営駐車場があります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、有岡城跡、頼山陽撰並書 大塚鳩斎の墓碑、地蔵菩薩立像があります。公園は、有岡城跡公園、有岡公園、南本町公園があります。また、天津緑地が、地域に潤いを与えています。有っ子カーニバルや地域総ぐるみラジオ体操など、さまざまな活動が展開されるなど、地域交流活動が大きな特色となっています。良好なまちづくりのルールを定める地区計画が1箇所で指定されているとともに、景観形成重点区域（伊丹郷町地区）が指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が78.2%となっており、市全体（73.8%）に比べ、高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	有岡小学校区 (N=87)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	通勤・通学など、交通の便利さ

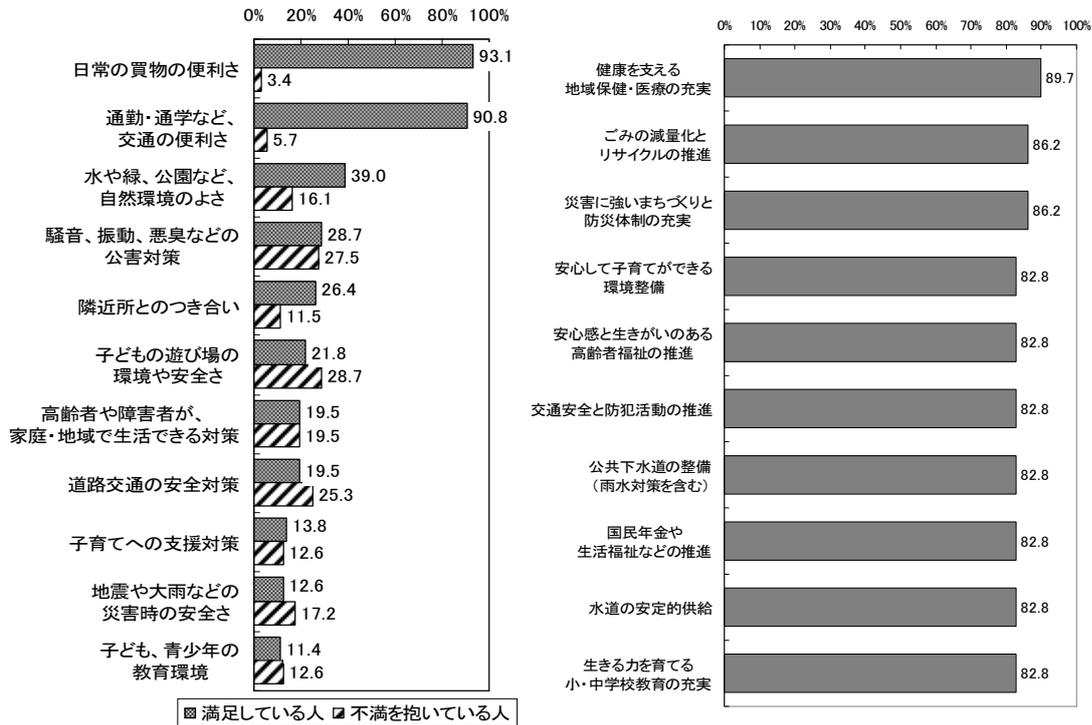
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	有岡小学校区 (N=87)	市全体 (N=1680)
第1位	子どもの遊び場の環境や安全さ	道路交通の安全対策
第2位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	道路交通の安全対策	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、日常の買い物の便利さや、通勤・通学など交通の便利さが評価されています。一方、子どもの遊び場の環境や安全さや騒音、振動、悪臭などの公害対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

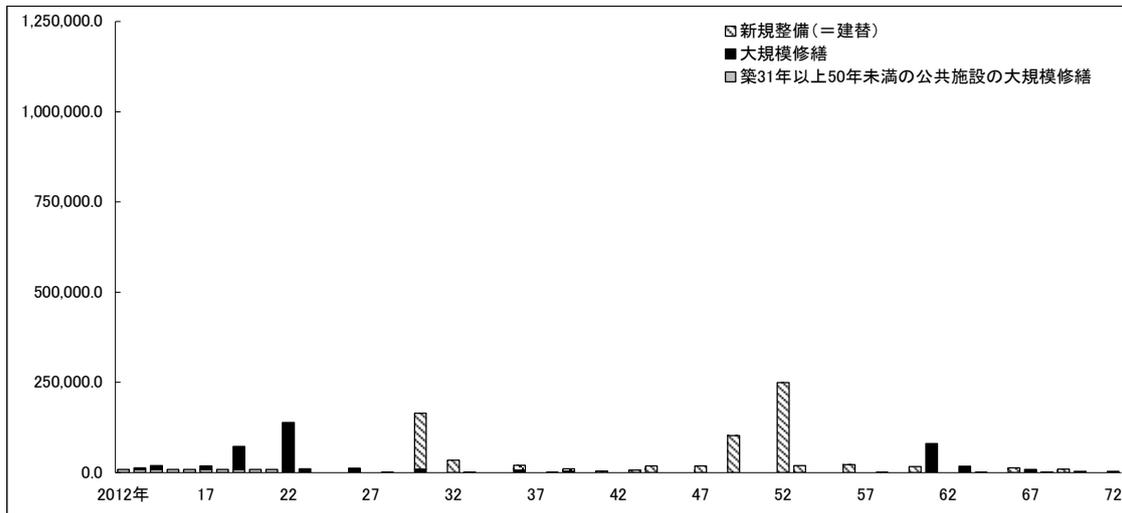
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



有岡小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.65㎡/人となっています。市平均2.97㎡/人と比べると低くなっています。

有岡小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約47.2億円、新規整備(建替え)に約69.2億円が必要な見込みです。

(11) 花里小学校区

1. 位置・概況



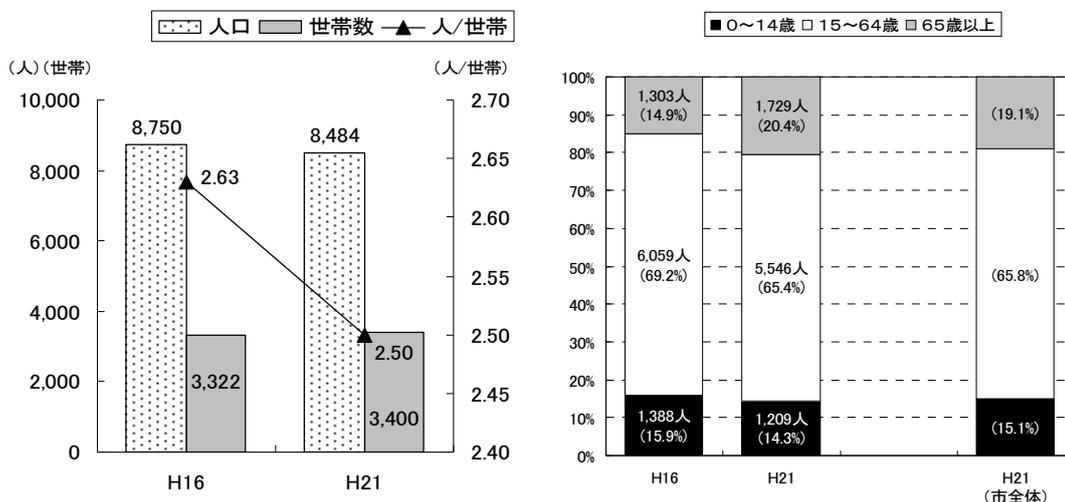
- 位置： 花里地域は市域西部に位置し、西は一部が尼崎市に面しています。
- 交通： 地域の西端を南北に県道尼崎宝塚線、中央を南北に県道寺本川西線、南端を東西に国道171号が走っています。
- 土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっており、県道尼崎宝塚線の北部沿道に大型工場があります。中部、南部沿道で商業系の土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 8,484 人 平成21年 現在
 市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干減少傾向（▲3.0%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中13番目と下位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,209	14.3%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	5,546	65.4%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,729	20.4%	減少傾向
計	8,484	100%	減少傾向



花里小学校区

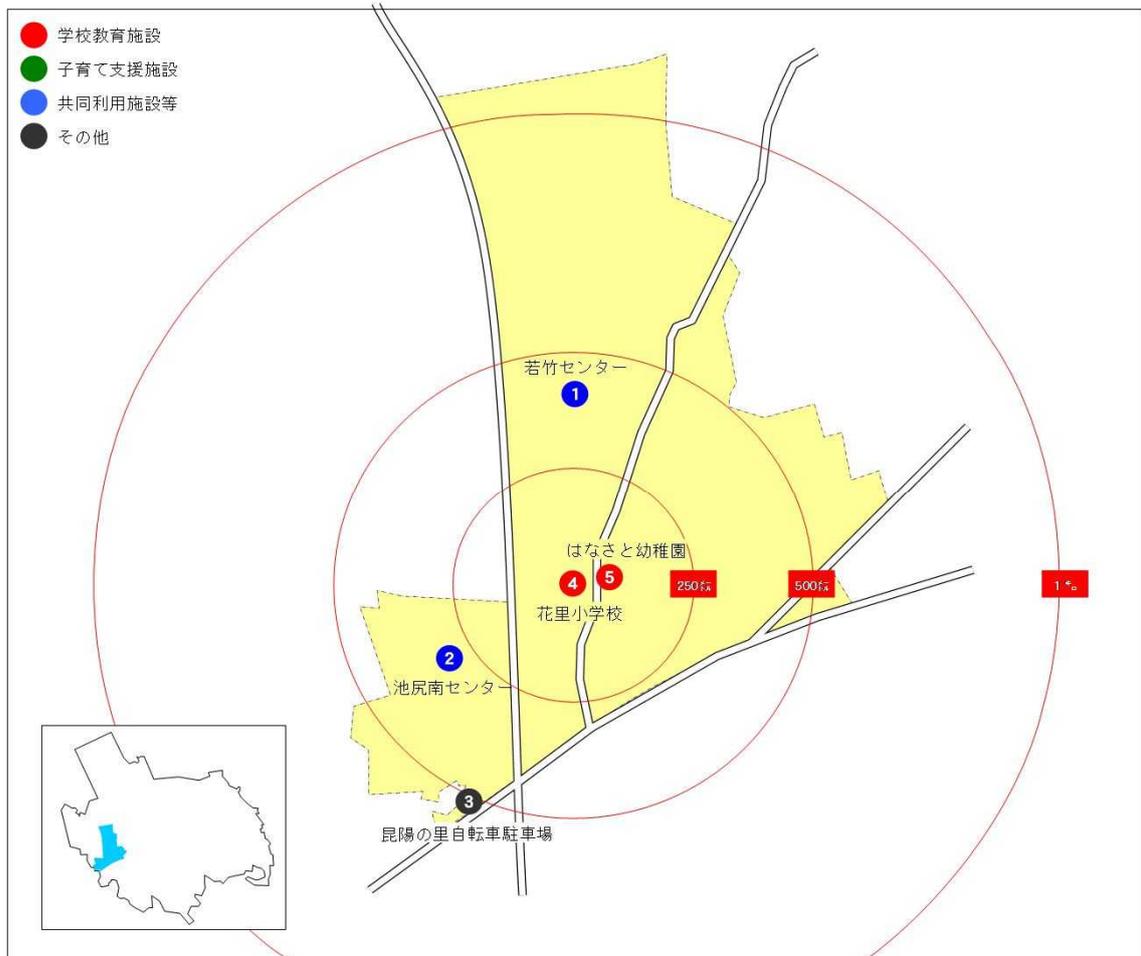
高齢人口割合は20.4%と、市平均の19.1%と比べて若干高く、17地域中6番目と中位にあります。

- ② 世帯数 3,400 世帯 平成21年 現在
平均： 2.50 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて横ばい傾向（2.3%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

- ③ 人口密度 98 人/ha
市平均80人/haと比べて、若干高くなっています。

3. 主な公共施設等

小学校を除き、大型の公共施設はありません。



- ① 学校教育施設
花里小学校、はなさと幼稚園があります。市立保育所はありません。中学校は松崎中学校区になります。

② 共同利用施設等

花里小学校区内には、計2箇所の共同利用施設等があります。

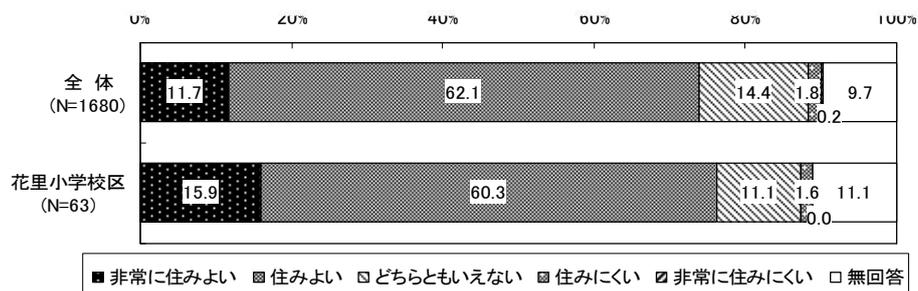
③ その他の施設

北部に県立伊丹西高等学校があります。西の池尻小学校区の北東端にイオン昆陽池SCがあり、市役所と図書館の分室があります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、昆陽寺山門・観音堂・二天立像があります。公園は、花里公園、寺本公園、寺本東公園があります。また、昆陽寺前緑地が、地域に潤いを与えています。伝統行事等としては、西天神社だんじりが特色となっています。主なまちづくり活動としては、花里クリーンウォークラリー&大どんど祭りなど、高齢者から若い世代まで幅広く交流する活動や支え合い活動など、コミュニティづくりに取り組んでいます。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が76.2%となっており、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	花里小学校区 (N=63)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	隣近所とのつき合い	通勤・通学など、交通の便利さ

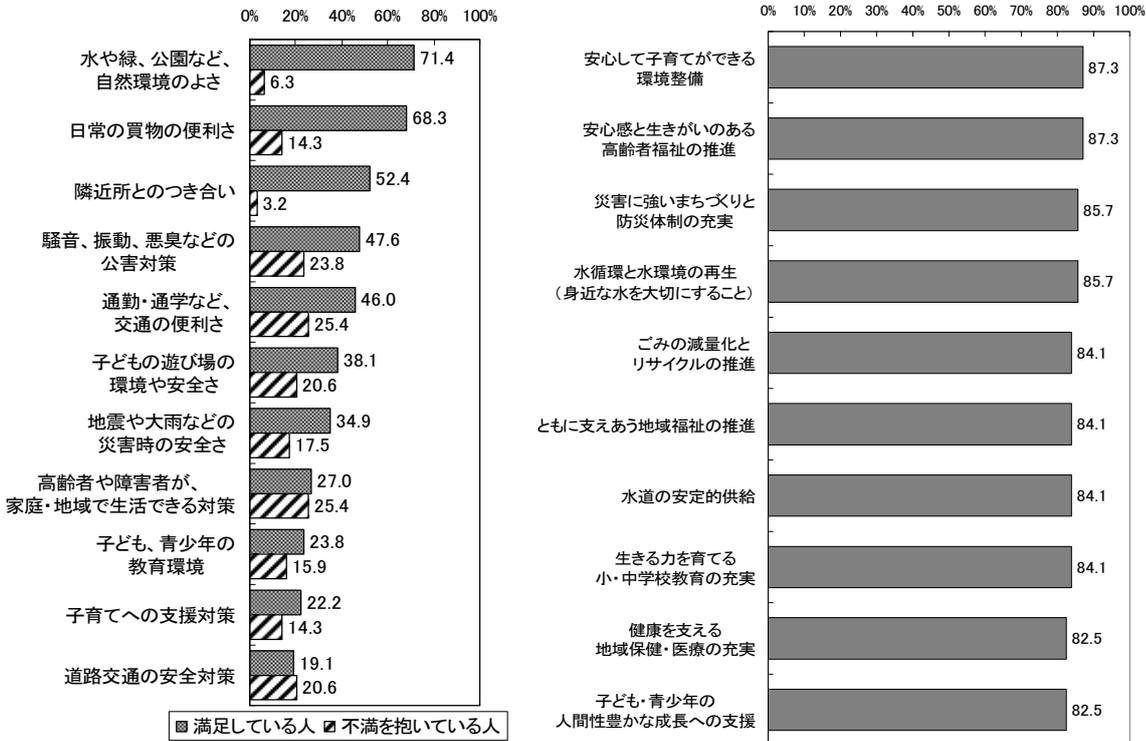
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	花里小学校区 (N=63)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ 高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	道路交通の安全対策
第2位		騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、日常の買い物の便利さが評価されています。一方、通勤・通学など交通の便利さや高齢者や障害者が家庭・地域で生活できる対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

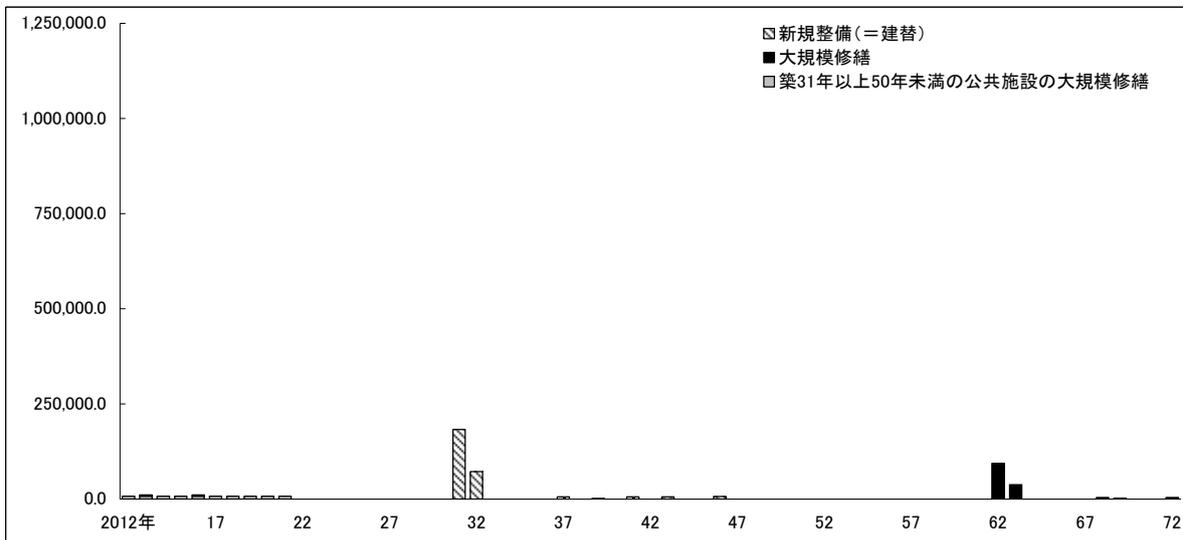
重視している政策では安心して子育てができる環境整備が最も多く挙げられています。それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えるとして想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下ようになります。



花里小学校区

花里小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.00㎡/人で、市平均2.97㎡/人と比べ約3分の1になっています。

花里小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約21.9億円、新規整備（建替え）に約28.1億円が必要な見込みです。

(12) 昆陽里小学校区

1. 位置・概況



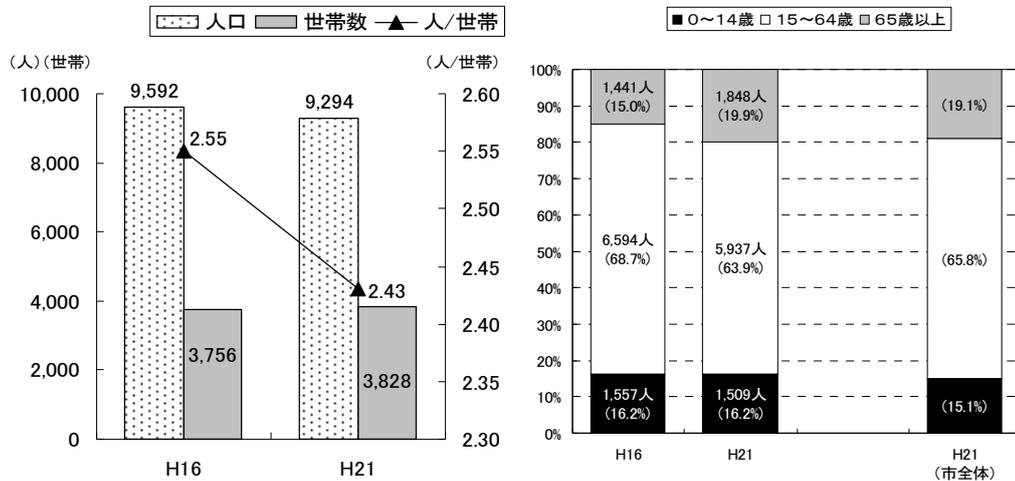
- 位置： 昆陽里小学校区は市域南西部に位置し、南、西は尼崎市に面しています。
- 交通： 地域を南北に県道尼崎宝塚線、東西に国道171号が走っています。
- 土地利用： 低層の戸建住宅の多い地域で、県道尼崎宝塚線沿道で商業系の土地利用が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

- ① 人口 9,294 人 平成21年 現在
市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干減少傾向（▲3.1%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中14番目と下位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,509	16.2%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	5,937	63.9%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,848	19.9%	減少傾向
計	9,294	100%	減少傾向



昆陽里小学校区

高齢人口割合は19.9%と、市平均の19.1%と比べて若干高く、17地域中、7番目となっています。

- ② 世帯数 3,828 世帯 平成21年 現在
平均： 2.43 人／世帯
市全体（6.0%）と比べて横ばい傾向（1.9%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 105 人／ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

小中学校を除き、大型の公共施設はありません。

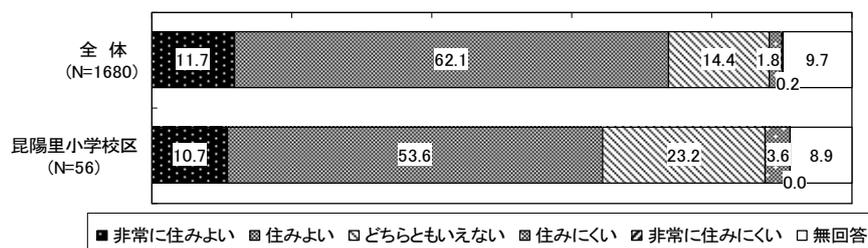


- ① 学校教育施設
昆陽里小学校と松崎中学校が隣接して設置されています。こやのさと幼稚園がありますが、市立保育所はありません。
- ② 共同利用施設等
昆陽里小学校区内には、計4箇所の共同利用施設等があります。
- ③ その他の施設
昆陽南公園ハナミズキセンターがあります。

4. 学区の特徴

公園は、昆陽南公園、野間北公園、山田公園等があります。まちづくり活動等として、多くの住民が参加する納涼盆踊り大会や、グラウンドゴルフ大会、また小学校と連携した田植えから稲刈り、餅つきなどの三世代交流事業など、地域交流活動が、特色となっています。また、昨年度は、防災フェア・親子で防災チャレンジや、宇宙夢大会などの大きな事業も行われました。地区計画が1箇所指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が64.3%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干低くなっています。



■地区の環境に満足な点上位3

	昆陽里小学校区 (N=56)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	隣近所とのつき合い	通勤・通学など、交通の便利さ

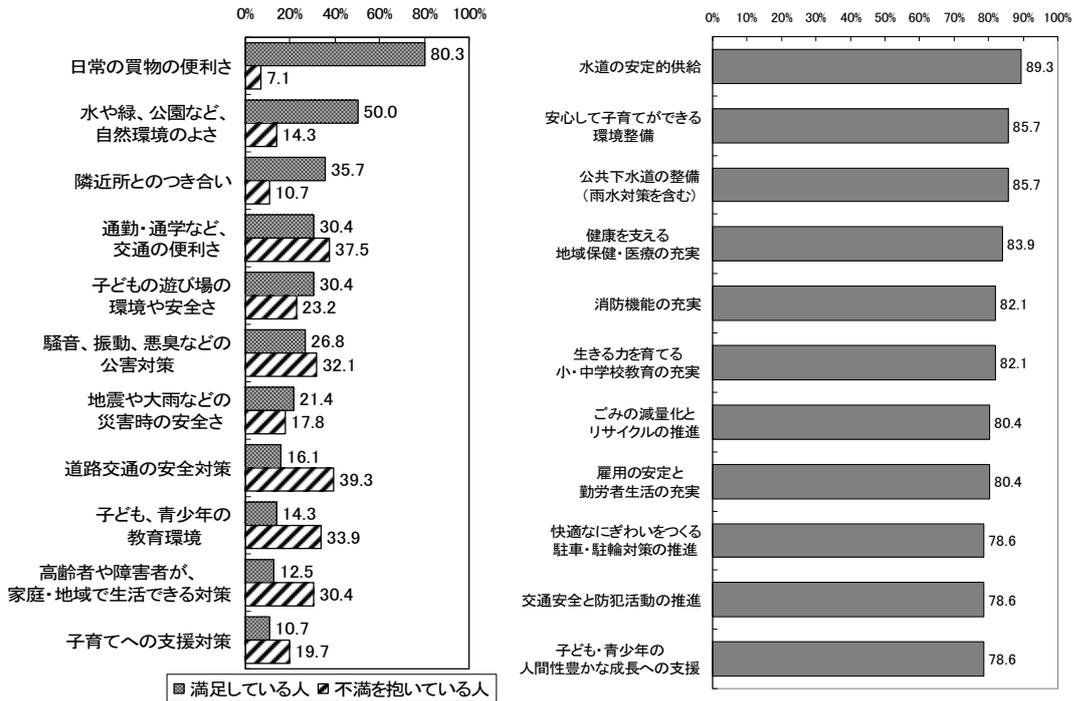
■地区の環境に不満足な点上位3

	昆陽里小学校区 (N=56)	市全体 (N=1680)
第1位	道路交通の安全対策	道路交通の安全対策
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	子ども、青少年の教育環境	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、日常の買物の便利さや水や緑、公園など自然環境の良さが評価されています。一方、道路交通の安全対策や通勤・通学など交通の便利さ、子ども、青少年の教育環境に不満を抱いている人が多いことがわかります。

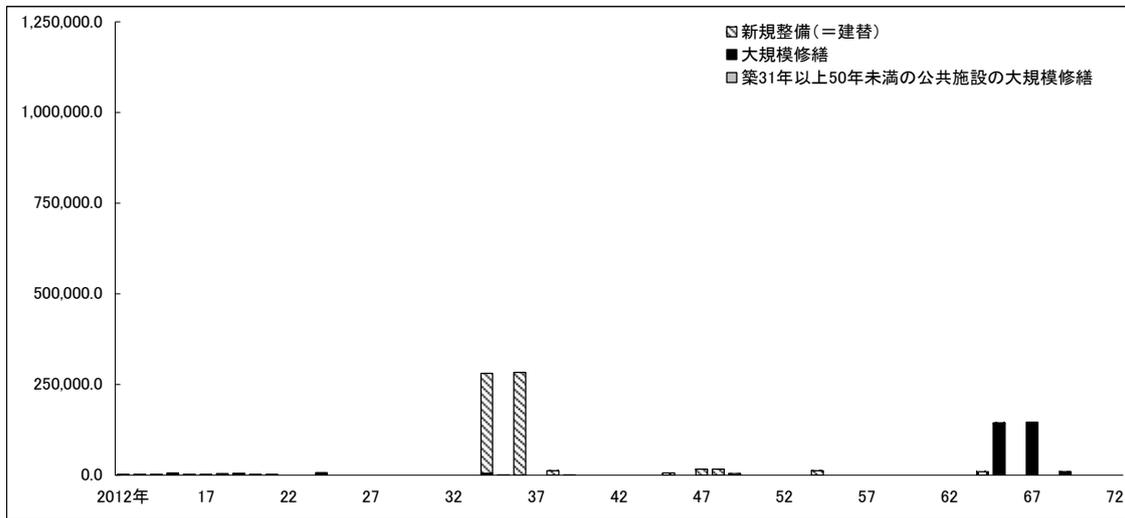
重視している政策では水道の安定的供給が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



昆陽里小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約2.08m²/人となっています。市平均2.97m²/人と比べ低くなっています。

昆陽里小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約34.1億円、新規整備（建替え）に約64.1億円が必要な見込みです。そのほとんどは小中学校の再整備によるものです。

(13) 摂陽小学校区

1. 位置・概況



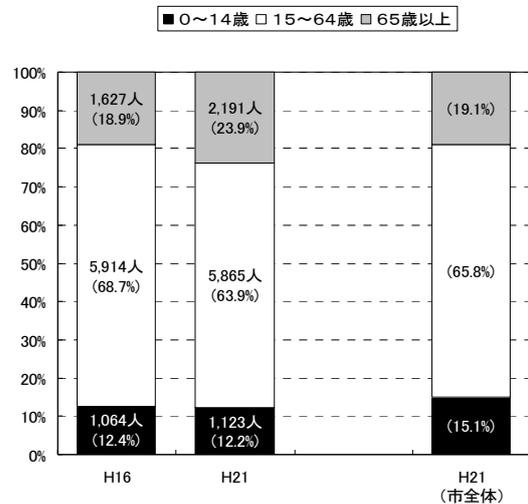
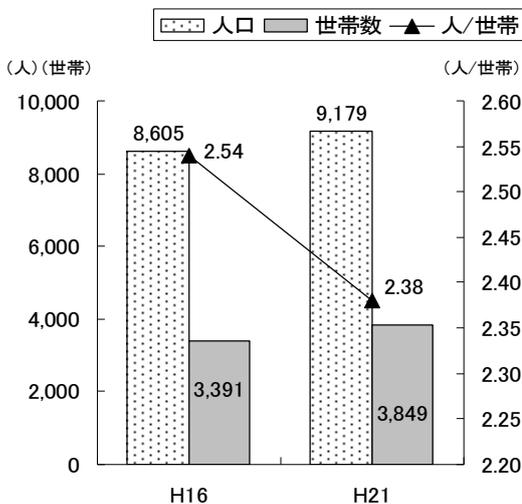
位置： 摂陽地域は市域中央から南西部に位置しています。
 交通： 地域を南北に県道米谷昆陽尼崎線、東西に県道寺本伊丹線が走っています。
 土地利用： 大半が住宅地域で、低層の戸建住宅が多い区域と、団地の区域に分かれています。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 9,179 人 平成21年 現在
 市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、増加傾向（6.7%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中5番目と上位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,123	12.2%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	5,865	63.9%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,191	23.9%	増加傾向
計	9,179	100%	増加傾向



摂陽小学校区

高齢人口割合は23.9%と、市平均の19.1%と比べて高く、17地域中3番目と上位にあります。

- ② 世帯数 3,849 世帯 平成21年 現在
平均： 2.38 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて増加傾向（13.5%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 139 人/ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

人権啓発センター、ふれあいセンター、児童館等の公共施設があります。

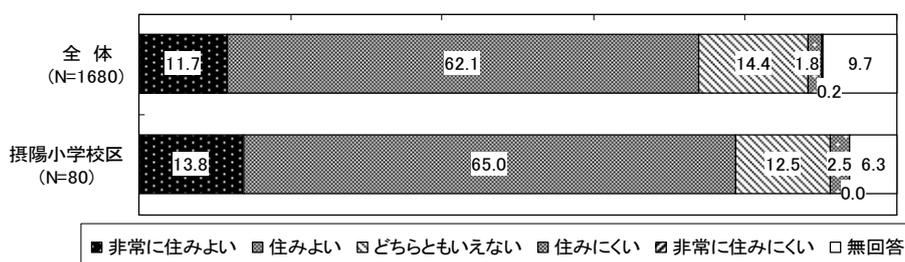


- ① 学校教育施設
摂陽小学校、西中学校がありますが、学区の南半分は笹原中学校の学区です。せつよう幼稚園とひかり保育園があります。
- ② 共同利用施設等
摂陽小学校区内には、計4箇所の共同利用施設等があります。
- ③ その他の施設
緑団地や堀池団地等があります。

4. 学区の特徴

公園は、堀池公園、美鈴公園、堤ヶ内公園、南式夕塚公園等があります。盆踊り大会やボウリング大会、新春鏡開きなど、地域で多世代が交流する事業が大きな特色となっています。また、福祉活動や清掃活動など継続した地道な活動も多く行われています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が78.8%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	摂陽小学校区 (N=80)	市全体 (N=1680)
第1位	日常の買物の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	通勤・通学など、交通の便利さ

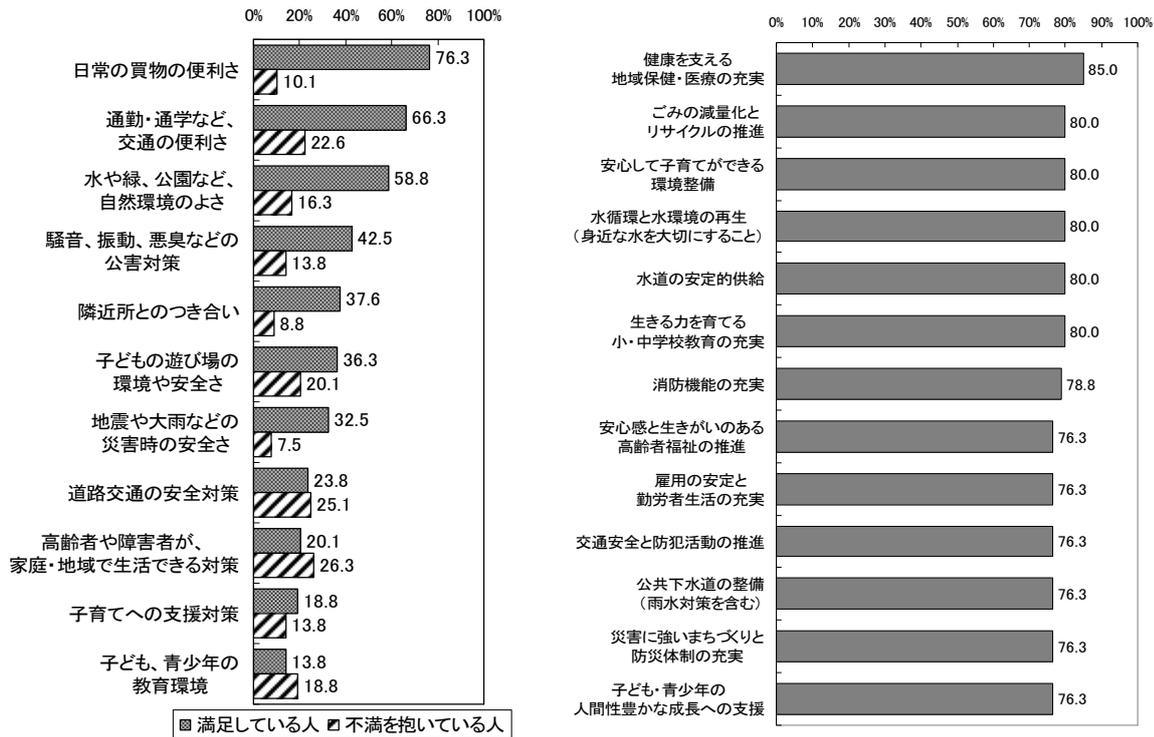
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	摂陽小学校区 (N=80)	市全体 (N=1680)
第1位	高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	道路交通の安全対策
第2位	道路交通の安全対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、日常の買物の便利さや、通勤・通学など交通の便利さが評価されています。一方、高齢者や障害者が家庭・地域で生活できる対策や道路交通の安全対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

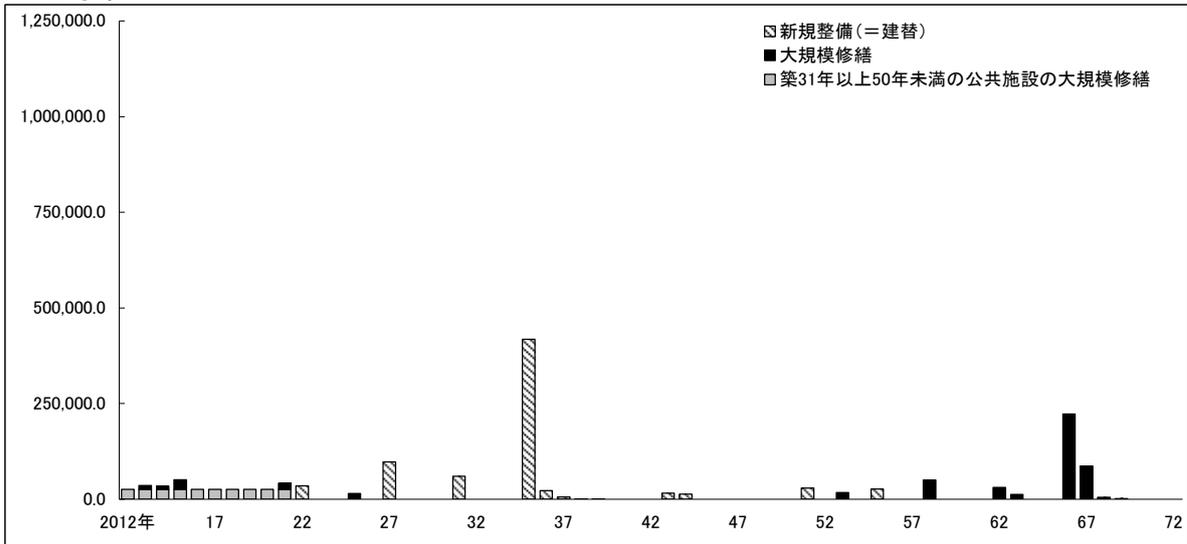
重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えるとして想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



摂陽小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約3.06㎡/人で、市平均2.97㎡/人とほぼ同じです。

摂陽小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約76.2億円、新規整備(建替え)に約72.7億円が必要な見込みです。

(14) 鈴原小学校区

1. 位置・概況



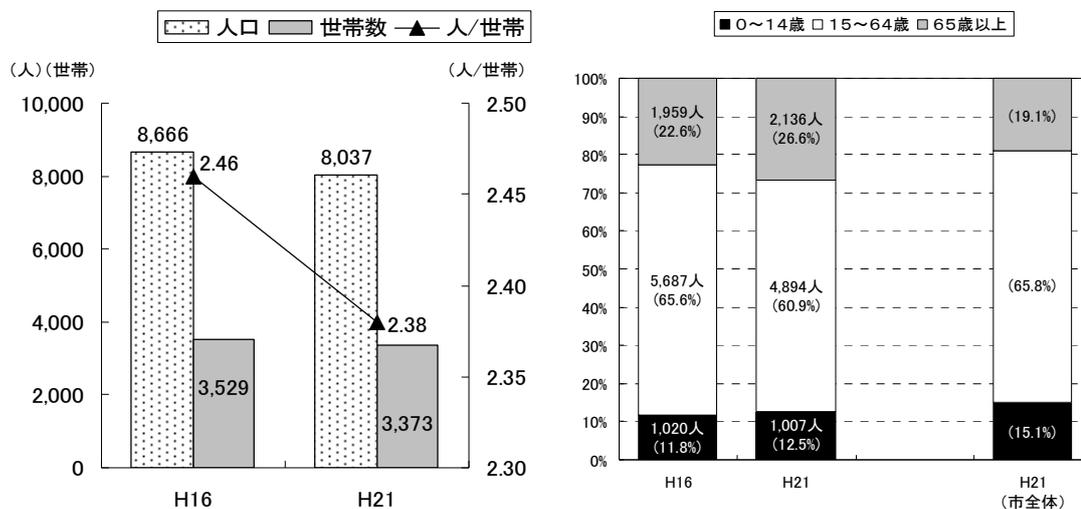
位置： 鈴原地域は市域中央のやや南に位置しています。
 交通： 地域の東端を南北に県道山本伊丹線が、地域の西部を県道米谷昆陽尼崎線が走っています。
 土地利用： 低層の戸建住宅が中心の街区です。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 8,037 人 平成21年 現在
 市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、減少傾向（▲7.3%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中17番目と最下位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,007	12.5%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	4,894	60.9%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	2,136	26.6%	減少傾向
計	8,037	100%	減少傾向



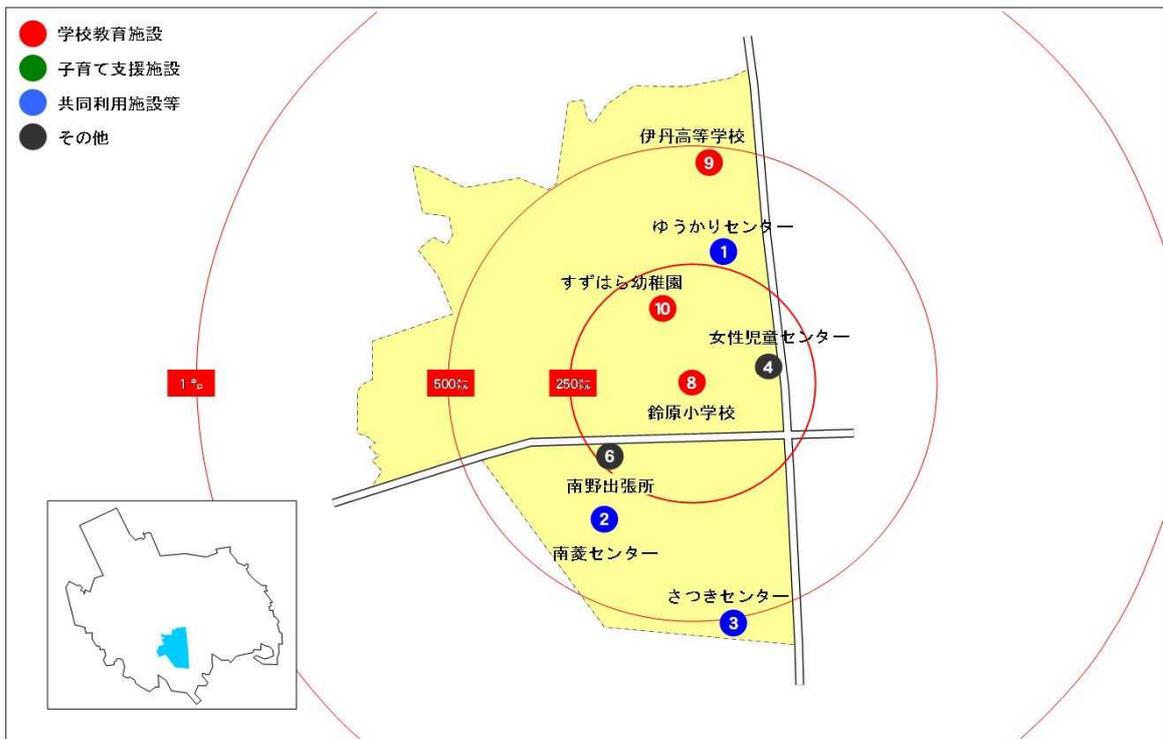
鈴原小学校区

高齢人口割合は26.6%と、市平均の19.1%と比べて高く、17地域中1番目と最上位にあります。

- ② 世帯数 3,373 世帯 平成21年 現在
平均： 2.38 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて減少傾向（▲4.4%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 115 人/ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

屋外プールのある女性・児童センター等の公共施設があります。

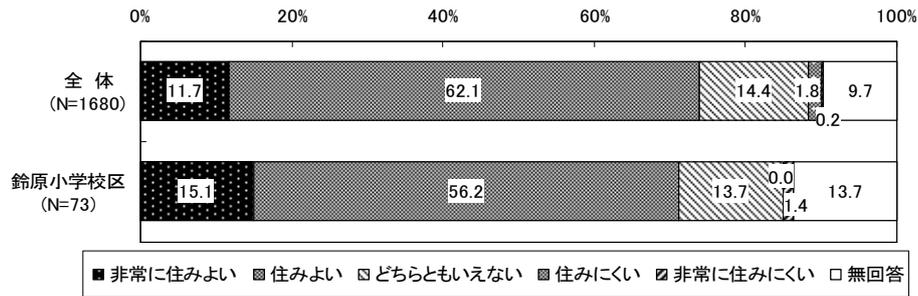


- ① 学校教育施設
鈴原小学校、すずはら幼稚園があります。伊丹市立高等学校もこの学区にあります。
- ② 共同利用施設等
鈴原小学校区内には、計3箇所の共同利用施設等があります。
- ③ その他の施設
女性児童センター、行基団地等があります。

4. 学区の特徴

公園は、南菱公園、美鈴公園があります。伝統行事等としては、スポーツクラブ21の地域交流活動が、大きな特色となっています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が71.3%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干低くなっています。



■地区の環境に満足な点上位3

	鈴原小学校区 (N=73)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	通勤・通学など、交通の便利さ

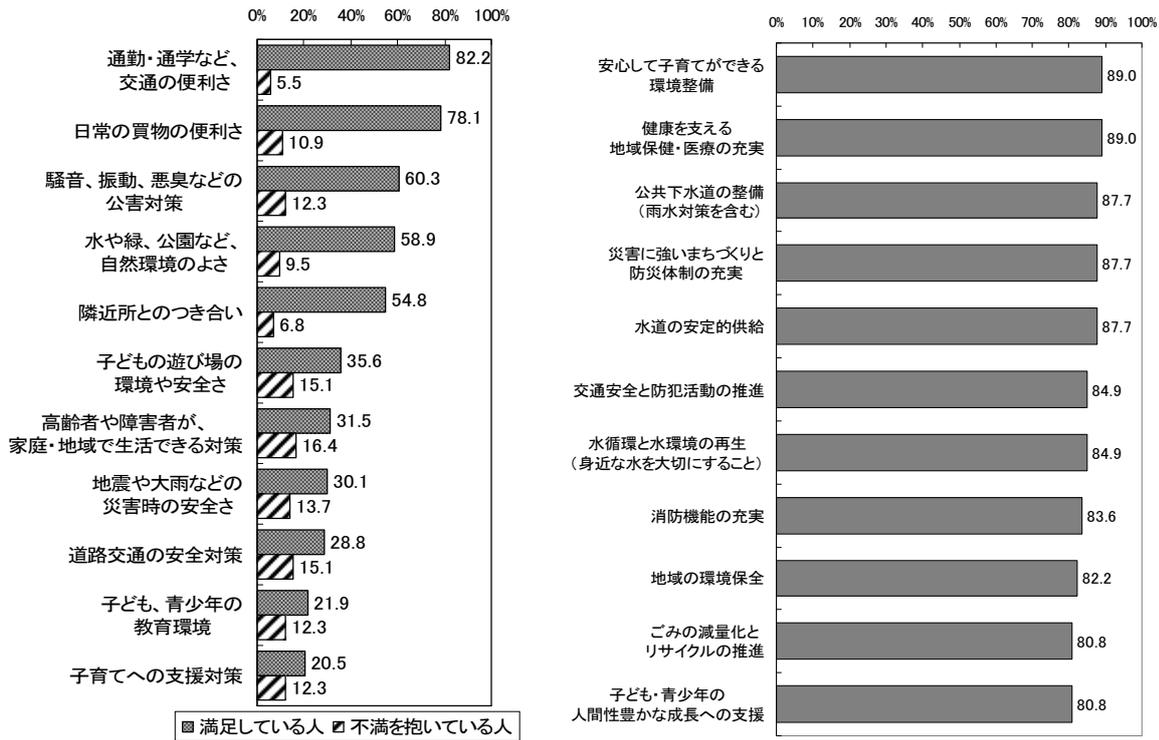
■地区の環境に不満足な点上位3

	鈴原小学校区 (N=73)	市全体 (N=1680)
第1位	高齢者や障害者が、家庭・地域で生活できる対策	道路交通の安全対策
第2位	子どもの遊び場の環境や安全さ 道路交通の安全対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位		子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、通勤・通学など交通の便利さや日常の買物の便利さが評価されています。一方、高齢者や障害者が家庭・地域で生活できる対策や子どもの遊び場の環境や安全さ、道路交通の安全対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

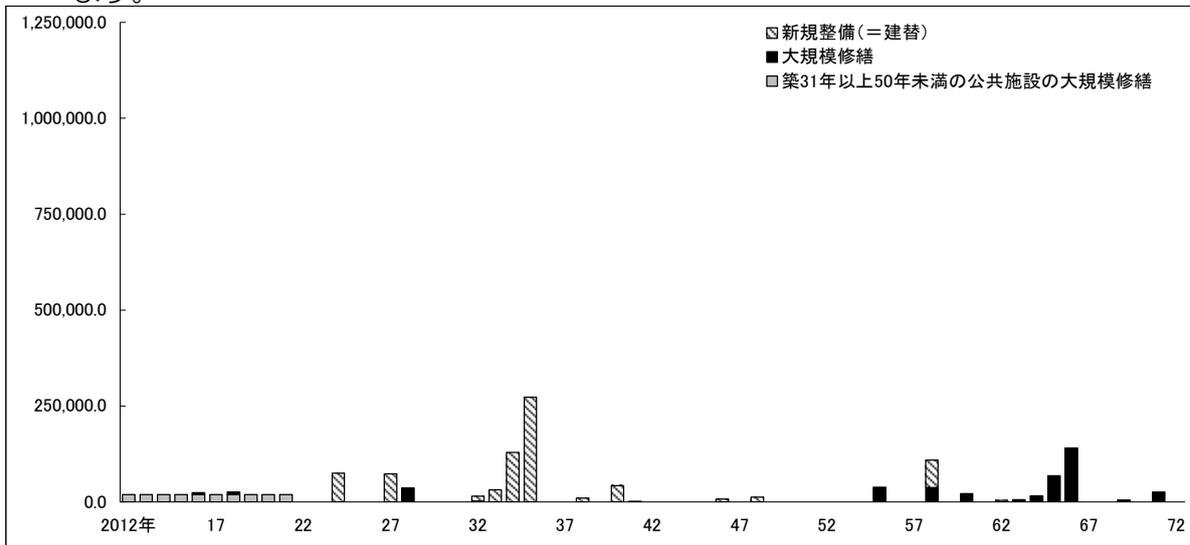
重視している政策では安心して子育てができる環境整備が最も多く挙げられています。それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



鈴原小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約2.95㎡/人で、市平均2.97㎡/人とほぼ同じです。

鈴原小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約60.3億円、新規整備（建替え）に約74.7億円が必要な見込みです。

(15) 荻野小学校区

1. 位置・概況



位置： 荻野地域は市域北部に位置し、北は宝塚市、東は川西市に面しています。

交通： 地域の北端を東西に中国自動車道が縦貫し、南北に県道山本伊丹線、県道寺本川西線が走っています。

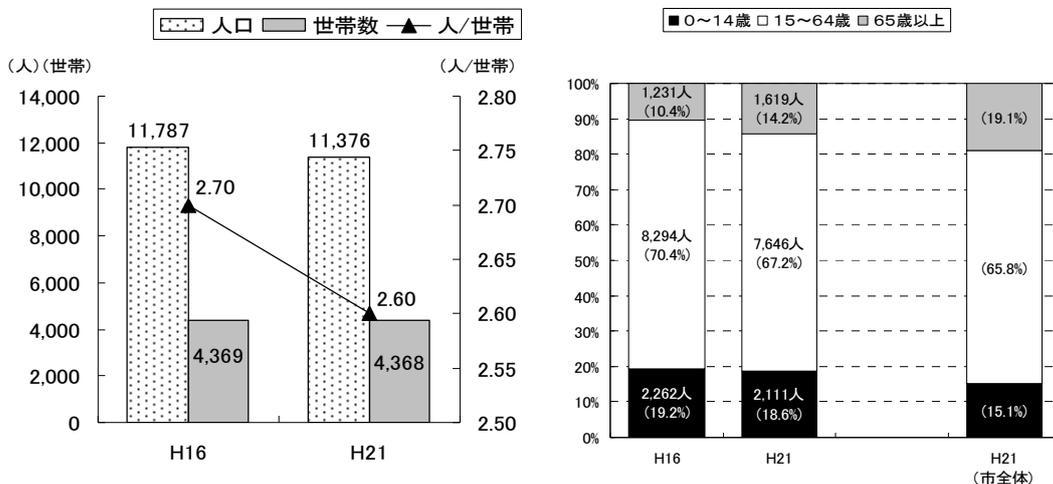
土地利用： 大半が住宅中心の土地利用です。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 11,376 人 平成21年 現在
市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、若干減少傾向（▲3.5%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中15番目と下位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	2,111	18.6%	減少傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	7,646	67.2%	減少傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,619	14.2%	減少傾向
計	11,376	100%	減少傾向



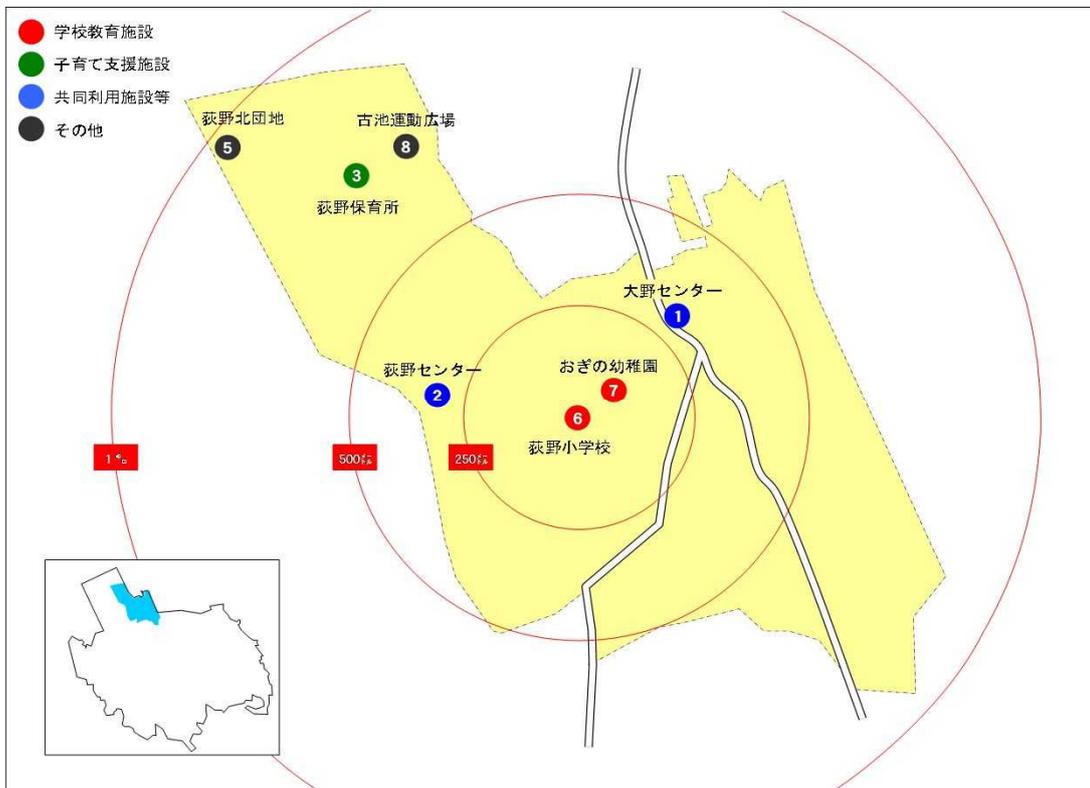
荻野小学校区

高齢人口割合は14.2%と、市平均の19.1%と比べて低く、17地域中17番目と最下位にあります。

- ② 世帯数 4,368 世帯 平成21年 現在
平均： 2.60 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて横ばい傾向（0.0%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。
- ③ 人口密度 106 人/ha
市平均80人/haと比べて、高くなっています。

3. 主な公共施設等

古池運動広場や地区公園がありますが、大規模な施設はありません。



- ① 学校教育施設
荻野小学校、おぎの幼稚園があります。中学校は大半が荒牧中学校区ですが、南部は東中学校の学区になっています。
- ② 共同利用施設等
荻野小学校区内には、計2箇所の共同利用施設等があります。

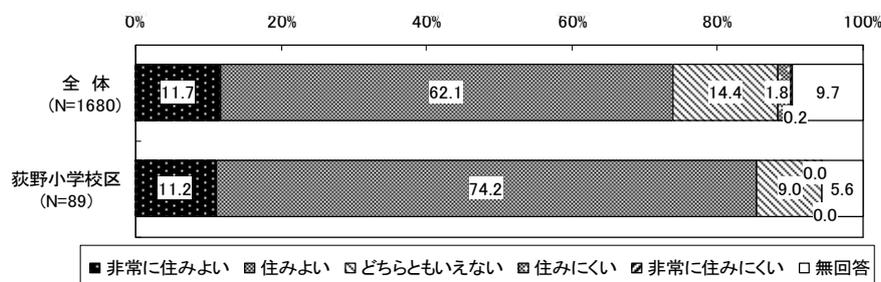
③ その他の施設

荻野保育所、荻野北団地等があります。

4. 学区の特徴

公園は、古池公園、荻野公園、若竹公園等があります。また、天神川緑地が、地域に潤いを与えています。納涼盆踊り大会や大運動会、グラウンドゴルフ大会などの三世代が交流できる事業に取り組まれています。また、防犯パトロールやふれあい福祉活動など継続的な活動も行われています。伝統行事等としては、春日神社のだんじりがあります。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が85.4%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■ 地区の環境に満足な点上位3

	荻野小学校区 (N=89)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	通勤・通学など、交通の便利さ	通勤・通学など、交通の便利さ

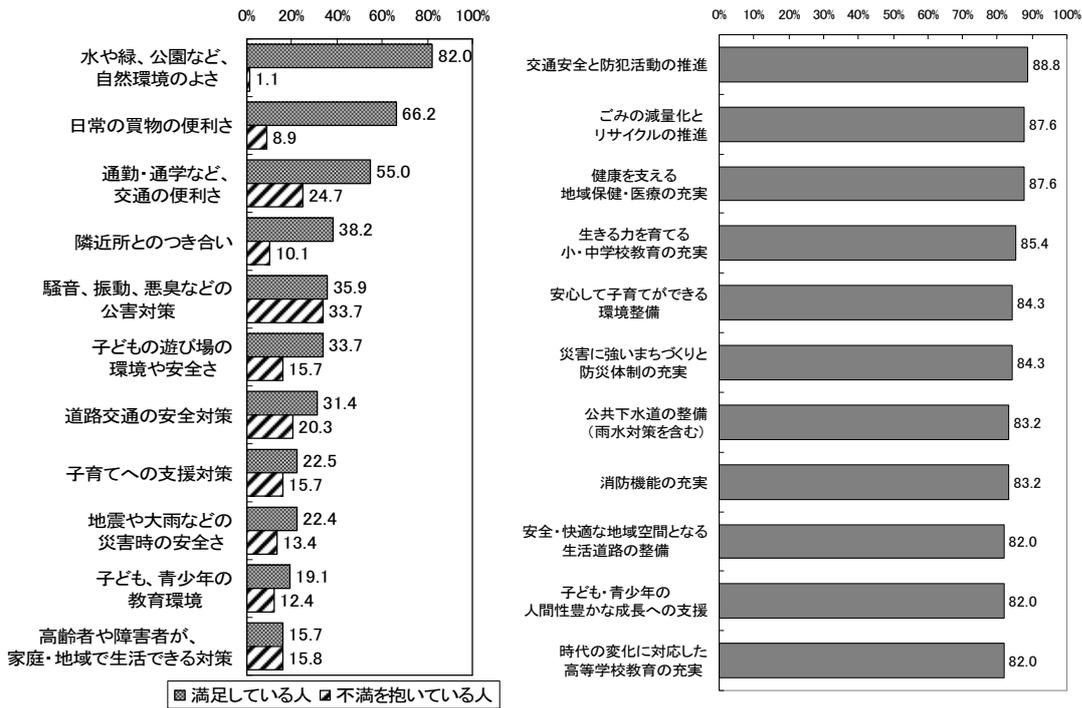
■ 地区の環境に不満足な点上位3

	荻野小学校区 (N=89)	市全体 (N=1680)
第1位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	道路交通の安全対策
第2位	通勤・通学など、交通の便利さ	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	道路交通の安全対策	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、日常の買物の便利さが評価されています。一方、騒音、振動、悪臭などの公害対策や通勤・通学など交通の便利さに不満を抱いている人が多いことがわかります。

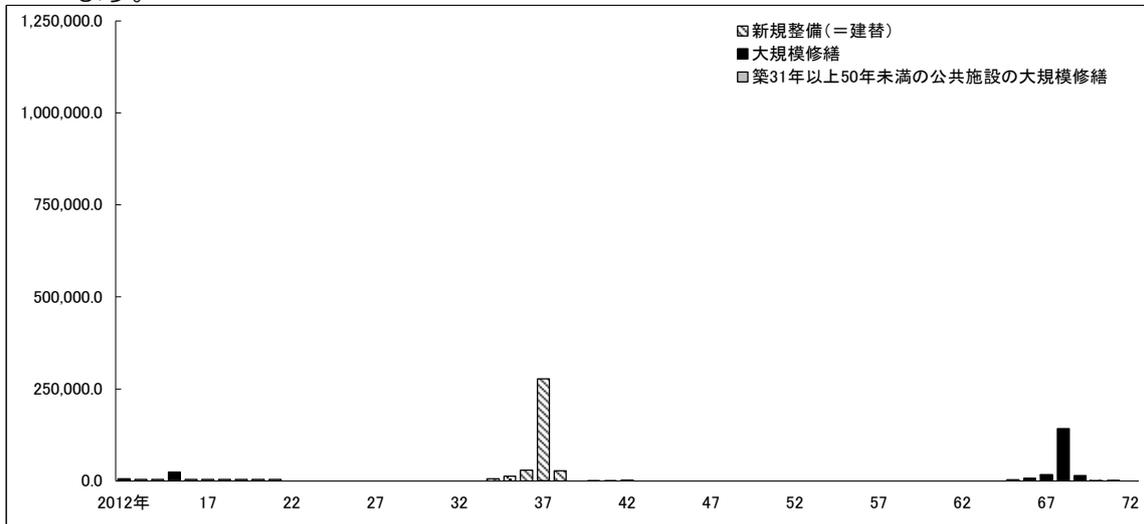
重視している政策では交通安全と防犯活動の推進が最も多く挙げられています。それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



荻野小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約1.05m²/人で、市平均2.97m²/人の半分以下になっています。

荻野小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約24.9億円、新規整備（建替え）に約35.9億円が必要な見込みです。

(16) 池尻小学校区

1. 位置・概況



位置： 池尻地域は市域西端に位置し、北は宝塚市、西は宝塚市、西宮市に面しています。

交通： 地域の東端を南北に県道尼崎宝塚線が走っています。

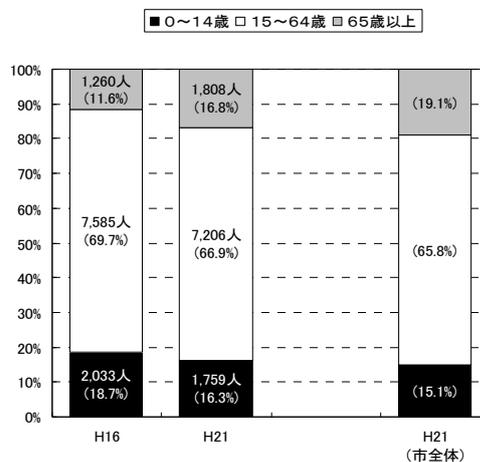
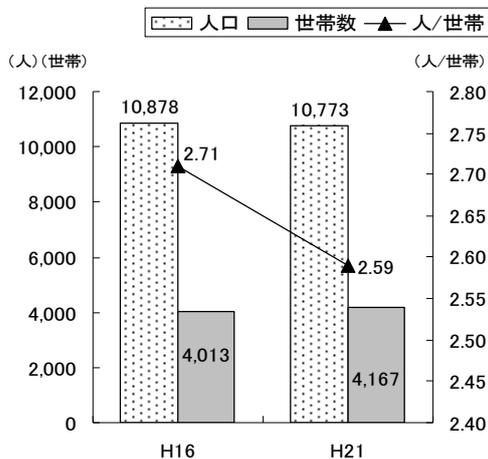
土地利用： 大半は住居系の土地利用が広がっており、天王寺川南では大型ショッピングセンターが建設中です。

2. 人口・世帯数・人口密度等

① 人口 10,773 人 平成21年 現在
市全体（1.7%）と同様に横ばい傾向（▲1.0%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中10番目と中位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,759	16.3%	横ばい傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	7,206	66.9%	横ばい傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,808	16.8%	横ばい傾向
計	10,773	100%	横ばい傾向



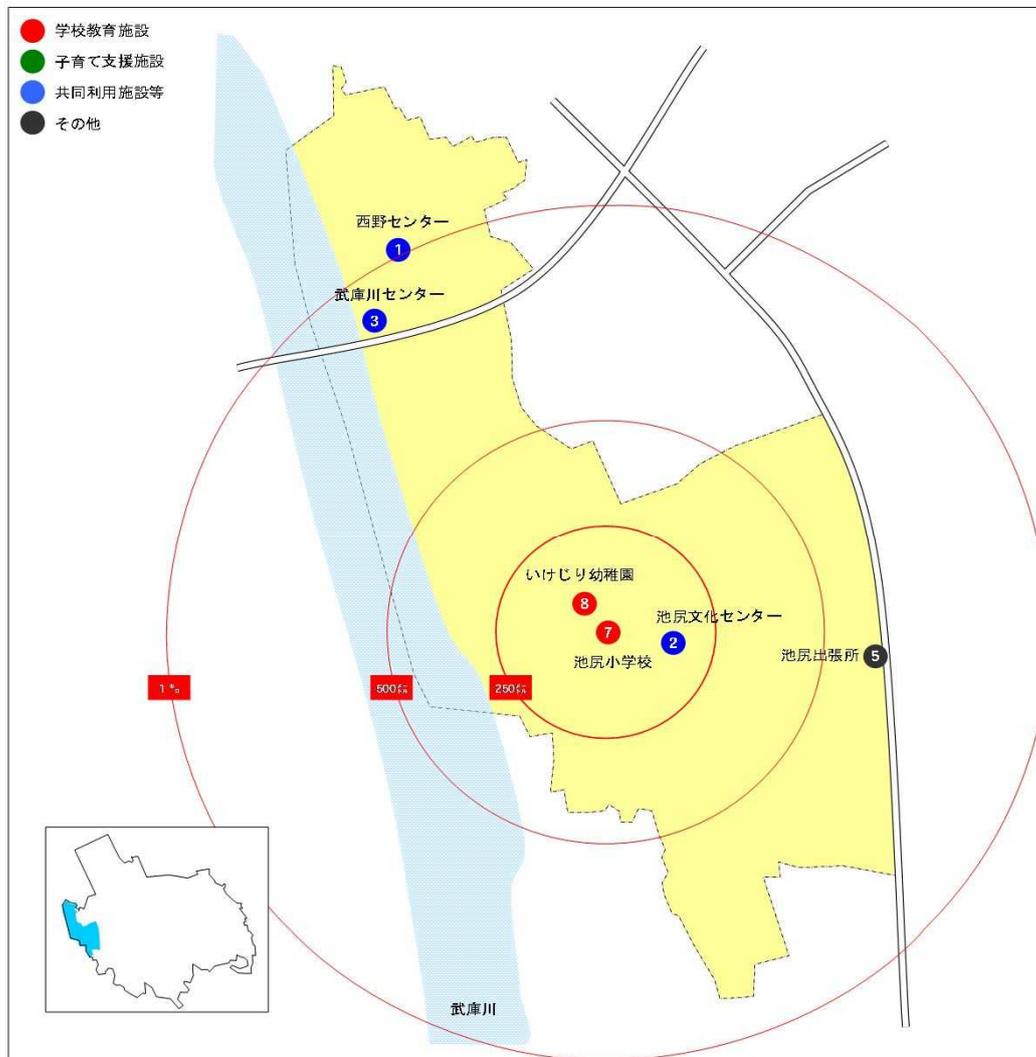
池尻小学校区

高齢人口割合は16.8%と、市平均の19.1%と比べて低く、17地域中14番目と下位にあります。

- ② 世帯数 4,167 世帯 平成21年 現在
平均： 2.59 人/世帯
市全体（6.0%）と比べて横ばい傾向（3.8%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

- ③ 人口密度 81 人/ha
市平均80人/haと比べて、同程度となっています。

3. 主な公共施設等 小学校を除き、大規模な公共施設はありません。



- ① 学校教育施設
池尻小学校、いけじり幼稚園があります。中学校は、天王寺川中学校区と松崎中学校区に分かれています。

② 共同利用施設等

池尻小学校区内には、計3箇所の共同利用施設等があります。

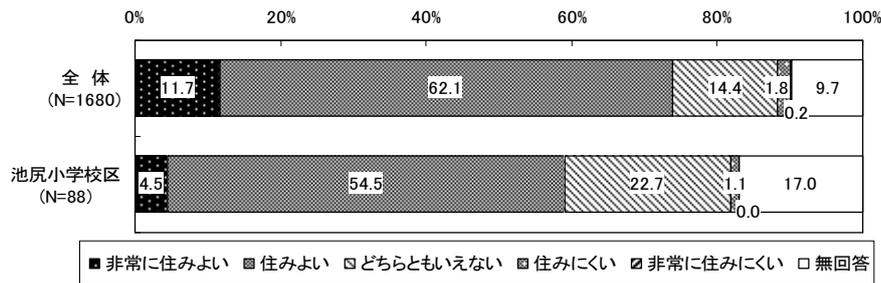
③ その他の施設

イオン昆陽池ショッピングセンターの中に、市民課西分室と図書館西分室があります。

4. 学区の特徴

公園は、西野上川原公園、西野東川原公園、西野公園等があります。また、武庫川河川敷緑地や天王寺川緑地、西野緑地などが、地域に潤いを与えています。スポーツクラブ21と合同の三世代が交流できる各種スポーツが盛んで、健康づくり事業に力を入れて取り組んでいます。また、さまざまなふれあい活動が展開されるなど、地域交流活動が大きな特色となっています。良好なまちづくりのルールを定める地区計画が1箇所指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が59.0%となっており、市全体（73.8%）に比べると低くなっています。



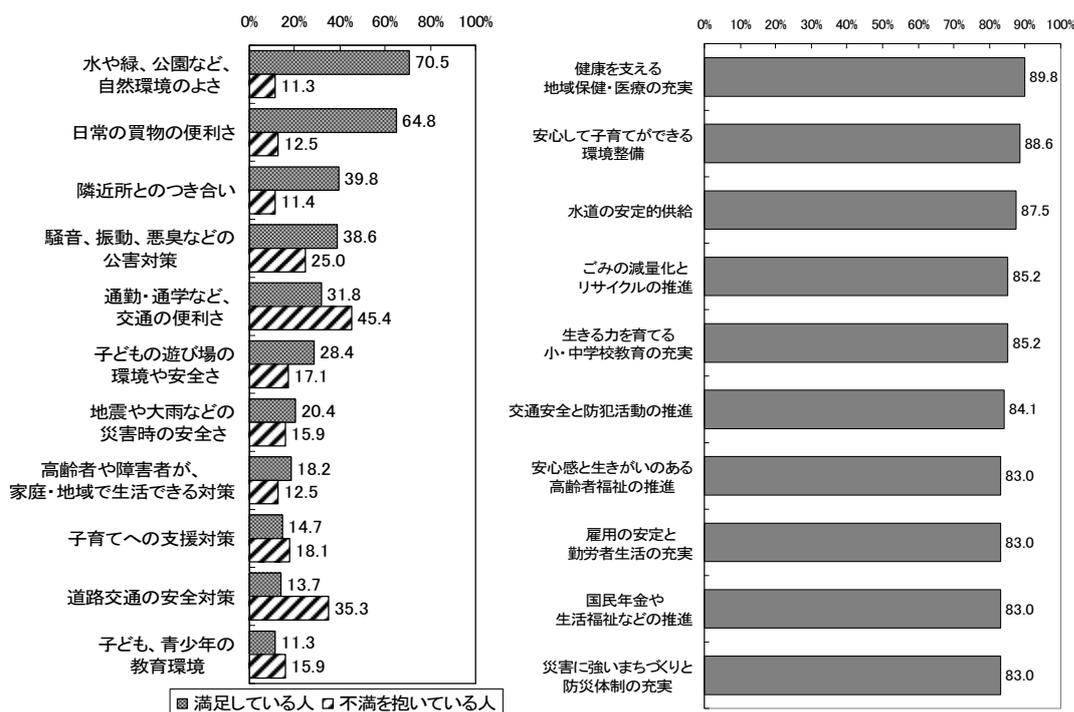
■ 地区の環境に満足な点上位3

	池尻小学校区 (N=88)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	隣近所とのつき合い	通勤・通学など、交通の便利さ

■ 地区の環境に不満足な点上位3

	池尻小学校区 (N=88)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ	道路交通の安全対策
第2位	道路交通の安全対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	子どもの遊び場の環境や安全性 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度

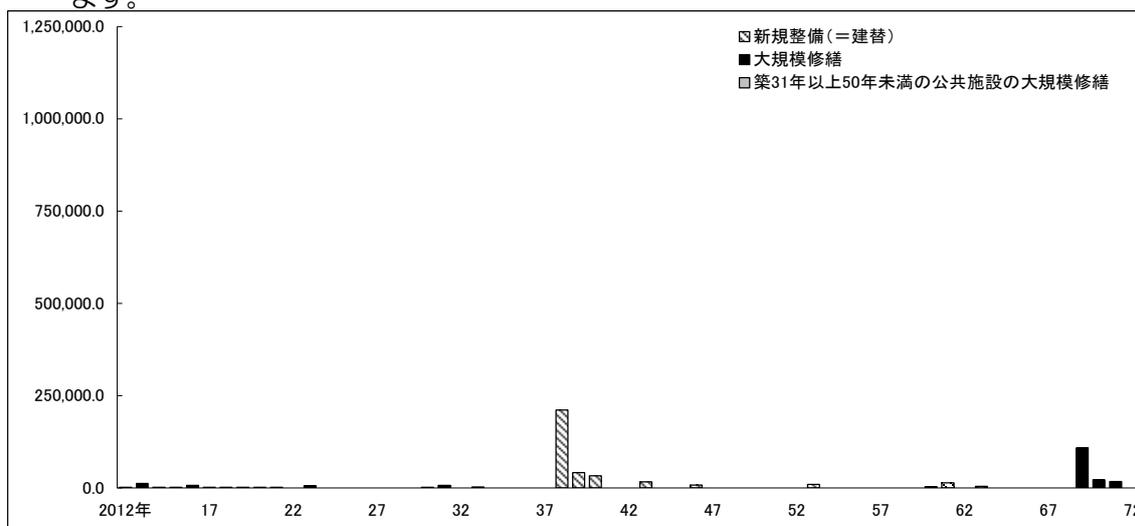


同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、日常の買物の便利さが評価されています。一方、通勤・通学など交通の便利さや道路交通の安全対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

重視している政策では地域医療の充実が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替えると想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



池尻小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約0.94㎡/人と、市平均2.97㎡/人の約3分の1になっています。

池尻小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約19.8億円、新規整備（建替え）に約34.1億円が必要な見込みです。

(17) 鴻池小学校区

1. 位置・概況



位置： 鴻池地域は市域北部に位置し、西は宝塚市に面しています。
 交通： 南北に県道中野中筋線、東西を県道姥ヶ茶屋伊丹線が走っています。
 土地利用： 大半は住宅地域ですが、県道中野中筋線東側の県道姥ヶ茶屋伊丹線の沿道、および地域東部の端ヶ池の北側に工業用地が見られます。

2. 人口・世帯数・人口密度等

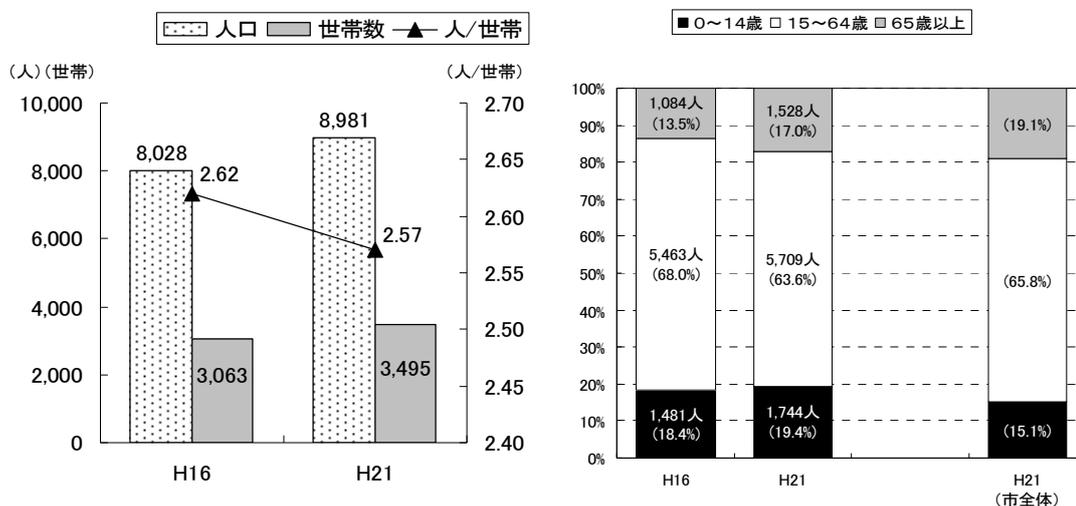
① 人口

8,981 人 平成21年 現在

市全体（1.7%）が横ばい傾向にある中、増加傾向（11.9%）にあります。過去5年間の増減率は、17地域中1番目と最上位にあります。

年齢3区分別人口：

年少人口（0～14歳）：	1,744	19.4%	増加傾向
生産年齢人口（15～64歳）：	5,709	63.6%	増加傾向
高齢人口（65歳以上）：	1,528	17.0%	増加傾向
計	8,981	100%	増加傾向



鴻池小学校区

高齢人口割合は17.0%と、市平均の19.1%と比べて低く、17地域中13番目と下位にあります。

② 世帯数

3,495 世帯 平成21年 現在

平均： 2.57 人/世帯

市全体（6.0%）と比べて増加傾向（14.1%）にあります。1世帯当たり人員は減少し、核家族化が進んでいます。

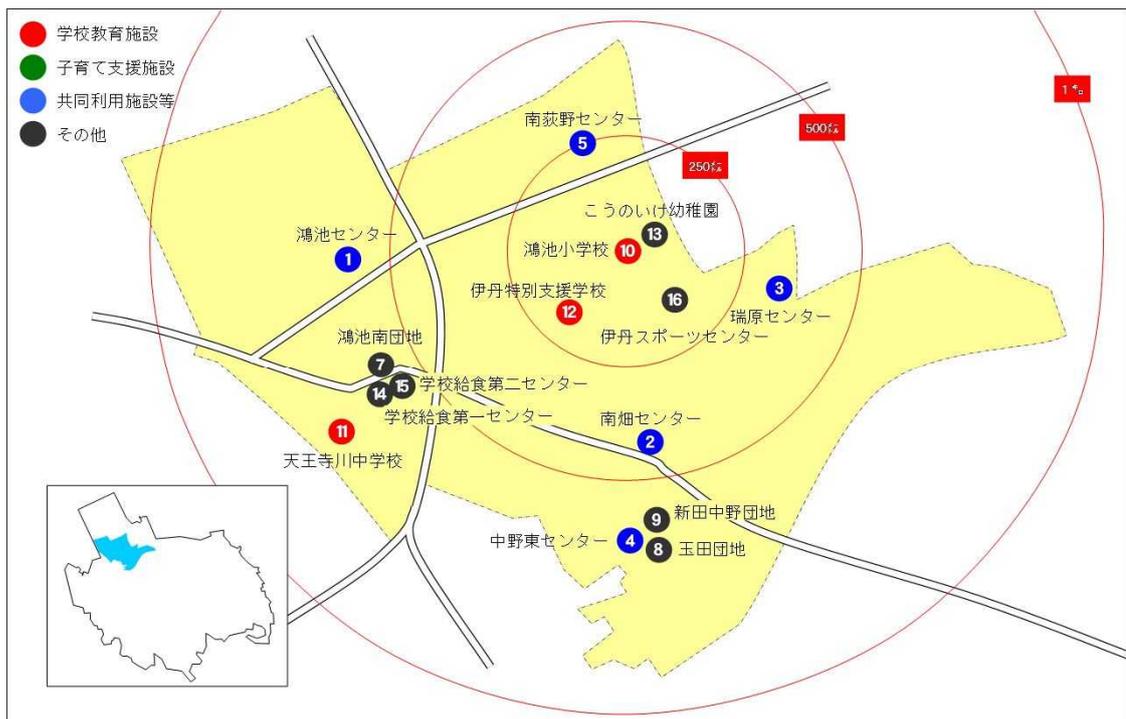
③ 人口密度

75 人/ha

市平均80人/haと比べて、同程度となっています。

3. 主な公共施設等

伊丹スポーツセンターや、給食センターがあり、市営住宅も3ヶ所あります。



① 学校教育施設

鴻池小学校、天王寺川中学校、こうのいけ幼稚園があります。瑞ヶ池に近い区域は東中学校区です。

② 共同利用施設等

鴻池小学校区内には、計5箇所の共同利用施設等があります。

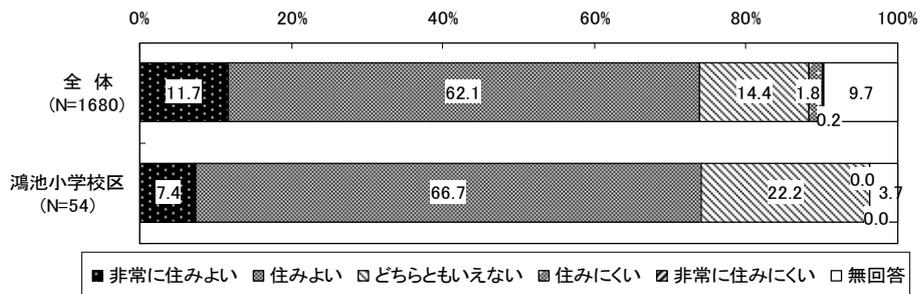
③ その他の施設

鴻池南団地、玉田団地、新田中野団地といった住宅団地や、学校給食第1・第2センター、伊丹特別支援学校等があります。

4. 学区の特徴

歴史資源（主な指定文化財）として、慈眼寺釈迦如来坐像、鴻池神社本殿、鴻池稲荷祠碑があります。公園は、鴻池第一公園、鴻池第二公園、中野行浪公園等があります。また、天神川緑地や天王寺川緑地、西池・黒池緑地が、地域に潤いを与えています。伝統行事等としては、スポーツクラブ21の地域交流活動やだんじりが、大きな特色となっています。まちづくり活動等としては、良好なまちづくりのルールを定める地区計画が3箇所、建築協定が1箇所指定されているとともに、緑地協定が1箇所指定されています。

平成19年に行った住民のアンケート調査では「住みよいと思っている人（非常に住みよい、又は住みよい）」が74.1%と評価は高くなっていますが、市全体（73.8%）に比べ、若干高くなっています。



■地区の環境に満足な点上位3

	鴻池小学校区 (N=54)	市全体 (N=1680)
第1位	水や緑、公園など、自然環境のよさ	日常の買物の便利さ
第2位	日常の買物の便利さ	水や緑、公園など自然環境のよさ
第3位	子どもの遊び場の環境や安全さ	通勤・通学など、交通の便利さ

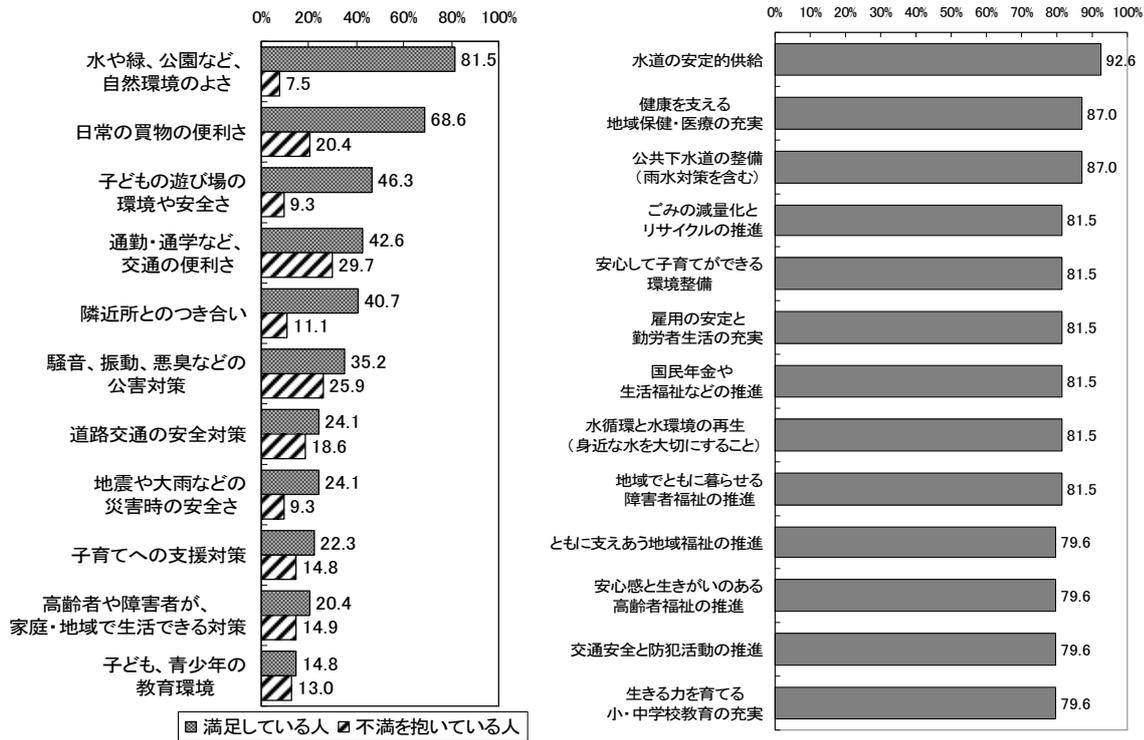
■地区の環境に不満足な点上位3

	鴻池小学校区 (N=54)	市全体 (N=1680)
第1位	通勤・通学など、交通の便利さ	道路交通の安全対策
第2位	騒音、振動、悪臭などの公害対策	騒音・振動・悪臭などの公害対策
第3位	日常の買物の便利さ	子どもの遊び場の環境や安全さ 高齢者等が家庭・地域で生活できる対策

同アンケート結果によると、水や緑、公園など自然環境の良さや、日常の買物の便利さが評価されています。一方、通勤・通学など交通の便利さや騒音、振動、悪臭などの公害対策に不満を抱いている人が多いことがわかります。

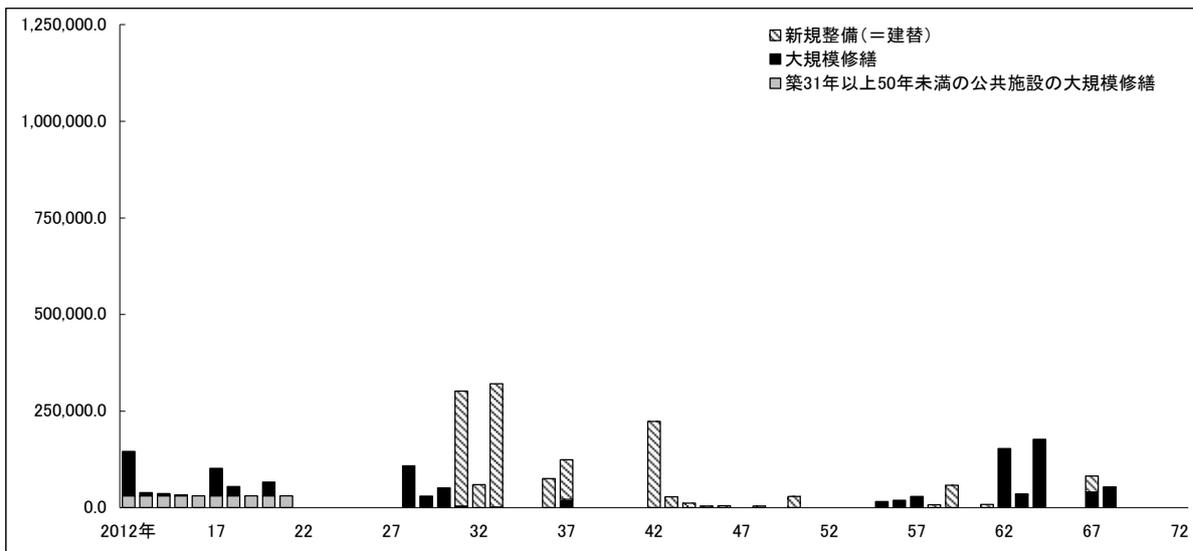
重視している政策では水道の安定的供給が最も多く挙げられていますが、それぞれの項目に特に大きな差異はなく、特定の政策課題の解決よりも、均衡の取れた施策が求められていると言えます。

■ アンケートで挙げられた満足・不満足な点、施策の重視度



5. 公共施設の築年別床面積から見た今後の予測更新費用

現有の公共施設を、築30年目に大規模修繕を行い、築60年目に同規模で建替える想定した場合に、今後60年間必要となる建設投資額の予測は、以下のようになります。



鴻池小学校区の公共施設の人口当たり延床面積は約6.38㎡/人で市平均2.97㎡/人の倍以上になっていますが、伊丹スポーツセンター等大きな施設があるためです。

鴻池小学校区では、今後60年間で公共施設の大規模修繕費に約130.8億円、新規整備(建替え)に約127.8億円が必要な見込みです。

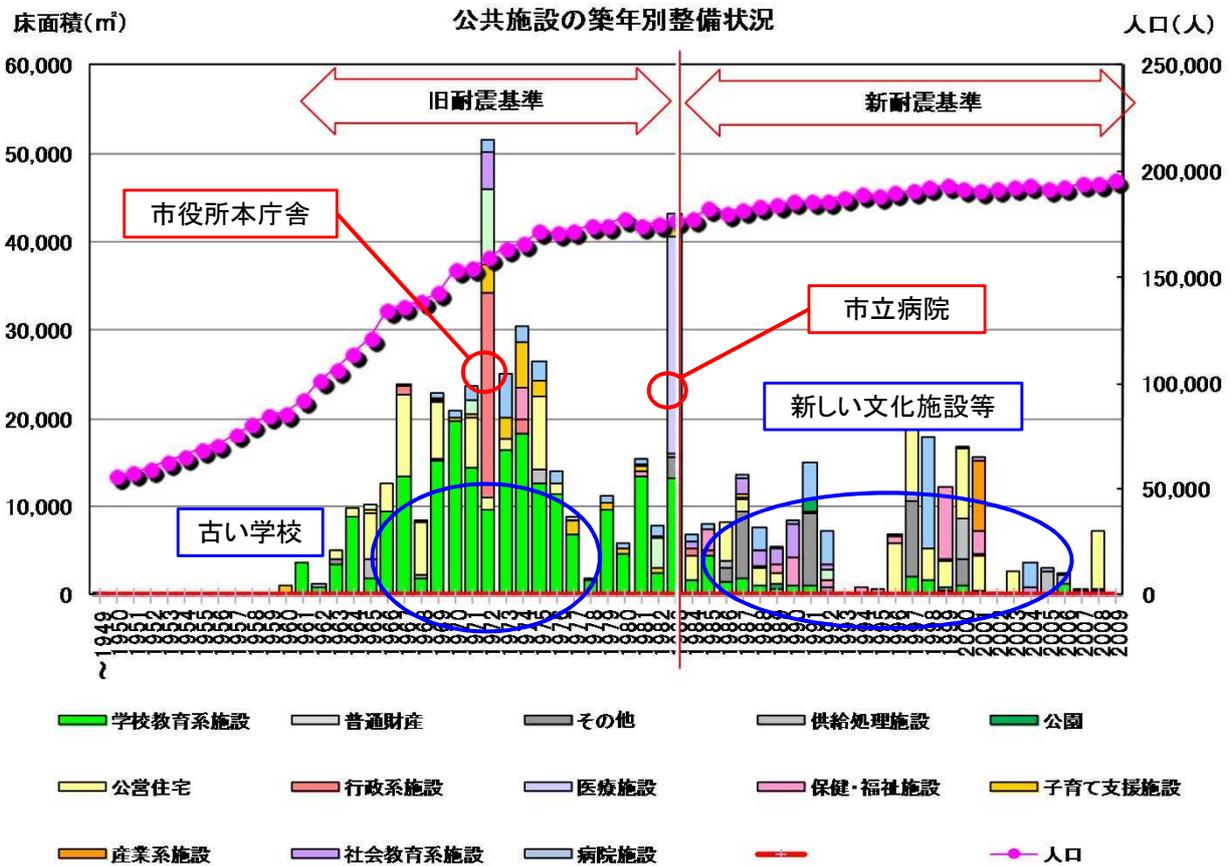
第5章 伊丹市の公共施設の課題と提言

第5章 伊丹市の公共施設マネジメントにかかる提言

I. 伊丹市の公共施設の現状

伊丹市の公共施設の総量は、床面積にして59.6万㎡（人口1人当たり3.02㎡/人）に上り、これら全てを再建築すると想定した場合、工事費が平均で30万円/㎡としても、1,788億円（直近の伊丹市の税収の約5.6年分）が必要になります。

さらに、伊丹市の会計上の有形固定資産残高は3,844億円（平成22年度末）で、仮に全ての有形固定資産が簿価通りの額での再整備が必要になるとしても、インフラを含めた市内の施設全てを更新するのに、平成22年度の公共資産整備支出（99億円）の39年分に相当する建設費が必要になる計算になります。平成22年度の市税収入（320億円）の約12年分に相当します。上下水道などについては事業収入から一部の更新費用を賄うことができますが、伊丹市が将来にわたり、これだけの公共施設の再整備を市税収入で賄うことは到底不可能です。



伊丹市の公共施設は、「古い学校と新しい文化・福祉施設」という特徴があり、市役所の庁舎と市立病院を除けば、公共施設の更新問題のほとんどが学校の建替問題です。第3章9節「小中学校」にある通り、今後35年間の間に築60年を超える小中学校の建物が増え、全ての校舎を現状の規模で建替えるには累計で約728億円を要するとみられます。この支出のうち何割かは、国の「公立学校施設整備費補助金」で賄われる可能性があります。国の財政状況から見て現在の補助金水準が確実に維持される保障はありません。

伊丹市の人口は過去一貫して増加しており、全国の平均的傾向とは異なり児童人口も全体としては増加しています。今後10年間で見れば大幅に児童人口が減少する可能性は低いとみられ、必要な校舎の規模が短期的に小さくなることはありません。一方で、児童人口の増減が地域的に偏っており、学校の規模と生徒数のバランスが取れていないという問題が生じています。また、その後の30年間をみれば児童人口の減少が予測されます。

少子高齢化で建設事業に充てられる財源も限られ、公共施設整備に係る国や県などの財政的な支援も期待できない中、今後の公共施設整備には「知恵」と「工夫」と「覚悟」が必要になります。

Ⅱ. 公共施設マネジメントの基本方針の策定

1) 公共施設マネジメントの実行へ向けて

公共施設マネジメントの実施のためには、以下の点を周知し、具体的な政策として実行することが求められます。

① 担当部署の設置

縦割りの各所管部署での管理・運営や、「管財」や「営繕」と言った対症療法的な維持管理ではなく、資産経営という視点とLCCベースでの長期保全・長寿命化といった視点に立って、行政トップのリーダーシップの下、全庁的に横串をさし、横断的に公共施設マネジメントに取り組む部署を設置。

② 情報開示と説明責任

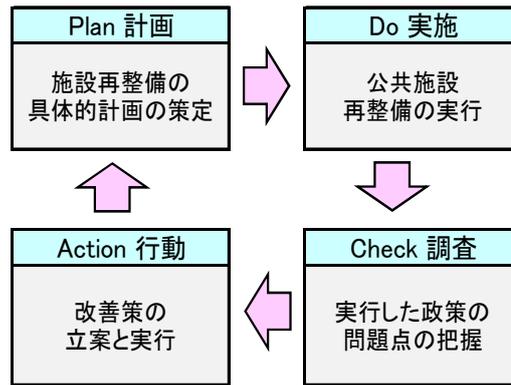
公共施設に関する一元的なデータの整理と定期的な更新を行う。その手段の一つが公共施設白書の作成であり、白書を通じて市民に情報を開示し、説明責任を果たし、市民との対話を行い、公共施設に関する費用負担や施設利用のあり方について合意形成していく。

③ 基本方針と基本計画

公共施設の現状把握と市民との対話を経て、基本方針と基本計画を策定し、具体的なケースで、公共施設マネジメントを実際に取り組んでみるのが有効。老朽化に伴う更新が必要な施設について、モデル事業として市民や民間企業のアイデアを募集し、事業化を検討することも考えられる。

④ 第三者によるモニタリングとPDCAサイクル

基本計画等が適切であるか、実行が計画通りに進行しているかを、有識者による第三者委員会でモニタリングすることが欠かせない。モニタリングによって計画と実行のあり方が改善され、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによって公共施設マネジメントが適切に実行される。



2) 公共施設マネジメントの方向性

今後の公共施設マネジメントの方針として、以下を原則とすべきです。

- ① 公共施設数は増やさない
 既存施設の更新費用が不足する状況においては、新規に公共施設を建設することはできない。公共施設の建設にあたっては、スクラップ・アンド・ビルドを原則とし、公共施設の総量をこれ以上増やさないようにすべき。
- ② 延床面積の総量圧縮
 財政見通しや市民ニーズの変化をふまえ、公共施設の総量を圧縮する必要がある。
- ③ 再配置（統廃合）
 財政見通しや市民ニーズをふまえ、現状の施設数と規模で更新するのではなく、再配置（統廃合）を行って全体での規模を縮小する。
- ④ 単一機能から複合機能化へ
 一つの事業には一つの施設が必要という考えを改め、行政目的別に施設を持つのではなく、複合的な利用・運営を進める。
 また、既存施設の用途を転用し、公共施設の多機能化・複合化を進める。公共施設同士の複合化だけでなく、民間の商業施設や住宅などとの合築・複合化なども企画する。幅広く民間の提案を受入れ、多機能化・複合化を図る。
- ⑤ 地域への移譲
 共同利用施設等のコミュニティ施設は自治会等地域へ移譲する。
- ⑥ 優先順位の整理
 老朽化の進行状況や市民ニーズ等をふまえ、更新等の優先順位をつける。
- ⑦ ライフサイクルコストの観点
 計画的な維持・修繕、予防保全に取り組み、施設のライフサイクルコストを低減する。物理的維持管理のみならず、経済的効率性の観点や金利（ファイナンスコスト）の観点など、複合的な視点から施設運営計画を立案する。

⑧ 効果的・効率的な運営・維持管理

運営・維持管理にかかるコストを施設別に把握し、各施設利用者や運営状況の情報把握を徹底する。これにより、効率的なコスト削減計画を策定し、収支を改善する。利用率・稼働率を向上させ、受益者負担の適正化を図る。

以上を実践することで、公共施設の運営を効率化し、低コストで優良な公共サービスを提供する基礎を築くことができます。

3) P R E (Public Real Estate : 公的不動産の管理・運用) の視点

市が保有する有形固定資産残高は、土地も含めた簿価(会計上の資産価額)は3,844億円あり、今後その更新に支出を要しますが、逆の見方をすれば、現在市民1人当たり約20万円の資産を保有していることを意味します。この市民共有の資産を有効活用することによって、将来の財政負担をできるかぎり軽減し、少ない支出でより大きな効果を上げる公共施設整備を計画することが重要です。

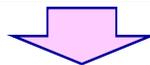
市の保有する土地は、公園を含む施設用地で232.4万㎡(市民1人当たり12㎡/人)、道路の底地を含めると468.4万㎡(市民1人当たり24㎡/人)あります。これらを有効かつ高密度に活用し、豊かな緑と伝統ある美しい景観を守った上で、その価値を最大化する取り組みを行って、将来の公共施設の再整備に係る財政負担を極力軽減する方策を考えることが重要です。

公共施設の再整備は、財政・公有資産活用・組織改革・まちづくりなど、複合的な視点から、市の保有する公共施設のマネジメントを考える、「公的不動産」の活用問題として捉える必要があります。

一般論として、公共施設の再整備についてP R E (公共不動産の活用) の視点から効率化を図るためには、以下のプロセスで再整備計画を具体化をすることが有効です

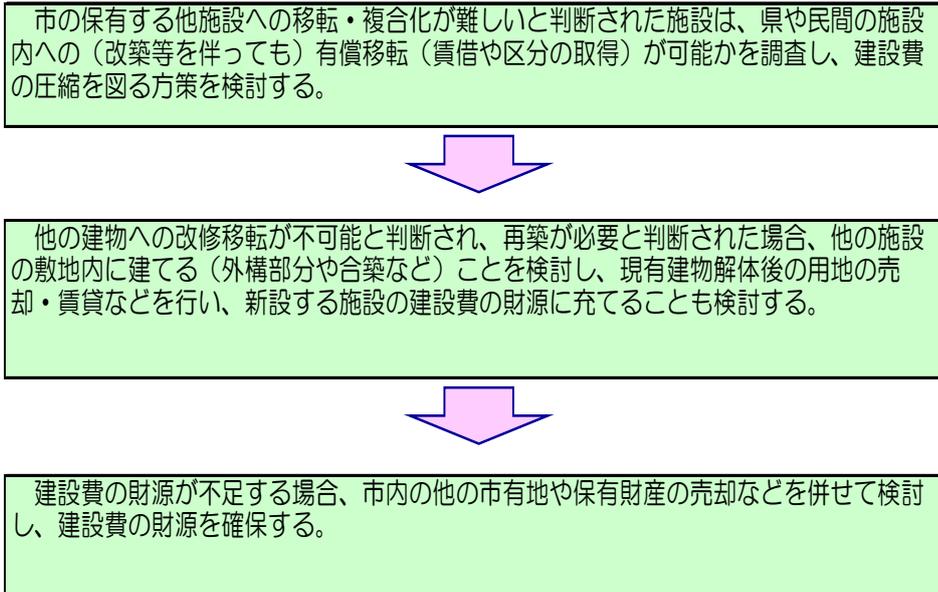
■再整備の検討プロセスのパターン例

今後老朽化しその物理的機能が著しく低下した施設は、再整備の必要性和必要な規模・機能を、利用者だけでなく幅広い市民の意見を集約し、再確認する。
また、民間企業・社会福祉法人・NPO法人など、公的機関以外の主体による施設整備の可能性があるかなどを幅広く意見聴取し、公民連携の可能性を探る。



市による機能の維持・再整備が必要と判断された施設は、市が保有する他の施設内に移転・改修して設置する余地がないか、部署を越えて情報を共有し、可能性を検討する。





4) 公共施設の複合化

「公共施設の複合化」とは、主に下記の類型で公共施設を整備することを意味します。

- 複数の公共的機能の同一建物内での複合化（ラストホール、きららホールなど）
- 公共施設の民間施設との複合化（伊丹商工プラザや図書館西分室など）
- 隣接市町村や国・県などとの運営の複合化

これらの手法を伊丹市が所有／運営する既存の公共施設にも適用することで、公共施設運営の合理化と公有資産の有効活用を進めることができます。

特に、基礎自治体の資産で多くを占める学校の「複合化」は極めて重要です。

5) スケルトンインフィルの視点

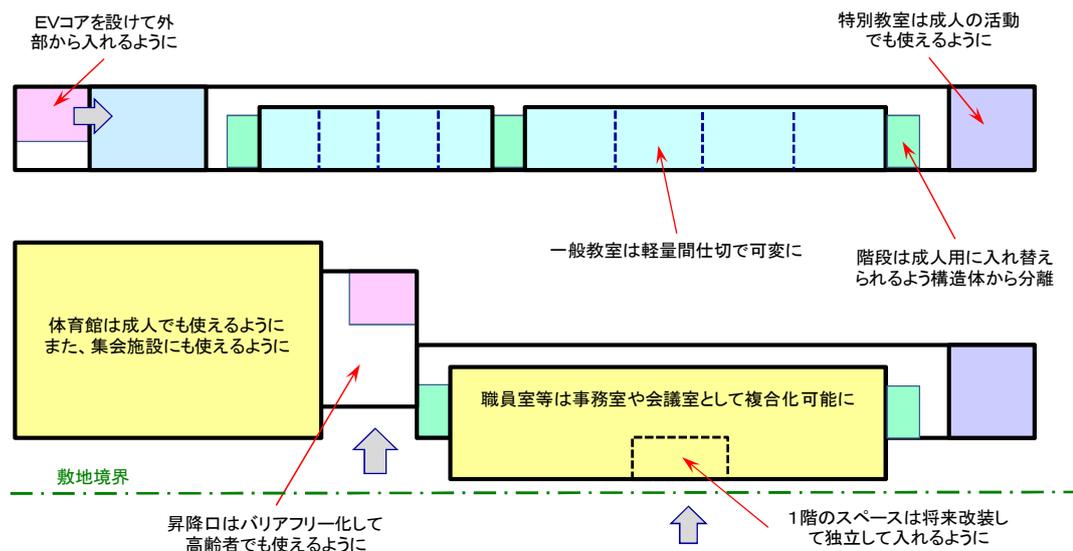
他市の事例では、児童生徒の減少にともない縮小した学校施設を他の公共施設と複合化し、有効に活用する取り組みなどがあります。

本市においては、児童生徒数の大幅な減少がない中で、校舎の建て替え時期を迎えることが予測されます。このため、その時点で必要な規模の校舎を建設しなければなりません。その後の児童生徒数の減少については、本市も避けられず、学校施設の余剰空間が生じると想定されます。

学校校舎の建て替え後の40年間には、地域コミュニティの拠点である共同利用施設等をはじめ、現在築15年前後の福祉施設や多目的施設等が老朽化の時期を迎えます。よって児童生徒の減少により生じた学校の空きスペースをこれらに転用できる建物計画にしておく必要があります。

そのためには、「スケルトンインフィル方式」（次頁イメージ図参照）など長期的な可変性を持った建築形体を採る必要があります。

■スケルトンインフィルの学校建築のイメージ



Ⅲ. 公共施設再整備のアイデア

今後の公共施設再整備を考える上で避けて通れない、公共施設の縮小や統廃合に関し、公有資産の有効活用の観点から、いくつかのアイデアを示します。

これらのアイデアは、公共施設の再整備に関する考え方を市民のみなさまと共有するためのアイデアであり、具体的な施策を検討しているわけでは決してありません。公共施設マネジメントの手法の一例として、市民のみなさまとともに考えるきっかけになればと思います。

① 小中学校の再配置

今後40年間の長期では、児童人口が減少することが確実であり、地域コミュニティの単位とは別に、小中学校の校数を減らすことで、再整備に必要な支出を縮減することは、もっとも効果的かつ直接的な支出削減につながります。

仮に、現在の校数を将来の児童人口の減少（第Ⅱ章の通り予測では約25%減少）に応じて統廃合した場合、将来に必要な財政負担は以下の通り縮減されます。

■全校を現在の規模で建て直す場合

小学校

$$300 \text{ 千円/㎡} \times 143,872 \text{ ㎡} = 43,161,600 \text{ 千円}$$

17 校 8,463 ㎡/校

中学校

$$300 \text{ 千円/㎡} \times 76,628 \text{ ㎡} = 22,988,400 \text{ 千円}$$

8 校 9,579 ㎡/校

計 66,150,000 千円 (A)

■現在の規模水準で校数を減らす場合

小学校

$$300 \text{ 千円/㎡} \times 110,020 \text{ ㎡} = 33,006,000 \text{ 千円}$$

$$13 \text{ 校に統合} \quad 24\% \text{ 減 (13/17校)} \quad 8,463 \text{ ㎡/校}$$

中学校

$$300 \text{ 千円/㎡} \times 57,471 \text{ ㎡} = 17,241,300 \text{ 千円}$$

$$6 \text{ 校に統合} \quad 25\% \text{ 減 (6/8校)} \quad 9,579 \text{ ㎡/校}$$

計 50,247,300 千円 (a)

一) 学校用地の売却

小学校

平均土地面積

$$4 \text{ 校空地} \times 16,666 \text{ ㎡/校} = 66,664 \text{ ㎡}$$

中学校

$$2 \text{ 校空地} \times 21,260 \text{ ㎡/校} = 42,520 \text{ ㎡}$$

$$109,184 \text{ ㎡}$$

$$60 \text{ 千円/㎡} \times 109,184 \text{ ㎡} = 6,551,040 \text{ 千円 (b)}$$

※面大減価を考慮した地価の予測値 10.9 億円/校

差引 (a) - (b) 43,696,260 千円 (B)

(A) - (B) 差額 225 億円

② 学校規模の縮小

学校数を維持し、通学範囲を維持した上で、学校の規模を25%縮小する場合の政策効果は、以下の通りです。

同規模建替え		25%縮小		
66,150,000 千円	×	0.75	=	49,612,500 千円 (C)

(A) - (C) 差額 165 億円

③ 文化・多目的施設等に係る支出削減

義務教育の学校は、児童がいる限り維持しなければならない施設ですが、劇場や博物館などの文化施設や、コミュニティ施設などは、必ずしも市民の生活に必須のものではありません。

限られた財源の中で、どの程度の公共サービスが提供されるべきか考えなければなりません。

本市はこれまでにさまざまな文化施設やコミュニティ施設などを建設してきましたが、市民以外の利用が多い施設も見受けられるなど、市の支出でこれらの施設を維持すべきかは、今後、政策的に議論のあるところです。

また、古くない文化施設なども、いずれは老朽化します。その際に、更新せず施設を廃止するとすれば、将来の建替に要する支出を抑制することができます。

仮に、以下の施設が老朽化した時点で建替えを行わないとすれば、公共施設の将来の更新支出が次の通り縮減されます。

第5章 伊丹市の公共施設マネジメントにかかる提言

共同利用施設	17,828.35 m ²
多目的施設	29,711.87 m ²
劇場・ホール	19,257.93 m ²
博物館など展覧施設	12,636.11 m ²
※美術ギャラリー伊丹を除外	
図書館（新図書館）	6,153.03 m ²
※分館・分室の床面積は他施設に含まれている	
スポーツ施設	13,513.16 m ²
高齢者施設（健常者が利用するもの）	12,054.06 m ²
その他社会福祉施設	2,364.74 m ²
計	113,519.25 m ²

$$300 \text{ 千円/m}^2 \times 113,519 \text{ m}^2 = 34,055,700 \text{ 千円}$$

もちろん、これらを一切建替えないことは極めて困難、かつ現実的な政策ではありません。しかし仮に、施設の更新時に延床面積ベースで半数に減らすとした場合、将来の更新支出は以下の通り縮減されます。

同規模建替え		半分の規模		
34,055,700 千円	×	0.50	=	17,027,850 千円

差額 170 億円

④ 施設の黒字化／廃止／民営化

第3章で取り上げた通り、伊丹市の主要な施設の運営管理や光熱水費に、年間36億円を要しています。

- 料金の値上げや経費削減によるキャッシュフローの黒字化
- 指定管理料を要さない利用料により賄う指定管又は民営化
- 事業の廃止

のいずれかを行えば、施設の運営に要する支出はなくなります。

当然ながら、施設のコストを全廃することはできませんが、運営コストを25%削減すれば、今後40年間に以下の金額を積立てることが出来ます（具体的な期間が不定のため金利は無視します）。

年運営経費		40 年		0.25
3,608,569 千円	×	40 年	×	0.25
				=
				36,085,690 千円

差額 361 億円

第5章 伊丹市の公共施設マネジメントにかかる提言

仮に、小中学校の再配置、文化・福祉施設の更新時半減、施設の運営経費の25%削減により基金の積立てを全て行った場合、将来の公共施設の更新のための財政負担は以下の通り縮減されます。

小中学校の再配置効果…①	225 億円
文化・多目的施設の半減効果…③	170 億円
運営経費の25%縮減効果…④	361 億円
縮減効果	756 億円

すべて同規模で建替る場合の更新費用 (市営住宅を除く)	2,278 億円 (40年平均で 56.9 億円/年)
--------------------------------	--------------------------------

-) <u>756 億円</u>
1,522 億円
(40年平均で 38 億円/年)

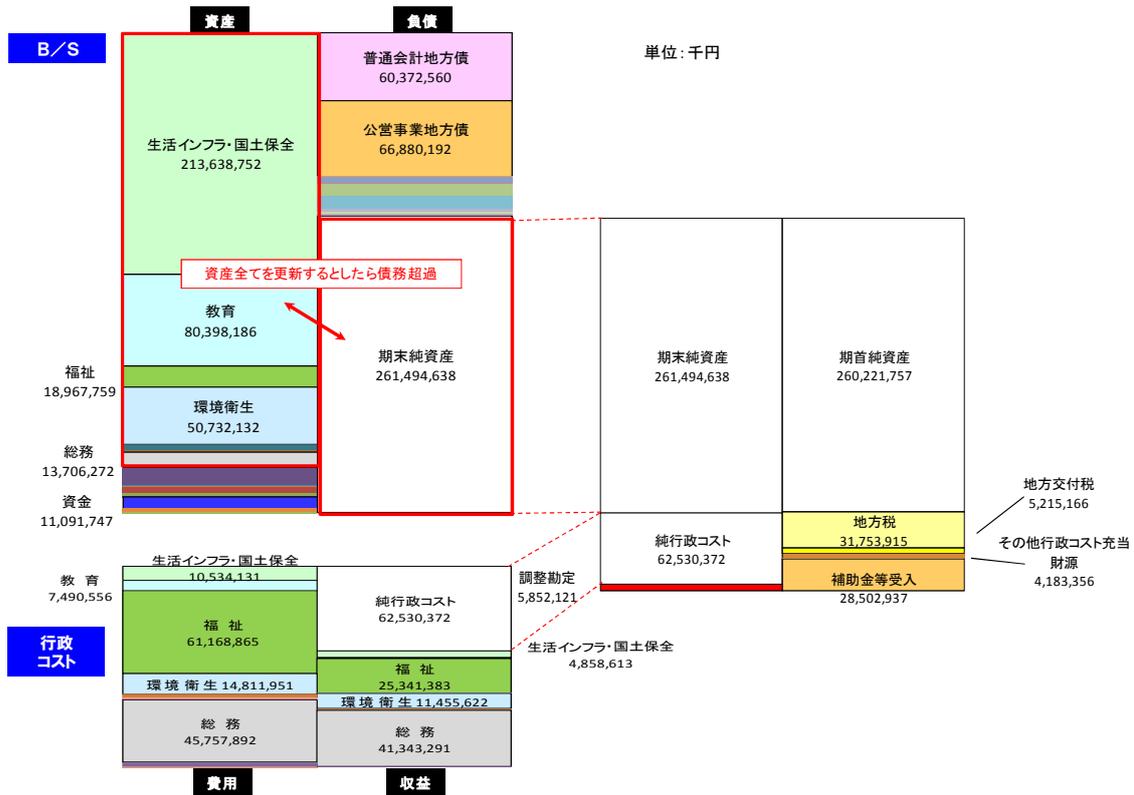
これにより、あくまで仮定の計算ですが、過去5年間の投資的経費(約35.7億円)に近付けることができます。

IV. 公会計改革と資産経営

多くの地方公共団体がこれまで取り組んできた行政改革は、いわばキャッシュフローベース（現金収支の改善努力）によるものですが、さらに、バランスシート改革、即ち資産／負債の改革が課題になると考えます。

企業会計と同様の発生主義と複式簿記による新地方公会計制度では、開始貸借対照表の作成及び固定資産台帳の整備にはじまる、公共施設／インフラの正確な現状把握が求められており、資産／負債の改革を促すものとなっています。

■平成22年度の伊丹市の財務諸表（総務省方式改訂モデル）を基にグラフ化したもの



公共施設の更新問題とは、公共サービスの維持に必要な、将来の更新を行うに際して、必要な支出の引当が行われておらず、更新支出が隠れ債務になっているという問題でもあります。

公共施設の予測更新支出を、退職給付と同様に引当てた場合、伊丹市の純資産（平成22年度末の連結会計で2,645億円）はゼロ以下になり、実質債務超過です。

会計上は、公共施設・インフラ資産の更新支出を引当てる義務はなく、伊丹市の財政は健全ですが、公共施設・インフラの将来の更新支出が、今後の財政運営に重くのしかかることに違いはありません。

一方、伊丹市は“土地”という資産を保有しています。公有地を有効に活用し、将来の市政に活かすことが求められます。また、今ある公共施設を市民共有の財産として有効活用することによって、将来の公共施設の更新に備え、今後の豊かな伊丹市を築くことができます。

資産／債務改革の大きな柱である、公共施設マネジメントと公会計と連動させ、老朽化に伴う更新費用を隠れ債務と認識し、適切に公共施設マネジメントを実行し、行政経営を進化させることが問われています。

委員会・事務局名簿

委員会・事務局名簿

委員長	根本 祐二	東洋大学経済学部教授
委員	南 学	神奈川大学人間科学部特任教授
	松尾 貴巳	神戸大学大学院経営学研究科教授
	田中 栄治	神戸山手大学現代社会学部環境文化学科准教授
	松井 正道	伊丹市総合政策部長
	二宮 叔枝	伊丹市教育委員会事務局管理部長
	藤田 萬豊	財団法人 地方自治研究機構事務局長
	事務局	大西 俊己
榊村 義則		伊丹市総合政策部政策室行政経営担当主幹
今村 勉		伊丹市総合政策部政策室交通政策・企画調整担当主幹
小山 雅之		伊丹市総合政策部政策室主査
野中 孝志		伊丹市財政基盤部財政企画室財政企画課主査
原田 隆司		伊丹市総務部総務室管財課主任
木村 哲也		伊丹市都市活力部都市整備室営繕課副主幹
田原 安治		伊丹市教育委員会管理部施設課副主幹
宮木 哲男		伊丹市教育委員会管理部施設課主査
桑野 斉		財団法人地方自治研究機構調査研究部主任研究員
佐藤 大輔		財団法人地方自治研究機構調査研究部研究員

基礎調査機関

阿部 博人	株式会社公共ファイナンス研究所代表取締役
伊東 良平	株式会社公共ファイナンス研究所研究員

(順不同)

伊丹市公共施設マネジメントに関する調査研究

－平成24年3月発行－

伊丹市総合政策部政策室

〒664-8503 兵庫県伊丹市千僧1-1

電話 072 (783) 1234 (代表)

財団法人 地方自治研究機構

〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目14番16号 太陽銀座ビル2階

電話 03 (5148) 0661 (代表)

印刷 日本印刷株式会社